

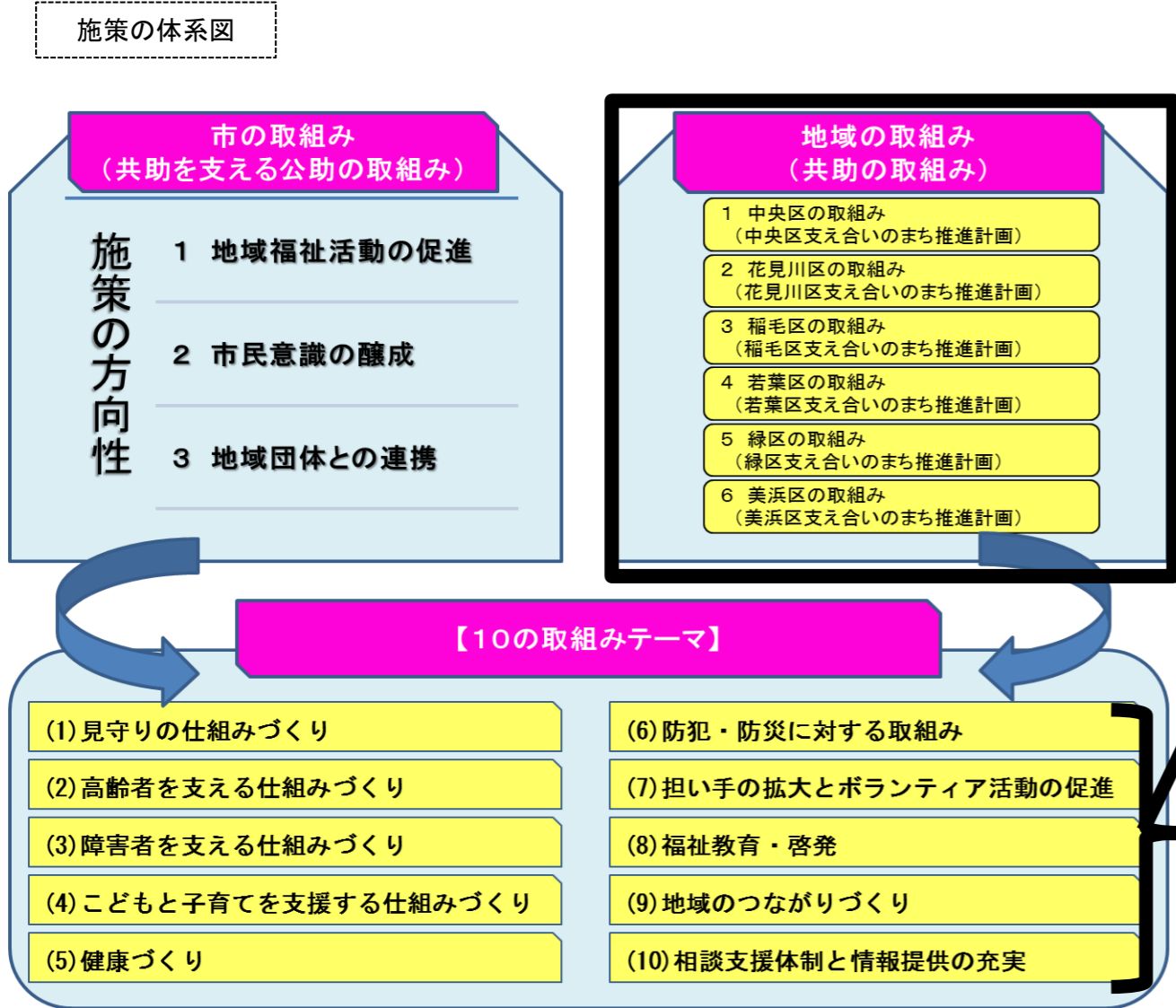
区支え合いのまち推進計画の
平成30年～令和2年度の推進状況
～地域の取組み（共助の取組み）～

千葉市保健福祉局健康福祉部地域福祉課

～この資料の見方について～

本計画では、地域福祉を推進する活動主体により、取組みの体系を「地域の取組み(共助の取組み)」と、「市の取組み(公助の取組み)」に区分しています。地域住民等が主体となって実施した「地域の取組み(共助の取組み)」は、「第4期支え合いのまち千葉 推進計画」第5章(P46～)に掲載しており、「区支え合いのまち推進計画(区計画)」として位置づけられています。

本資料は、区ごとに各地区部会エリアの重点取組項目を、10の「取組みテーマ」に分類し、平成30年～令和2年度の「実績」、「達成状況」を集計、記載しています。また、各地域の参考となるよう、各区で実践された事例も紹介しています。



進捗状況の総括

主な成果	目標に対する達成状況について、(A)以上の割合が9割を超えている(93%)ため、概ね順調に推進することができた。		
今後の課題	安定した事業運営のため、担い手の確保、町内自治会(役員の交代)・関係団体との連携、活動拠点、活動資金の確保が必要である。 コロナ禍で如何に活動を継続していくか。		
◆取組みテーマ別達成状況			
取組みテーマ	重点取組項目数	達成状況	主な取組み実績
1 見守りの仕組みづくり	12	S: 1 A: 8 B: 3 C: 0	見守り活動は、重点取組課題として取り組んだ地区(以下:重点取組地区という)12地区のうち、8地区で実施(中央区全体としては13地区で実施)。また、1地区では見守り活動を啓発する取り組みを行い、1地区では見守り活動の必要性について住民アンケートを検討した。なお、2地区では民生委員が見守りを行っているが、見守り体制づくりについて検討した。
2 高齢者を支える仕組みづくり	18	S: 2 A: 16 B: 0 C: 0	いきいきサロンは、重点取組地区9地区で実施した。また、散歩クラブ、シニアリーダー体操、グランドゴルフ等、高齢者の健康づくりに関する取組は、重点取組地区8地区(実施地区17地区)で各地区の実情に合わせた取組を実施。高齢者の福祉活動の促進に関する取組は、福祉施設でのボランティア活動を重点取組地区1地区が実施し、高齢者の交流、社会参加の促進を図った。

各地区部会エリアの取組み項目について、達成状況を記載しています。
【達成状況の目安】
S: 目標を上回った
A: 概ね目標を達成した(8～10割)
B: 一部目標を達成した(5～7割)
C: 大きく目標を下回った(～4割)

各地区部会エリアの重点取組項目数の合計。(複数テーマにまたがる重点取組項目の場合は、複数回カウントしています。)

市が定める取組みテーマ番号

進捗状況の詳細

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性
都地区部会エリア 【人口・世帯数】 9,243人、4,623世帯 【町内自治会数】 10町内自治会 【高齢化率】 24.4% 【地域の特徴】 ○都町、都町1～3丁目を対象としたエリア。千葉市の政令都市移行に伴い、前編の取組が実施されたが、中央区の都町と若葉区の加賀町に行政区が分かれたことに伴い、分離別立に変わった。	③ 見守り体制をつくる	1	地区部会が、ひとり暮らし高齢者等に対して、日常的な見守りや声かけによる安否確認を行い、地域で安心して暮らせるよう、継続して見守り活動を実施する。また、遅れている町内自治会へも推進を促す。	既に実施している2町内自治会の内、1町内自治会で対象者の再調査と協力員の再募集を行い、見守り体制の強化を図った。 都地区を4ブロックに分け、各ブロックで月3回程度、防犯パトロールを行っており、見守りに類似した活動を行っている。 また、平成30年10月より、1町内自治会が、民生委員、社協及び社会福祉法人と協働して、独居高齢者を対象に実施している買い物支援の実施回数を月2回から月4回に拡大した。この取り組みは見守り活動の一環となっている。 なお、地区部会の役員会等で、実施中の町内自治会に対する働きかけも、継続して実施している。	A	新型コロナウイルスの影響が大きかった令和2年度を除き、概ね目標を達成した。これまでの都町東部自治会館から都町自治会館へ会場を変更し、感染症対策を取りながら、再開に向けて準備中である。しかしながら、担い手不足の問題も解決には至っていない。 今後、安定した事業運営のための担い手の確保が必要である。	新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。
	⑥ ふれあいいきいきサロンの充実	2	いきいきサロンクラブとして平成25年7月から始めている。活動月は健康講座や健康体操、手芸等、寄附品は、グランドゴルフを継続して実施し、定期的な活動を通して、高齢者の閉じこもり防止や仲間づくりを図る。	地区部会が、月1回、60歳以上の高齢者を対象に、健康体操やグランドゴルフ、手芸等を内容としたいきいきサロンを実施し、高齢者の閉じこもり防止や仲間づくりに取り組んだ。 また、地区部会が、70歳以上のひとり暮らし高齢者を訪問し、千葉市指定ゴミ袋を配布する週末型訪問の際、いきいきサロンの案内を併せて配布し、参加者の増加に努めている。	A		

地区部会エリアの概要

区が定める取組みテーマ番号

目次

1. 中央区	…	1ページ
2. 花見川区	…	21ページ
3. 稲毛区	…	29ページ
4. 若葉区	…	39ページ
5. 緑区	…	49ページ
6. 美浜区	…	55ページ

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度～令和2年度)

主な成果	・目標に対する達成状況について、(A)以上の割合が9割を超えている(93%)ため、概ね順調に推進することができた。
今後の課題	・安定した事業運営のため、担い手の確保、町内自治会(役員の交代)・関係団体との連携、活動拠点、活動資金の確保が必要である。 ・コロナ禍で如何に活動を継続していくか。

令和3年度の取組の方向性	・基本的な感染対策を行いながら、出来る取組から実施する。 ・基本的な感染対策を行いながら、関係者や参加者の多い大規模なイベントを除き、少人数の取組又は人数を減らして実施する。 ・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。
--------------	--

◆取組みテーマ別達成状況

【達成状況の目安】 S:目標を上回った。 B:一部目標を達成した。(5～7割)
A:概ね目標を達成した。(8～10割) C:大きく目標を下回った。(～4割)

取組みテーマ	重点取組項目数	達成状況	主な取組み実績	
1 見守りの仕組みづくり	12	S	1	・見守り活動は、重点取組課題として取り組んだ地区(以下:重点取組地区という)12地区のうち、8地区で実施(中央区全体としては13地区で実施)。また、1地区では見守り活動を啓発する取り組みを行い、1地区では見守り活動の必要性について住民アンケートを検討した。なお、2地区では民生委員が見守りを行っているが、見守り体制づくりについて検討した。
		A	8	
		B	3	
		C	0	
2 高齢者を支える仕組みづくり	18	S	2	・いきいきサロンは、重点取組地区9地区で実施した。また、散歩クラブ、シニアリーダー体操、ランドゴルフ等、高齢者の健康づくりに関する取組は、重点取組地区8地区(実施地区17地区)で各地区の実情に合わせた取組を実施。高齢者の福祉活動の促進に関する取組は、福祉施設でのボランティア活動を重点取組地区1地区が実施し、高齢者の交流、健康維持や社会参加の促進を図った。
		A	16	
		B	0	
		C	0	
3 障害者を支える仕組みづくり	4	S	0	・地域行事での障がい者施設の物品販売への協力、障がい者施設での作業補助や行事の手伝い、障がい者理解のための勉強会の実施等、障がい者の理解や住民との交流の機会を設ける取り組みは、重点取組地区4地区(実施地区16地区)で各地区の実情に合わせた取組を実施した。
		A	4	
		B	0	
		C	0	
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり	15	S	1	・セーフティウォッチャー等、子ども達の安全を見守る取組は重点取組地区6地区(実施地区17地区)で実施。また、子ども向けの地域行事や放課後子ども教室等、子ども達との交流を図る取組は重点取組地区2地区(実施地区17地区)で実施。子育てサロンは重点取組地区7地区(実施地区16地区)で各地区の実情に合わせた取組を実施し、子ども達の健全育成を図った。
		A	14	
		B	0	
		C	0	
5 健康づくり	8	S	1	・散歩クラブ、シニアリーダー体操、ランドゴルフ等、高齢者の健康づくりに関する取組は、重点取組地区8地区(実施地区17地区)で各地区の実情に合わせた取組を実施し、高齢者の交流や健康維持を図った。
		A	7	
		B	0	
		C	0	
6 防犯・防災に対する取組み	27	S	0	・避難所運営委員会は重点取組地区8地区(実施17地区)で実施。子ども達の安全を見守る取組は重点取組地区6地区(実施17地区)で実施。3期計画当初に作成した「ふくし・防災ガイドマップ」により重点取組地区2地区(実施17地区)で情報提供を行っている。防犯の取組は重点取組地区5地区(実施17地区)で実施。防災訓練は重点取組地区6地区(実施17地区)で実施した。
		A	23	
		B	4	
		C	0	
7 担い手の拡大とボランティアの促進	7	S	0	・高齢者等の日常生活のちょっとした困りごと等をお手伝いする助け合い活動については、重点取組地区3地区(実施地区8地区)で実施した。また、地域住民の福祉力の向上や福祉活動への参加促進を図る講座等については、重点取組地区4地区(実施地区16地区)で実施し、担い手の拡大に努めた。
		A	7	
		B	0	
		C	0	
8 福祉教育・啓発	12	S	0	・子ども向けの地域行事等を通じて交流を図る取組は重点取組地区2地区(実施17地区)で実施した。障がい者と住民との交流の機会を設ける取り組みは重点取組地区3地区(実施16地区)で実施した。住民の福祉力向上のための講座は重点取組地区4地区(実施16地区)で実施した。児童に対する福祉教育は重点取組地区3地区(実施16地区)で実施した。
		A	12	
		B	0	
		C	0	
9 地域のつながりづくり	14	S	0	・重点取組地区7地区で地域運営委員会や地域ケア会議等を通じて地域課題の解決に向け協議した(区内の地域運営委員会は4地区)。高齢者等の日常生活のちょっとした困りごと等をお手伝いする助け合い活動は、重点取組地区3地区(実施8地区)で取り組んだ。地域行事等を通じて住民同士の交流を図る取り組みは重点取組地区4地区(実施17地区)で実施した。
		A	13	
		B	1	
		C	0	
10 相談支援体制と情報提供の充実	12	S	0	・重点取組地区7地区で地域運営委員会や地域ケア会議等を通じて地域課題の解決に向け協議した(区内の地域運営委員会は4地区)。重点取組地区3地区で相談支援の環境づくりに取り組んだ。重点取組地区2地区を含む全地区部会で広報紙を発行し福祉情報の提供を行った。
		A	11	
		B	1	
		C	0	
合計	129	S	5	
		A	115	
		B	9	
		C	0	

◆コロナ禍における好事例等

<p>【地域のサロンで実施した新型コロナウイルス感染症予防の啓発のための講座を、民生委員を通じて区内の地域住民にまで広めた事例】</p> <p>白旗台地区部会エリアで、令和2年12月21日(月)に花輪町自治会館において、千葉市環境保健研究所より講師を招き、「ウイルスによって起こる病気と検査の話」をテーマに市政出前講座を実施。全国的に新型コロナウイルス感染者も増加している時期であったが、事前の検温、参加者同士の距離をとり、換気を行いながらの実施で、内容もわかりやすく好評であった。</p> <p>一方、毎年、支援・援助技術の向上と区内の民生委員・児童委員相互の交流を図る事を目的に、委員が一堂に会し開催していた「中央区民生委員児童委員全体研修会」においては、二回目の緊急事態宣言が発出されたこともあり、全委員参加での開催が困難となった。</p> <p>そこで、コロナ禍において、民生委員及び支援対象者の関心が最も高いと思われる前述の講座を、3月の区民児協定例理事会において、各地区会長向けに企画・実施。講師の了承のもと、当日資料と併せて、講演の様子を撮影し、動画のDVDを各地区へ配布。各地区民児協において地区民児協定例会において当該動画を上映。担当民生委員を介して支援対象者に対して注意喚起を行うことにより、区内の新型コロナウイルス感染症予防の一助となった。</p>

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況 (平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1 見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支える仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S: 目標を上回った。
A: 概ね目標を達成した。(8～10割)
B: 一部目標を達成した。(5～7割)
C: 大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の実組の方向性		
都地区部会エリア 【人口・世帯数】 9,243人、4,623世帯 【町内自治会数】 10町内自治会 【高齢化率】 24.4% 【地域の特徴】 ○都町、都町1～3丁目を対象としたエリア。千葉市の政令都市移行に伴い、前組織の都加曾利地区部会が、中央区の都町と若葉区を加曾利町に行政区が分かれたことに伴い、分離分割し設立に至った。	③ 見守り体制をつくる	1	地区部会が、ひとり暮らし高齢者等に対して、日常的な見守りや声かけによる安否確認を行い、地域で安心して暮らせるよう、継続して見守り活動を実施する。 また、遅れている町内自治会へも推進を促す。	既に実施している2町内自治会の内、1町内自治会で対象者の再調査と協力員の再募集を行い、見守り体制の強化を図った。 都地区を4ブロックに分け、各ブロックで月3回程度、防犯パトロールを行っており、見守りに類似した活動を行っている。 また、平成30年10月より、1町内自治会が、民生委員、社協及び社会福祉法人と協働して、独居高齢者を対象に実施している買い物支援の実施回数を月2回から月4回に拡充した。この取り組みは見守り活動の一環となっている。 なお、地区部会の役員会等で、未実施の町内自治会に対する働きかけも、継続して実施している。	A	新型コロナウイルスの影響が大きかった令和2年度を除き、概ね目標を達成した。 これまでの都町東部自治会館から都町自治会館へ会場を変更し、徹底した感染対策を取りながら、再開へ向け準備中である。 しかしながら、担い手不足の問題も解決には至っていない。 今後、安定した事業運営のための担い手の確保が必要である。	・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。 ・活動の中で最も要望が強く、リスクも少ないと思われる手芸の再開の準備をしている。		
			⑥ ふれあいいきいきサロンの充実	2	いきいきサロン都クラブとして平成25年7月から始めている。遇数月は健康麻雀や健康体操、手芸等、奇数月は、グランドゴルフを継続して実施し、定期的な活動を通して、高齢者の閉じこもり防止や仲間づくりを図る。	地区部会が、月1回、60歳以上の高齢者を対象に、健康体操やグランドゴルフ、手芸等を内容とした、いきいきサロンを実施し、高齢者の閉じこもり防止や仲間づくりに取り組んだ。 また、地区部会が、70歳以上のひとり暮らし高齢者を訪問し、千葉市指定ゴミ袋を配布する歳末慰問の際、いきいきサロンの案内を併せて配布し、参加者の増加に努めている。	A		
			⑨ 子育てサロンの充実	4	月に1度、育児サークルとして「いちごみるく」を開催し、乳幼児から就学前の子どもを持つ母親の情報交換の場を提供し、子育て親子の仲間づくりを図る。	地区部会が、月1回、子育て中の親子を対象に、親同士の情報交換や保健師による育児相談、絵本読み聞かせ等、内容の充実を図り、子育て親子の仲間づくりに取り組んだ。	A		
			⑬ 障がい者の地域社会での福祉活動の促進	3	障がい者施設での作業補助等を通じて、障がい者との交流を図る。 また、障がい者が地域で福祉活動を行う機会を提供し、障がい者の社会参加の促進を図る。	町内自治会婦人部が、障害者支援施設「しいのみ園」を利用している子ども達と一緒に、第一土曜日の午前中に、公園の清掃を行っている。 また、スポーツ振興会が障害者支援施設「しいのみ園」でポッチャを通じて交流を図った。	A		
			④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	6	災害時に、迅速な避難が行えるようにするため、地域の各団体と協議し、避難所運営委員会の設立を進める。 また、民生委員と町内自治会が連携し、災害時要支援者の情報共有を図る。	災害時に迅速な避難が行えるようにするため、平成30年度に設立された末広中学校、末広公民館の避難所運営委員会では、避難所開設訓練の実施に向け協議し、令和2年度の訓練実施を予定していたが、コロナの影響で開催には至らなかった。 なお、既に設立されていた避難所運営委員会では、避難所開設訓練を実施している。 また、民生委員と町内自治会に、災害時要支援者の把握と情報共有を図った。	B	新たに設立された避難所運営委員会が避難所開設訓練の実施に向けた準備を進めている。 役員やスタッフの高齢化が進んでおり、継続して取り組みを実施していくためには、若い世代の担い手の確保が必要である。	・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。
末広地区部会エリア 【人口・世帯数】 12,681人、6,787世帯 【町内自治会数】 4町内自治会 【高齢化率】 20.8% 【地域の特徴】 ○長洲の一部、末広、千葉寺町の一部、青葉町の一部を対象としたエリア。 地区内に末広街道・大網街道の幹線道路や地区を斜めに横切る京成電鉄の千葉寺駅がある。 また、隣接地区の製鉄所跡地に大規模ショッピングセンターができ、交通量の増加など環境が徐々に変わりつつある。 また、地域を斜めに横切る京成電鉄の千葉寺駅や青葉の森公園が存在しており、それらに伴う道路網の整備のため、最近では、末広街道・大網街道とも交通量が増加している。	④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	6	災害時に、迅速な避難が行えるようにするため、地域の各団体と協議し、避難所運営委員会の設立を進める。 また、民生委員と町内自治会が連携し、災害時要支援者の情報共有を図る。	災害時に迅速な避難が行えるようにするため、平成30年度に設立された末広中学校、末広公民館の避難所運営委員会では、避難所開設訓練の実施に向け協議し、令和2年度の訓練実施を予定していたが、コロナの影響で開催には至らなかった。 なお、既に設立されていた避難所運営委員会では、避難所開設訓練を実施している。 また、民生委員と町内自治会に、災害時要支援者の把握と情報共有を図った。	B	新たに設立された避難所運営委員会が避難所開設訓練の実施に向けた準備を進めている。 役員やスタッフの高齢化が進んでおり、継続して取り組みを実施していくためには、若い世代の担い手の確保が必要である。	・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。		

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況 (平成30年度～令和2年度)

【取組テーマ】1 見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支える仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S: 目標を上回った。
A: 概ね目標を達成した。(8～10割)
B: 一部目標を達成した。(5～7割)
C: 大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組テーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性	
寒川地区部会エリア	④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	6	災害発生時に備え、避難所運営委員会が、6町内自治会合同の防災訓練や、災害時要支援者の避難訓練を実施し、避難支援体制のさらなる充実を図る。	災害時要支援者の避難支援体制を構築するため、地区部会が、町内自治会の協力を得て、災害時要支援者の近隣の方に支援者(避難を手伝う協力者)として登録いただき、作成した「災害時要支援者及び支援者名簿」を更新した。 また、災害発生時に備え、令和元年8月31日に、地区部会が災害時要支援者の避難訓練を実施するとともに、避難所運営委員会が6町内自治会合同の防災訓練を実施し、災害時要支援者の避難支援体制のさらなる充実を図った。	A	新型コロナウイルスの影響が大きかった令和2年度を除き、概ね計画どおり取り組みを実施した。 町内自治会役員や民生委員等の担い手が不足しており、継続して取り組みを実施していくためには、若い世代の担い手の確保が必要である。	新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。	
								【人口・世帯数】
								5,670人、3,108世帯
								【町内自治会数】
								6町内自治会
【高齢化率】								
22.6%								
【地域の特徴】								
○港町、寒川町、稲荷町を対象としたエリア。JR本千葉駅と蘇我駅の間に位置している。かつては寒川神社を中心に、川崎製鉄の裏門に沿って栄えた地域で、昔からの住民が多く、かつ一戸建てが多く存在しているためか、住民の転居なども少なく、高齢化が比較的に進行しやすい環境の地域である。								
ちば中央地区部会エリア	③ 見守り体制をつくる	1	地区部会と民生委員が協力しながら、ひとり暮らし高齢者等に対して、日常的な見守りや声かけによる安否確認を行い、地域で安心して暮らせるよう、見守り活動を実施する。	民生委員・福祉活動推進員及び町内自治会の協力をいただきながら、個別対応ではあるが見守り活動を継続して実施している。	A	新型コロナウイルスの影響が大きかった令和2年度を除き、概ね計画どおり取り組みを実施した。 役員やスタッフの高齢化が進んでおり、継続して取り組みを実施していくためには、若い世代の担い手の確保が必要である。	・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。	
								【人口・世帯数】
								16,092人、9,021世帯
								【町内自治会数】
								27町内自治会
【高齢化率】								
24.3%								
【地域の特徴】								
○中央、市場町、長洲の一部、本町、東本町、道場南、鶴沢町、旭町、亀井町、亀岡町、亥鼻、葛城、青葉町の一部を対象としたエリア。 千葉市の歴史、文化、経済の中核的な役割を果たしてきた地域で、繁華街と商店街が多く、また、千葉城・青葉の森などの文化・芸術施設も多い。								
ちば中央地区部会エリア	④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	6	第3地区町内自治会連絡協議会が、災害時を想定した防災訓練を年1回実施する。 また、避難所運営委員会と連携し、災害時に支援を必要とする人の避難支援について協議していく。	3か所の避難所運営委員会で、年1回、地域住民の参加を呼びかけ、消火訓練やAED訓練、ハイゼックス体験、マンホールトイレ体験等を内容とした防災訓練を実施し、防災意識の向上に取り組んだ。 避難所運営委員会が活動を開始しており、その活動を注視しており、地区部会としてどのような部分で連携協力ができるのかを協議していく。	A			
								【人口・世帯数】
								16,092人、9,021世帯
								【町内自治会数】
27町内自治会								
【高齢化率】								
24.3%								
【地域の特徴】								
○中央、市場町、長洲の一部、本町、東本町、道場南、鶴沢町、旭町、亀井町、亀岡町、亥鼻、葛城、青葉町の一部を対象としたエリア。 千葉市の歴史、文化、経済の中核的な役割を果たしてきた地域で、繁華街と商店街が多く、また、千葉城・青葉の森などの文化・芸術施設も多い。								
ちば中央地区部会エリア	⑮ 相談体制・情報提供の充実	10	地域の高齢者増加に伴い、あんしんケアセンターと連携を強化し、民生委員、町内自治会が個別の相談に応じ、高齢者の方々が地域で安心して生活できるよう活動する。 また、地区部会が各団体の抱える課題を共有する場を提供し、地域で安心して生活できるような環境作りに努める。	葛城町内会では、町内会、民生委員、あんしんケアセンター千葉寺が参加し、地域課題を話し合うとともに支え合い活動の勉強会を実施した。 また、地区部会では、住民が気軽に参加できる集いの場を提供する具体的な取り組みとして、あんしんケアセンター中央、プラチナホーム都の杜なのはなと協議を重ね、近隣住民が参加できる認知症カフェをモデル的に2回実施した。	A			
								【人口・世帯数】
								16,092人、9,021世帯
ちば中央地区部会エリア	⑰ 地域での福祉教育の推進	8	地区部会が、地域の福祉活動に、児童・生徒がボランティアとして参加できる機会を増やす。	敬老会の際、小学校、中学校の児童・生徒が参加し、歌や踊りを披露するなどのボランティア体験を通じ、福祉の心を育む機会を設けるとともに、高齢者との交流を図った。 また、交通安全教室・租税教室等の開催に併せて高齢者等への接し方など福祉のこころにつながる講話を実施した。	A			
								【人口・世帯数】
16,092人、9,021世帯								

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況 (平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1 見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支える仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S: 目標を上回った。
A: 概ね目標を達成した。(8～10割)
B: 一部目標を達成した。(5～7割)
C: 大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性
中央東地区部会エリア 【人口・世帯数】 13,712人、8,346世帯 【町内自治会数】 16町内自治会 【高齢化率】 25.4% 【地域の特徴】 ○祐光、椿森、道場北、院内、要町を対象としたエリア。 千葉市都市モノレール千葉公園駅の東側に位置し、古くからの一戸建て住宅が多い。また、地域内には千葉医療センター(旧・国立千葉病院)がある。	① 地域支えあい連絡会の設置・推進	9 10	各種団体・関係機関のそれぞれの機能を活かしながら役割分担を明確にしつつ、地域の福祉課題を共有し、課題解決に向けた取り組みが行えるネットワークづくりのため、情報交換を行い連携・協働に努める。	地区部会が、地域の福祉課題を共有し、課題解決に向けた取り組みを行うためのネットワークをつくるため、あんしんケアセンターと地域ケア会議を年2回開催した。	A	新型コロナウイルスの影響が大きかった令和2年度を除き、概ね計画どおり取り組みを実施した。 役員やスタッフの高齢化が進んでおり、継続して取り組みを実施していくためには、若い世代の担い手の確保が必要である。	・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。
			③ 見守り体制をつくる	1			
	⑦ 地域での健康づくり支援の充実	2 5	地区部会等では、散歩クラブ、ラジオ体操の会などの活動を通じて、高齢者の閉じこもり防止や健康維持を図る。また、ふれあい・いきいきサロンやボランティア講座の中に、高齢者の健康面に関わるテーマを取り入れ、高齢者の交流の機会を増やす。	地区部会では、いきいきサロンの中で、あんしんケアセンターの介護予防講座や中央区健康課の生活習慣病講座、シニアリーダー体操を実施した。 また、散歩クラブを年1回実施して千葉公園でのウォーキングや体操を行うとともに、シニアリーダー体操を年2回実施し、高齢者の健康維持を図った。 一部の町内自治会では、シニアリーダー体操やラジオ体操を実施した。 各町内自治会の老人クラブでは、グランドゴルフが盛んに行われている。	A		
			⑨ 子育てサロンの充実	4		地区部会が、子育て中の親子とボランティアが自由に語り、情報交換することを通じて、子育て親子の仲間づくりを図るため、年6回、子育てサロンを実施する。	
東千葉地区部会エリア 【人口・世帯数】 4,166人、2,035世帯 【町内自治会数】 7町内自治会 【高齢化率】 36.4% 【地域の特徴】 ○東千葉を対象としたエリア。 旧軍用地のあとに建設された県営住宅、公務員住宅、マンション、その他の一般住宅などがあり、昔からの住人と新たに流入してきた新しい住人が共存している。	② 支え合い活動の仕組みづくり	7 9	地区部会が実施している「ちょっとボランティア」と、地域の助け合いグループである東千葉ハッピータウンの会(ポイント制による会員同士の相互支援の会)の活動を統合し、高齢者等のちょっとした困りごとの支援活動を充実させる。 また、対応できないケースに備え、地区内外の支援サービスを取りまとめた「東千葉便利帳」を作成し、利用者に紹介できる体制を整える。	地区部会が高齢者等のちょっとした困りごとを支援する「ちょっとボランティア」と、地域の助け合いのグループである東千葉ハッピータウンの会(ポイント制による会員同士の相互支援の会)を統合し、新たに「ハッピーボランティア東千葉」として支え合い活動に取り組んでいる。 また、対応できないケースについては、コーディネーターが専門機関等を紹介できるような他の支援サービスの一覧を作成している。	A	新型コロナウイルスの影響が大きかった令和2年度を除き、概ね計画どおり取り組みを実施した。 担い手の高齢化が進んでおり、継続して取り組みを実施していくためには、若い世代の担い手の確保が必要である。	
			③ 見守り体制をつくる	1			地区部会が、高齢者等、支援を必要としている方の近所にお住まいの方に協力を依頼し、日常的な見守りが行える関係の構築を目指す。 また、認知症の知識を地域に広め、住民同士が、お互いを気に掛け、声をかけ合えるような地域を目指し、学習会等を実施する。
	④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	6			地区部会と7町内自治会が協力し、合同の防災訓練を年1回実施する。 また、日常的な見守りの協力員が、災害時に要支援者の避難支援を行う体制の構築を目指す。		地区部会と7町内自治会が協力し、合同の防災訓練を計画していたが雨天中止となった。台風の際には民生委員や町内自治会が被害状況の確認を行った。 また、地域の中で防災に関心の高い方々で組織した「防災サポートの会」との協力体制の構築を図っている。

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況 (平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1 見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支える仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S: 目標を上回った。
A: 概ね目標を達成した。(8～10割)
B: 一部目標を達成した。(5～7割)
C: 大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度取組の方向性
西千葉地区部会エリア 【人口・世帯数】 12,697人、6,686世帯 【町内自治会数】 6町内自治会 【高齢化率】 18.8% 【地域の特徴】 ○登戸、春日、汐見丘町、新千葉の一部を対象としたエリア。 地区内に京成の新千葉駅及び西登戸駅、JRの西千葉駅がある。 隣接する地域に千葉大学、千葉東高校、千葉商業高校等、複数の教育施設がある文教地域。	③ 見守り体制をつくる	1	地区部会が、ひとり暮らし高齢者等に対して、日常的な見守りや声かけによる安否確認を行い、地域で安心して暮らせるよう、継続して見守り活動を実施する。	6町内自治会すべてにおいて、65歳以上の高齢者や障がい者の内、見守りを希望する方に対し、各町内自治会が行いやすい手法により、目配りや声かけなどの見守り活動を実施した。なお、見守り希望者の更新は毎年行っている。	A	新型コロナウイルスの影響が大きかった令和2年度を除き、概ね計画どおり取り組みを実施した。 町内自治会役員や民生委員等の担い手が不足しており、継続して取り組みを実施していくためには、若い世代の担い手の確保が必要である。	新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。
	④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	6	民生委員が把握している情報を基に、災害時要支援者の同意を得て、名簿と対象者を地図に落とし込んだマップを毎年更新し、町内自治会と情報を共有するとともに、災害時には日常的な見守り活動を行っている協力が避難支援を行う体制を継続維持する。 6町内自治会すべてにおいて防災訓練を年1回実施するとともに、3年に1回、登戸小学校避難所運営委員会の訓練を実施する。	民生委員が中心になって、民生委員が把握している情報を基に、災害時要支援者の同意を得て、名簿と対象者を地図に落とし込んだマップを作成し、町内自治会と情報を共有している。名簿とマップは毎年更新している。災害時には日常的な見守り活動を行っている協力が避難支援を行う体制をとっている。 避難所運営委員会が、年1回会議を開催するとともに、備蓄品の確認を行うとともに、地区内の6町内自治会すべてで防災訓練を年1回実施した。	A		
	⑦ 地域での健康づくり支援の充実	2 5	地区部会や町内自治会、社団等地域の各団体が、ランドゴルフや脳トレ、健康体操を実施し、中高年の健康維持、増進を図る。	地区部会では、介護予防教室を年2回開催した。 6町内自治会中、5町内自治会において老人クラブは組織されており、各老人クラブが「グラウンドゴルフ大会」を開催した。 スポーツ振興会では、「ウォーキング」を定期的に実施するとともに、「バレーボール大会」や「ミニ運動会」を開催した。 シニアリーダーが、特別養護老人ホーム新千葉一倫荘を会場に、月2回、シニアリーダー体操を行った。 登戸ラジオ体操会が、毎日、登渡神社で、ラジオ体操を行った。	A		
	⑪ 世代間交流の場の提供	9	町内自治会等が、誰もが参加できる地域行事を開催し、世代間交流を図る。	地区部会では、福祉バザーを開催した。 特別養護老人ホーム新千葉一倫荘では、年数回「地域交流会」を開催しており、地域の子どもたちが参加している。 町内自治会では、「花見」「盆踊り」「登渡神社まつり」「節分祭」など各種イベントを開催するとともに、町内自治会主体で「ごみゼロの日」に実施している各公園の清掃活動には、大人も子どもも参加しており、交流の機会となっている。 町内自治会サークルが一同に会して「発表会(文化祭)」を開催しており、地域での交流の場となった。	A		
	⑭ 地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供	7 8	地区部会が、地域住民を対象に、既に活動している人の資質向上や新たな担い手の発掘のため、福祉講座を実施する。	地区部会が、「介護予防教室」を年2回、「防災教室」を年1回、障がい者の理解を図る研修会を年1回開催した。 各町内自治会でも、老人クラブと協力して、認知症や口腔ケア等の福祉講座を開催した。	A		
	⑲ 防災体制の充実	6	地区部会では、事業計画に基づく防災講座を通じて、住民の防災に対する意識の高揚を図る。 また、各町内自治会では、防災講座や防災訓練を年1回実施する。 さらに、日赤奉仕団が、災害時や平常時における健康生活支援講座を年2回以上実施する。	地区部会では、年1回、地域住民や地区部会役員を対象に、防災意識の啓発や赤十字救急法等を内容とした防災講座を開催した。 6町内自治会では、すべてに自主防災会があり、各防災会が、年1回、安否確認、避難訓練、初期消火・応急手当訓練、非常食配布、発電機起動実演、AED訓練、ハイゼックス訓練、起震車・煙体験などの訓練や防災講座を実施しており、赤十字奉仕団と協力している。防災訓練には子ども達も参加している。	A		

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況 (平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1 見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支える仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S: 目標を上回った。
A: 概ね目標を達成した。(8～10割)
B: 一部目標を達成した。(5～7割)
C: 大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性
中央地区部会エリア			子ども達の安全を守るため、地区部会が中心となり、関係団体や学校と連携し、子供たちがこわい目に遭った時に安心して駆け込めるよう「こども110番のいえ」への駆け込み訓練を実施する。 地区部会が、弁天小学校の全学年を対象に毎朝の登校時あらかじめ決めた集合場所から校門まで送る、及び1～2年生を対象に毎週金曜日の下校時に校門から自宅まで送り届ける「こどもみまもり隊」パトロールを実施する。	地区部会では、子ども達の安全を守るため、弁天小学校1年生を対象に「こども110番のいえ」への駆け込み訓練を実施した。地区部会・子供会・PTA・青少年育成委員会の役員や教頭、担任(延べ24人)が、弁天小学校の1年生27人を、4日間に分け引率し、通学路付近の「こども110番のいえ」20軒の訪問・挨拶を行い、子ども達と110番のいえの方が顔見知りになるよう取り組んだ。 さらに、弁天北部方面の児童を対象に、弁天小学校への毎朝の集団登校に付き添うとともに、弁天小学校の1～2年生を対象に、毎週金曜日の下校時、校門から自宅まで送り届ける「こどもみまもり隊」パトロールを実施した。 また、児童の健全育成を図るため、地区部会と生涯学習センターが共催し、「夏休み親子お楽しみ会」を開催し、児童向けの映画鑑賞、歌や踊りを通して、児童の情操を養うとともに地域の連携を深めた(参加者314人)。 さらに、弁天小学校の「わくわくキャンパス」(毎週木曜日、15:00～16:00)に地区部会も協力しており、ソフトボール、バスケット、マット遊び等、児童と一緒に遊び、かつ児童の見守りを行った。(年間25回程度) 地域住民が、セーフティウォッチャーに協力し児童の安全を見守った。 ※R2年度は「こども見守り隊」のみ実施	A	新型コロナウイルスの影響が大きかった令和2年度を除き、概ね計画どおり取り組みを実施したが、担い手の中には就労している人も多く、単発の行事には協力してくれるが、サロン等の定期的な活動への協力者の確保が難しい状況である。 なお、R2年度中止であった防水ゲート開閉訓練は、千葉市から鍵を借用できず、実施困難である。 今後、継続して取り組みを実施していくための担い手の確保が必要である。	・基本的な感染対策を行いつつ、関係者や参加者の多い大規模なイベントを除き、少人数の取組又は人数を減らしてを実施する。
【人口・世帯数】 6,610人、3,953世帯	⑤ すべての子どもを地域で育てる	4 6					
【町内自治会数】 6町内自治会							
【高齢化率】 19.7%							
○弁天、栄町、富士見、本千葉町、新町の一部、新千葉の一部を対象としたエリア。 JR千葉駅周辺の地区で、駅北口側の住宅地や千葉公園、東口側の商業施設や繁華街が共存している地域。							
	⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実	2	地区部会が、高齢者の集える場を設け、仲間づくりや健康維持を図るため、年13回、「ふれあい・いきいきサロン」を実施する。	地区部会(高齢者福祉委員会)が、いきいきサロンを3会場、延べ13回実施した。中央区健康課の介護予防体操や、あんしんケアセンター中央の健康講話等を取り入れる等、内容の充実に努め、高齢者の健康維持や仲間づくりに取り組んだ。	A		
	⑱ 防犯対策の推進	6	地区部会が、子ども達の安全を守るため、児童向けの安全教室を年1回実施する。 また、各町内自治会で防犯パトロールを実施し、防犯に対する意識の向上を図る。	地区部会では、弁天小学校の1年生とその保護者を対象に、NPO「体験型安全教育支援機構」を講師に迎え、「児童向けの安全教室」を実施し、不審者に捕まりそうになった時の逃げ方等を訓練した。 町内自治会では、防犯に対する意識の向上を図るため、防犯パトロールを実施した。	A		
	⑲ 防災体制の充実	6	各町内自治会で、防災マップを作成するとともに、防災訓練や、千葉公園の池に設置されている防水ゲートの開閉訓練を、年1回実施する。	弁天町会では、千葉公園の綿打池が過去の大雨で氾濫した経験を踏まえ、防水ゲートの開閉訓練を年1回実施した。近隣のコンビニエンスストアに排水ゲートの鍵の保管協力を得て、氾濫時の対応にあたっている。また、市の協力により洪水警報サイレン等を設置している。 また、町内自治会ごとに防災訓練を実施した。 弁天小学校の避難所運営委員会では、避難所の円滑な運営を図るため、避難所運営マニュアルを作成した。	B		

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況 (平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1 見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支える仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S: 目標を上回った。
A: 概ね目標を達成した。(8～10割)
B: 一部目標を達成した。(5～7割)
C: 大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性						
新宿地区部会エリア	<p>③ 見守り体制をつくる</p> <p>④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援</p> <p>⑤ すべての子どもを地域で育てる</p> <p>⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実</p> <p>⑦ 地域での健康づくり支援の充実</p> <p>⑩ 障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進</p> <p>⑭ 地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供</p>	1	地区部会が、町内自治会や民生委員と連携し、日常的な目配りや声かけによる見守りが行える地域となるよう、向こう三軒両隣の緊密な人間関係の構築に努める。	民生委員が主体となり、あんしんケアセンターと連携しながら見守りを行っている。また、マンションについては管理人に見守りを願っている。 町内自治会や老人会では、諸行事を通じて顔見知りになる機会を設け、緊密な人間関係の構築に努めている。 地区部会では、安心ファイルを作成し、70歳以上の高齢者に配布している。また、見守り活動や支え合い活動に対する住民の意識を把握するため、あんしんケアセンターと連携し「地域のたすけあい活動に関するアンケート」を2町内自治会で実施した。見守り活動に協力いただける方に、セーフティウォッチャーや近所のさりげない見守り活動に協力いただいている。	B	<p>概ね計画どおり取り組みを実施したが、地域団体の基盤となる町内自治会役員のなり手が少ないことや、マンションが増えているが町内自治会に加入する人が少ない、地域行事の担い手不足など、問題も少なくない。 安定した事業運営のための担い手や継続した活動資金の確保が必要である。</p>	<p>新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。</p>						
【人口・世帯数】			12,456人、6,747世帯	<p>町内自治会役員や民生委員が中心となり、日頃から、ひとり暮らし高齢者等とコミュニケーションを図り、災害時には、地区部会が配布している「安心ファイル」を有効活用し、要支援者の支援を行う。</p>	新宿小学校の避難所運営委員会が設立され、月1回会合を開いている。避難所運営委員会では、避難所に避難してきた人々に対してスムーズな受け入れができるよう、住民参加による避難訓練を実施し、100人強が参加した。			B					
【町内自治会数】			5町内自治会		<p>各町内自治会の子ども会と連携し、地域行事に子ども達が積極的に参加するよう促す。 また、幼少期の子どもを持つ親の負担を軽減するため、新宿保育所の「にこにこルーム」のボランティアに積極的に参加するとともに、地区部会による子育て支援セミナーを開催する。</p>			町内自治会や子ども会では、餅つき、お祭り、お花見、盆踊り、新年会、敬老会の余興など、地域の行事に子どもたちが参加し、住民と交流している。 地区部会では、幼少期の子どもを持つ親の負担を軽減するため、新宿公民館で「ベビーマッサージ」を年2回開催し、子育て中の親の育児相談を行うとともに、新宿保育所内の地域子育て支援センター「にこにこルーム」にボランティアとして参加した。 地域住民が、新宿小学校の「放課後子ども教室」や1年生を対象に年1回実施している「昔遊び等の体験活動」に参加し、協力している。また、「こども110番のいえ」に協力するとともに、セーフティウォッチャーとして学校に30名登録して登下校時の子ども達の安全を見守った。	A				
【高齢化率】			16.4%					<p>地区部会が、「ふれあい・いきいきサロン」の実施に向け検討する。 また、高齢者が交流する機会を提供するため、地区部会エリアの高齢者を対象とした行事を検討する。</p>	地区部会では、高齢者の仲間づくりの場を提供するため「ふれあい・いきいきサロン」を年2回実施した。 町内自治会や老人クラブでは、誕生会、グラウンドゴルフ、カラオケ等を実施し、月1回程度は高齢者が交流する機会を設けている。	A			
【地域の特徴】			○新宿、神明町、新田町、出洲港を対象としたエリア。千葉市のほぼ中心に位置し、近くにはJR千葉駅や京成千葉中央駅等がある。学区及び周辺は、デパート等の大型店舗が軒を並べる市内有数の商業地域がある。新興集合住宅が多く建設され、ファミリー層が流入してきている。						<p>高齢者の健康増進を図るため、地区部会が「歩こう会」を年2回実施するとともに、健康関連のセミナーを年1回開催する。 また、社体と連携しグラウンドゴルフ大会を年2回開催する。</p>	地区部会では、高齢者の健康増進を図るため「歩こう会」を年2回実施するとともに、高齢者を対象に認知症をテーマにした健康セミナーを年1回開催した。 スポーツ振興会では、グラウンドゴルフ大会を年2回開催した。 新宿公民館では、週1回、シニアリーダー体操が行われている。	A		
⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実			2							<p>地区部会の障がい者福祉委員会が、千葉県聴覚障害者協会の就労継続支援施設「らいおん工房」を月1回訪問し、作業補助等の活動を通じて、障がい者の理解と交流を促進する。</p>	地区部会が、中央区健康課と連携し、住民の福祉力向上を図るため、「認知症について」の講演会を年1回実施した。	A	
⑦ 地域での健康づくり支援の充実			2 5								<p>民生委員が、千葉県聴覚障害者協会の就労継続支援施設「らいおん工房」を月1回訪問し、作業補助等の活動を通じて、障がい者の理解と交流を促進する。</p>		
⑩ 障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進			3 8										
⑭ 地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供	7 8												

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況
(平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1 見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支える仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S: 目標を上回った。
A: 概ね目標を達成した。(8～10割)
B: 一部目標を達成した。(5～7割)
C: 大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性
新宿地区部会エリア	⑱ 防犯対策の推進	6	地域の防犯意識の向上を図るため、各町内自治会が、月2回、防犯パトロールを実施する。 また、防犯関連のセミナーの開催を検討する。	町内自治会では、月2回、防犯パトロールを実施するとともに、年2回、地域交番(京成交番)と地域の犯罪傾向等について情報交換会を開催し、地域の防犯意識の向上に取り組んだ。	A		
			⑲ 防災体制の充実	6	避難所運営委員会の設立に向けた「避難所準備委員会」の開設に伴い、防災意識の向上を図るため、防災関係の知識の習得に努める。 また、避難所運営委員会の設立の進捗状況によるが、避難所ごとに避難訓練の実施を検討する。		
蘇我地区部会エリア	① 地域支えあい連絡会の設置・推進	9 10	各種団体・関係機関のそれぞれの機能を活かしながら役割分担を明確にしつつ、地域の福祉課題を共有し、課題解決に向けた取り組みが行えるネットワークづくりのため、情報交換を行い連携・協働に努める。	地区部会では、あんしんケアセンター松ヶ丘白旗出張所と共同し、地域における福祉課題を共有し、課題解決に向けて継続的に各種団体・機関との連携・協働を図るため、18団体が参加する「地域ケア会議」を年2回開催した。 また、コミュニティ懇談会【地域運営委員会】(年4回)や青少年育成委員会連絡会(年6回)に参加し、地域課題について情報交換を行うとともに、地区部会の会議や活動を通じて関係団体との連携を図っている。 さらに、介護付有料老人ホーム「そんぼの家 蘇我」と地域が連携した取組について協議した結果、施設を利用した高齢者の集いの場を2回開催することができた。 あんしんケアセンター松ヶ丘の多職種連携会議で、関係団体との連携について協議した。	A	計画どおり取り組みを実施した。 自由に利用できる活動拠点、特に子どもが自由に入り出ることができるような場所があれば、そこを拠点に地域住民の交流が図りやすいと考える。 安定した事業運営のためには活動拠点が必要である。	・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。 ・DVD、プロジェクターを各拠点に整備し、再開後の活動のために準備している。
【人口・世帯数】 18,500人、9,351世帯			地区部会が配布している「冷蔵庫保管用安心カード」の更新のお知らせを全戸配布する。町内自治会未加入のひとり暮らし高齢者には、民生委員が安心カードを配布する。 また、地域の見守りに対する意識の向上を図るため、地域の関係団体と連携し、「認知症徘徊声かけ訓練」を実施する。	地区部会が、地区内の8町内自治会を通じて、町内自治会加入の全世帯を対象に配布している「冷蔵庫保管用安心カード」については、記載内容の見直しを行い、町内自治会を通じて配布した。また、町内自治会未加入の75歳以上のひとり暮らし高齢者については、民生委員の協力を得て5月の「高齢者実態調査」の際に配布する。 また、地域の見守りに対する意識の向上を図るため、地域の関係団体と連携し、「地域見守り活動～オレンジフェスティバル～」を実施した。	A		
【町内自治会数】 8町内自治会			子ども達の安全を守るため、地域住民がセーフティウォッチャーに協力する。 また、小学校や保育園の「昔遊び」に地区部会が協力し、児童の健全育成を図るとともに、地区子ども会と連携し、行事等を通じて地域住民との交流を促進する。	子ども達の安全を守るため、「セーフティウォッチャー」や「こども110番のいえ」に地域住民が協力した。 また、不審者対応として、青色回転灯装着車によるパトロールも計画どおり実施するとともに、パトロール活動への支援として、若干のガソリン代の支給やドライブレコーダーの貸与等も実施できた。 地区部会では、蘇我小学校から依頼を受け、年1回の「昔あそび」のゲストティーチャーとして役員が協力するとともに、蘇我小学校で全学年を対象に月2回実施している「わくわくキャンパス」には、内容に応じて参加・協力している。 また、「ローゼンそが保育園」の昔あそびのゲストティーチャーとして役員が協力するとともに、新たに認可保育園「そがチャイルドハウス」の昔遊びのゲストティーチャーとして役員が協力した。 さらに、地区の子ども会行事の際には地区部会が協力し、高齢者が昔遊びの指導等に協働参画するようになっている。 主任児童委員が中心となり、蘇我小学校に週1回出向き、「本の読み聞かせ」を全学年対象に実施している。	A		
【高齢化率】 15.9%			地区部会では、蘇我小学校から依頼を受け、年1回の「昔あそび」のゲストティーチャーとして役員が協力するとともに、新たに認可保育園「そがチャイルドハウス」の昔遊びのゲストティーチャーとして役員が協力した。	A			
【地域の特徴】 ○蘇我、今井、若草、南町を対象としたエリア。JR蘇我駅周辺の地区で、隣接地区の製鉄所跡地に大規模ショッピングセンターやサッカー場ができ、交通量の増加など環境が徐々に変わりつつある。	③ 見守り体制をつくる	1			A		

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況
(平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支える仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S: 目標を上回った。
A: 概ね目標を達成した。(8～10割)
B: 一部目標を達成した。(5～7割)
C: 大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度取組の方向性
蘇我地区部会エリア	⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実	2	地区部会が、いきいきサロンを4会場で年16回実施する。 また、中央保健福祉センター健康課、あんしんケアセンター松ヶ丘白旗出張所の協力を得て、健康体操などのメニューを取り入れ、参加いただく高齢者の健康維持を図るなど、内容の充実を図る。	地区部会が、いきいきサロンを4会場で年16回実施し、高齢者の仲間づくりや健康維持を図った。 また、中央保健福祉センター健康課、あんしんケアセンター松ヶ丘白旗出張所の協力を得て、健康体操などのメニューを取り入れ、参加いただく高齢者の健康維持を図るなど、内容の充実に努めた。	A		
	⑦ 地域での健康づくり支援の充実	2 5	地区部会が、「ふれあい・いきいきサロン」や「ふれあい・散歩クラブ」を定期的に開催するとともに、高齢者向けの健康講座を年1回開催し、高齢者の閉じこもり防止や健康維持を図る。 また、スポーツ振興会や老人クラブが行っているスポーツ活動に、地区部会として協力する。	地区部会では、60歳以上の高齢者を対象に、健康維持や交流の場づくりを目的として、「ふれあい・散歩クラブ」を年4回、「ふれあい・いきいきサロン」を年16回実施した。特に「ふれあい・いきいきサロン」では、中央区保健福祉センター健康課、あんしんケアセンター松ヶ丘白旗出張所の協力を得て、健康体操などのメニューを取り入れ、参加いただく高齢者の健康維持に努めるとともに、落語を取り入れるなど、参加者に楽しんでもらえるようメニューを工夫した。 また、健康促進に関する講座を年1回開催するとともに、スポーツ振興会及び老人クラブで行っているスポーツ活動に地区部会として協力し、高齢者の健康増進を図った。 蘇我いきいきセンターでは、シニアリーダー体操が月2回行われている。	A		
	⑫ 高齢者の地域社会での福祉活動の促進	2	地区部会のボランティア委員会が、月1回、「セントケアホーム蘇我」「グループホームさくら」の2施設で行っている話し相手やイベント手伝い等の活動を継続して実施する。	地区部会のボランティア委員会が、月1回、「セントケアホーム蘇我」「グループホームさくら」の2施設で行っている話し相手やイベント手伝い等の活動を継続して実施した。 なお、今後の支援内容について検討している。	A		
	⑮ 防犯対策の推進	6	民生委員定例会や地域ケア会議、いきいきサロンにおいて「振込詐欺の対応や防止策」についての講座を開催し、防犯意識の向上を図る。 また、育成委員会において、週割して行っている青色パトロールを、各町内自治会と連携し、継続して実施するとともに、各町内自治会が定期的に防犯パトロールを実施し、地域防犯力の向上を図る。	民生委員定例会や地域ケア会議、いきいきサロンでは、「振込詐欺の対応や防止策」について講座を開催した。 育成委員会では、青色パトロールを各町内自治会で週割し、実施した。 第9地区連協では、49町内自治会のうち41町内自治会が防犯パトロール隊を結成し、パトロールを実施した。 移動交番が、蘇我コミュニティセンターや東武ストア蘇我店に開設されている。 昨年度、蘇我中学校区の小・中学生が一緒に作成した「子どもの目からみた安全マップ」を広報紙に掲載し、活用する予定である。 地域住民が「こども110番の家」に協力している。 PTAが学校の長期休暇に合わせ、防犯パトロールを兼ねて実施している地区内一斉点検に地区部会が協力した。	A		

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況 (平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2高齢者を支える仕組みづくり 3障害者を支える仕組みづくり
4こどもと子育てを支える仕組みづくり 5健康づくり 6防犯・防災に対する取組み
7担い手の拡大とボランティアの促進 8福祉教育・啓発 9地域のつながりづくり
10相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S:目標を上回った。
A:概ね目標を達成した。(8～10割)
B:一部目標を達成した。(5～7割)
C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の実績の方向性		
白旗台地区部会エリア	① 地域支えあい連絡会の設置・推進	9 10	平成28年6月に発足した「地域運営委員会」において、関係団体と連携し、地域課題の解決に取り組むとともに、福祉課題に取り組みやすくするため、地区部会補助金の統合補助金化等を行政に働きかける。 また、地域ケア会議を本来の困っている方をケアする会議にするよう働きかけるとともに、地域で具体例作りを努める。	(1)コミュニティづくり懇談会では、コロナ禍において、地域福祉活動にどう取り組むべきか、万全の対策を行い、3回、延べ260名の参加を得た。また、講演内容を「コミ懇だより」に掲載し、各家庭に回覧した。 (2)避難所の立上げ等の訓練は、11/8の市の訓練日を中心に、規模を縮小して実施した。多くの避難所では、運営委員・直近要員・施設管理者で実施した。 (3)青色回転灯装着車によるパトロール活動については、昨年度までと同様、コロナ禍にあっても学校のある日には毎日3台/日のペースで実施し、結果として、不審者の出没を蘇我中学校区で2件(地区部会エリアでは0件)に抑制できた。令和2年度はコロナの為か、千葉市の不審者総数は半減し、中央区全体で24件であった。蘇我中学校区の人口は中央区全体の1/5強なので、発生頻度は中央区の半分以下の結果が得られた。 (4)避難所備蓄品の充実については、エアーマット10セットをはじめ、トイレキット、ランタン等の充実を図る事ができた。 (5)地区部会補助金の統合補助金化や地域ケア会議の充実等はコロナ禍で会議等を開催できず、特に進展は無し。あんしんケアセンターとは、フレイル対策にも重点的に取り組むこととし、このテーマで出前講座を実施したところもあった。 計画期間をとおして、概ね予定どおり取り組みを実施した。	A	概ね計画どおり、特に、「子育てサロンの充実」では、目標を上回る取り組みを実施することができた。 一方、担い手の高齢化という問題もあり、若い世代、次の世代の担い手を確保していく必要がある。 また、町内自治会長の交替により、取組みが後退しないようにするための仕組みづくりも必要である。	・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。		
【人口・世帯数】 25,294人、12,481世帯			② 支え合い活動の仕組みづくり	7 9	地区部会が、社協区事務所と協働し、地域支えあい活動を推進する。 また、支えあい活動のボランティアの募集を定期的に行って増員を図り、ボランティアの研修会を実施するとともに、地域支えあい活動の活性化のための研修会を開催する。	(1)令和2年度の活動開始に際して、コロナ対策を第一に考え、支え合い活動では、ゴミ出し等「生活必須」のものを中心に実施することにした。 (2)それでも、昨年までPRに努め、本年も「地区部会だより」でPRした効果もでて、目標とした25件/日を初めて達成できた。	A		
【町内自治会数】 41町内自治会			③ 見守り体制をつくる	1	現在、実施している見守り活動は高い水準で行えていると思うが、町内自治会長の変更等により取り組み状況に差が生じないよう、勉強会等を開き、活動の底上げを図る。 また、見守り希望者、見守り協力者については、毎年更新が必要となるため、更新の実施に向けて各町内自治会に働きかける。	(1)コロナ禍でいろいろ苦労があったが、防犯パトロール活動と連携した「さりげない見守り」を中心に、ほぼ計画どおり継続して実施できた。 (2)勉強会・講演会等は開催しづらかった為、町内自治会によっては、実施内容に差がついてしまい、希望者・協力者の更新が進んでいないところも認められた。 計画期間をとおして、概ね計画どおり取り組みを実施した。	A		
【高齢化率】 24.9%			④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援	6	地区部会内にある7つの避難所全てで避難所運営委員会が設置されており、年1回以上の避難所立上げ・運営訓練や安否確認・避難支援の訓練を継続して実施する。 また、避難所運営マニュアルは福祉的配慮を必要とする人への対応を含めて出来ているが、この体制を継続・充実するため、マニュアルの見直しを毎年実施するよう働きかける。 さらに、住民意識の維持向上や、運営委員会のレベルアップのため研修会等を実施し、地域全体のレベル向上を図る。	(1)例年、7か所すべての避難所で安否確認訓練、避難支援訓練、避難所立上げ・運営訓練等を実施しており、概ね計画どおり実施した。令和2年度は、避難所の立上げ等の訓練は、11/8の市の訓練日を中心に、規模を縮小して実施した。多くの避難所では、運営委員・直近要員・施設管理者で実施した。 (2)令和2年度は実訓練がしづらい状況だったため、多くの避難所運営委員会では、マニュアルの見直し等を行った。	A		
【地域の特徴】 ○白旗、鶉の森町、今井町、大蔵寺町、花輪町、宮崎、赤井町の一部、千葉寺町の一部、大森町の一部、宮崎町の一部を対象としたエリア。 古くからの農村地帯と昭和50年代に宅地造成された地域がほぼ同じ割合で混在する区域で、一部住宅地では、高齢化率50%を超える自治会もある。									

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況
(平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S:目標を上回った。
A:概ね目標を達成した。(8～10割)
B:一部目標を達成した。(5～7割)
C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性
白旗台地区部会エリア							
	⑤ すべての子どもを地域で育てる	4 6	セーフティウォッチャー活動や子ども110番のいえ活動、あいさつ運動を継続して実施するとともに、子ども110番のいえ訪問・駆け込み訓練は前回の実施から時間が経過しているため、再度実施するか検討・対応する。 また、子ども達とも顔見知りになるよう、町内自治会や青少年育成委員会等の実施する事業に地域の人達がより多く参加するよう働きかける。 さらに、青色回転灯装着車によるパトロール活動は継続して実施できるよう協力する。	(1)あいさつ運動やのぼり旗の更新等は、ほぼ予定どおり実施できた。 (2)子ども110番のいえ訪問・駆け込み訓練の再検討は、コロナ禍で会議が開けず、実施できなかったが、青色回転灯装着車によるパトロールは①の(3)のとおり実施できた。また、パトロール車への若干の補助やドライブレコーダーの貸与は本年も進展した。 (3)更に、蘇我中1年生全員(約300名)を対象にした「子供による子供のための子供権利条約」の読書感想文事業は、本年度も1年生ほぼ全員の参加が得られ、内容もかなり充実していた。	A		
	⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実	2	地区部会がふれあいいきいきサロンを月1回開催するとともに、各町内自治会に働きかけ、ウィークリーサロンを目指して開催回数の増を行うとともに、身近な集会所等で行う、ふれあい・いきいきサロンを実施する町内自治会の数を増やす。 また、町内自治会や民児協と共同で、引きこもりの人がいないか調査が必要か検討し、結果によっては参加の働きかけを行う。 さらに、サロンでは、出前講座を活用した学習的要素や健康づくりの要素を取り入れたものも実施する。	(1)「健康」をテーマに地区部会主催で計画したいいきいきサロンは、参加者のコロナ感染症を心配して、9会場すべてで中止とした。 (2)各町内自治会主催のものは、コロナ感染予防対策を十分行いながら半分近く実施できた。 (3)実施した中には、あんしんケアセンターを講師に「フレイル対応」をテーマに実施したのもあった。	A		
	⑦ 地域での健康づくり支援の充実	2 5	ふれあい散歩クラブ活動の更なる拡大を図るとともに、ふれあい・いきいきサロンに取り入れている介護予防や転倒防止運動を拡充する。 また、スポーツ振興会等の行事に協力し、高齢者の参加を促進する。	(1)ふれあい散歩クラブ活動は、コロナ禍でも比較的多くの自治会で実施でき、開催見合わせは1会場のみだった。 (2)いきいきサロンでの健康体操についても継続実施ができたところもあった。 (3)スポーツ振興会主催の行事では、市民体育祭はいずれも中止となったが、高齢者が多く参加するグランドゴルフ大会は、例年より回数を増やして実施したところもあった。グランドゴルフは高齢者にとって一番ポピュラーなスポーツとなったが、フレイルの為か、参加人数減のところが多かった。 (4)障がい者スポーツの普及については、あまり実績は残せなかった。	A		
	⑧ 地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	4 8	放課後子ども教室の各小学校での実施を継続し、内容によっては参加する。 また、地域で行われている各種スポーツクラブや学習クラブ等を紹介する充実した内容の冊子を作成、配布済みであるが、前回の配布から時間が経過しているため更新の検討を行う。 さらに、スポーツ振興会の市民体育祭や青少年育成委員会の歴史散歩事業等の行事に協力し、子ども達の参加の機会を増やす。	(1)「放課後子ども教室」、「蘇我の歴史散歩」、スポーツ振興会の市民体育祭はいずれも中止とした。 (2)その他の事業についてもほとんど中止としたため、特に高齢者のフレイルの心配が高まった。	A		

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況
(平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S: 目標を上回った。
A: 概ね目標を達成した。(8～10割)
B: 一部目標を達成した。(5～7割)
C: 大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度 of 取組の方向性
白旗台地区部会エリア	⑨ 子育てサロンの充実	4	月4回の「子育てサロン」を継続実施し、子育て中の親子・地域住民との交流の場とする。 子育てに必要な知識を学ぶため、専門機関との連携も図り、講師として依頼する。	(1)7月より公民館が会場のもの、共栄会館が会場のもの、両方とも再開したが、近隣の小学校でコロナ感染者が出たため、その後は休止した。 (2)子育てサロンについては、コロナ感染症を心配する母親が、高齢者の人数よりも心配する度合いも強いように感じた。	S		
	⑭ 地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供	7 8	地区部会が主催する地域住民も参加できる講座、研修会を年5回以上開催する。 また、コミュニティづくり懇談会等の実施する研修会・講演会に協力し、より多くの人に聞いてもらえるよう努めるとともに、参加者に地区部会活動に参加してもらえるよう、働きかけを行う。 さらに、市の出前講座等を町内自治会でも積極的に取り入れるよう働きかけ、参加者拡大に協力する。	(1)研修会については、会場の問題もあって、いずれも実施を見合わせた。 (2)コミュニティづくり懇談会では、コロナ禍において、地域福祉活動にどう取り組むべきか、万全の対策を行い、3回、延べ260名の参加を得た。また、講演内容を「コミ懇だより」に掲載し、各家庭に回覧した。 (3)各町内自治会でも出前講座を実施した。	A		
	⑱ 防犯対策の推進	6	各町内自治会の防犯パトロール隊結成率80%以上を確保・継続するとともに、パトロール回数を週1回以上実施するよう働きかける。 また、青少年育成委員会が中心となり、青色回転灯装着車によるパトロールを、学校の登下校時に合わせ、毎日3台以上で実施するとともに、子ども達の不審者に対する意識を高めるため、学校と協働で事業を行う。 さらに、町内自治会等とも共同で、防犯に関する講座・研修会を開催し、防犯意識の高揚を図る。	(1)各町内自治会による防犯パトロールについては、コロナ禍にも関わらず、多くでほぼ例年通り実施できた。 (2)青色回転灯装着車によるパトロール活動については、昨年度までと同様、コロナ禍にあっても学校のある日には毎日3台/日のペースで実施し、結果として、不審者の出没を蘇我中学校区で2件(地区部会エリアでは0件)に抑制できた。令和2年度はコロナの為か、千葉市の不審者総数は半減し、中央区全体で24件であった。蘇我中学校区の人口は中央区全体の1/5強なので、発生頻度は中央区の半分以下との結果が得られた。	A		
	⑲ 防災体制の充実	6	地域内の7つの避難所で避難所運営委員会が、安否確認や避難支援、避難所の立ち上げや運営訓練等の訓練を継続して年1回以上実施する。 また、避難所運営マニュアルは福祉的配慮を必要とする人への対応を含めて出来ているが、この体制を継続・充実するため、マニュアルの見直しを毎年実施するよう働きかける。 さらに、各避難所の備蓄品の充実を図るとともに、各団体と協力して防災に関する講座・研修会を年1回以上開催し、防災意識の高揚を図る。	(1)避難所の立上げ等の訓練は、11/8の市の訓練日を中心に、規模を縮小して実施した。多くの避難所では、運営委員・直近要員・施設管理者で実施した。 (2)令和2年度は実訓練がしづらい状況だったため、多くの避難所運営委員会では、マニュアルの見直し等を行った。 (3)避難所備蓄品の充実については、エアーマット10セットをはじめ、トイレキット、ランタン等の充実を図る事ができた。	A		

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況 (平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1 見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S: 目標を上回った。
A: 概ね目標を達成した。(8～10割)
B: 一部目標を達成した。(5～7割)
C: 大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性
生浜地区部会エリア	<p>① 地域支えあい連絡会の設置・推進</p> <p>② 支え合い活動の仕組みづくり</p> <p>③ 見守り体制をつくる</p> <p>④ 災害時に支援を必要とする人の避難支援</p> <p>⑤ すべての子どもを地域で育てる</p> <p>⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実</p>	<p>9 10</p> <p>7 9</p> <p>1</p> <p>6</p> <p>4 6</p> <p>2</p>	<p>平成27年4月に地域運営委員会を設立し、子どもの見守りを検討する「青少年部会」、高齢者及び要支援者が安心して暮らせるための見守りを検討する「高齢者・要支援者部会」、避難所開設や避難訓練の企画立案と避難のあり方を検討する「防災部会」を設け、各部会を中心に地域課題の解決に取り組む。</p>	<p>「生浜地区地域運営委員会」の中の「青少年部会」、「高齢者・要支援者部会」、「防災部会」の3つの部会で、従来の生浜地区における活動を引き継ぎ、具体化するため、継続して協議をした。</p> <p>また、同事業の推進にあたって、地区内の福祉事業所にも協力をいただいております、各事業所との連携が深まっている。</p>	A	<p>概ね計画どおり取り組みを実施した。</p> <p>安定した事業運営のためには、担い手や活動拠点を確保する必要がある。</p> <p>・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。</p>	
<p>【人口・世帯数】</p> <p>25,425人、11,918世帯</p> <p>【町内自治会数】</p> <p>11町内自治会</p> <p>【高齢化率】</p> <p>24.9%</p> <p>【地域の特徴】</p> <p>○村田町、浜野町、塩田町、生実町、南生実町を対象としたエリア。千葉市街地の中心よりやや外れ、南は市原市に接し、西には京葉工業地域を有している。古墳や神社仏閣も多く、古くからの歴史と伝統が引き継がれている地域でもある。</p>			<p>地区部会を中心に、高齢者のちょっとした生活上の困りごとを手伝う支えあいの仕組みづくりを行う。</p>	<p>地区部会のボランティア委員個人の活動として行っていた買い物やゴミ出し等のちょっとした困りごとを手伝うボランティア活動を組織的に行うため、「安心サポート生浜」(仮称)設立準備委員会を立ち上げ、組織化に向けた検討を行った。</p> <p>また、障害者支援施設ハピネス浜野の協力により、地区部会の会議や事務作業等を行う場所として、同施設の集客室を利用している。</p>	A		
			<p>要支援者が、地域で安心して暮らせるよう、民生委員が支援を必要とする人の同意を得、町内自治会と協力し、日頃のさりげない見守りを行う。</p>	<p>一部の町内自治会で見守り体制を構築し、活動を行っており、未実施の地域では、各町内自治会と民生委員が見守りの仕組みづくりについて協議を継続している。</p>	B		
			<p>地域運営委員会の「防災部会」で、災害時要支援者の避難支援体制について検討する。</p> <p>また、各避難所運営委員会が、避難訓練を実施するとともに、九都県市合同防災訓練に合わせた避難所開設訓練と避難所運営委員会を開催する。</p>	<p>6か所の避難所すべてに「避難所運営委員会」が設立されており、各避難所運営委員会が九都県市合同防災訓練に合わせた避難所開設訓練を行うとともに、3月8日に各避難所合同の「生浜地区合同防災避難訓練」を実施した。</p> <p>また、福祉避難所として行政から指定されている事業所に対し、一次避難所として避難者を受け入れていただけるよう、共通理解を図っている。</p>	A		
			<p>地域運営委員会の「青少年部会」で、子どもの安全を守るための見守り活動について検討する。</p> <p>また、各小学校の「セーフティウォッチャー」に地域住民が協力し、子どもの安全を守る活動を推進する。</p>	<p>学校が主体となって実施している「セーフティウォッチャー」に地域住民が協力し、登下校時の児童の見守りに取り組んだ。</p> <p>また、生浜地区地域運営委員会の「青少年部会」において、不審者情報の共有を図っている。</p>	A		
			<p>地区部会が、高齢者の集える場所を設け、仲間づくりや健康増進を図る機会を増やすため、隔月開催であった「ふれあい・いきいきサロン」を月1回開催する。</p> <p>また、福祉施設を利用しての高齢者の居場所づくりや、中央区健康課のヘルスサポーター養成教室を活用した地域で運動を継続するグループのリーダーを育成する。</p>	<p>地区部会では、「いきいきサロン」8会場を実施し、高齢者が交流や健康増進を図る機会を提供した。(2会場で週1回、1会場で月3回、1会場で月2回、4会場で年10回)</p> <p>老人クラブでは、グラウンドゴルフや輪投げ、ダーツ等の行事を多数開催している。</p>	S		

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況
(平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S: 目標を上回った。
A: 概ね目標を達成した。(8～10割)
B: 一部目標を達成した。(5～7割)
C: 大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度 of 取組の方向性
生浜地区部会エリア	⑦ 地域での健康づくり支援の充実	2 5	高齢者の健康増進を図るため、シニアリーダーによる健康体操を町内自治会と協力し広げていく。	地区部会では、いきいきサロンにおいて、区健康課やあんしんケアセンター浜野の協力で血圧測定や健康指導を開催しており、内容の充実を図っている。 老人クラブや体育振興会では、グラウンドゴルフ大会を開催している。 公民館や一部の町内自治会では、シニアリーダー体操教室を実施している。 一部の町内自治会では、あんしんケアセンター浜野の協力による定期的な健康体操や、毎朝のラジオ体操を実施している。有志の集まりによる毎朝のラジオ体操もある。	A		
	⑧ 地域でのスポーツ活動及び文化活動の推進	4 8	生浜地区体育祭や育成委員会主催の子どもふれあい祭り等の地域行事の際、子ども会と協力し、子どもの参加者増に努め、子ども達の健全育成を図る。	スポーツ振興会が、町内自治会の協力を得て「生浜地区体育祭」を開催し、地域の子供もスポーツに触れる機会を設け、子ども達の健全育成を図った。 育成委員会が、「子どもふれあい祭り」を開催し、昔遊びの体験等を行っており、地区部会としても体験コーナーを設けて参加し、地区部会のPR活動を行った。 各町内自治会では、餅つき大会や子どもの日イベント等を開催するとともに、地域住民が放課後子ども教室に協力し、子ども達の健全育成を図った。	A		
	⑨ 子育てサロンの充実	4	地区部会が、子育て中の親子とボランティアが自由に語り、情報交換することを通じて、子育て親子の仲間づくりを図るため、年39回、子育てサロンを開催する。 また、幼稚園・保育所・保育園との情報交換会を実施するとともに、地区内の災害ボランティアが、災害時に、保育所等の支援を行う。	地区部会が、子育て中の親子を対象に、4会場で年間39回、子育てサロンを実施し、子育て親子の仲間づくりに取り組んだ。区健康課等の専門職と連携を図り、内容の充実に努めた。 また、7月に幼稚園・保育所・保育園と情報交換会を実施し、子どもに関する問題について意見交換を行った。 さらに、災害時に幼稚園・保育所・保育園を支援する災害ボランティアを募り、災害時の支援体制を整えている。	A		
	⑩ 障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	3 8	障がい者を理解するための勉強会や施設訪問を実施する。 また、福祉施設と協力し、中学生を対象とした車椅子体験を行い、障がいについて学習する機会を設ける。 さらに、障がい者施設での作業補助や、施設が主催する祭り等の行事への参加、あるいは地域の祭り等に障がい者を招待するなど、障がい者と地域住民との交流を図る。	地区部会では、障がい者委員会が、障がい者への理解を深めるため施設訪問を実施するとともに、障がい者施設で施設内の清掃や施設行事を手伝うボランティア活動を行った。 また、生浜中学校1年生を対象に、福祉施設と協力した車椅子体験や、障がい者スポーツ選手を招いた車いすバスケットボール体験を行い、障がいについて学習する機会を設けた。	A		
	⑪ 世代間交流の場の提供	9	各町内自治会の盆踊り、運動会、お祭り等、誰もが参加できる地域行事を通じて、世代間交流を図る。	スポーツ振興会が町内自治会の協力を得て実施した「生浜地区体育祭」や、各町内自治会が実施しているお祭り等、年齢を問わず参加できる地域行事を通じて、世代間交流を図った。	A		

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況
(平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1 見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S: 目標を上回った。
A: 概ね目標を達成した。(8～10割)
B: 一部目標を達成した。(5～7割)
C: 大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度 of 取組の方向性
生浜地区部会エリア	⑮ 相談体制・情報提供の充実	10	地区部会が開催するふれあいいきいきサロンや子育てサロンで、スタッフが気軽に相談を受け付け、対応できないものは専門機関に繋げる。	地区部会では、ふれあいいきいきサロンや子育てサロンにおいて、スタッフが参加者の相談に応じ、対応できないものは専門機関を紹介する等、参加者が気軽に相談できる環境づくりに取り組んだ。 地域では、町内自治会や民生委員、ボランティア委員会が個別の相談に対応している。	A		
	⑰ 地域での福祉教育の推進	8	青少年育成委員会が、「敬老の集い」に中学生をボランティアとして参加させ、地域の高齢者との交流を行う。 また、福祉施設と協力し、中学生を対象とした車椅子体験を行い、障がいについて学習する機会を設ける。	各町内自治会で実施している敬老会に中学生がボランティアとして参加し、活動を通じて福祉の心を育む機会を設けるとともに、高齢者との交流を図った。 地区部会では、生浜中学校1年生を対象に、福祉施設と協力した車椅子体験や、障がい者スポーツ選手を招いた車いすバスケットボール体験を行い、障がいについて学習する機会を設けた。 育成委員会で実施している「子どもふれあい祭り」に中学生が吹奏楽や運営補助のボランティアとして参加し、活動を通じて福祉の心を育む機会を設けるとともに、参加者との交流を図った。 地域住民が放課後子ども教室に協力し、子ども達の健全育成を図った。	A		
	⑱ 防犯対策の推進	6	防犯パトロールが組織化している町内自治会は、定期的に防犯パトロールを実施する。 併せて警察と連携し、防犯講習会等を開催し、地域防犯力の向上を図る。	地区部会では、千葉県警交通課、中央署、生浜小学校の協力を得て、高齢者及び児童とその保護者を対象に、交通安全の講話等の内容で、「熟年者交通安全教室」を年1回実施し、交通安全意識の向上に取り組んだ。 また、いきいきサロン等で、防犯に関する注意喚起を促した。 防犯パトロールを組織化している町内自治会では、定期的に防犯パトロールを実施した。	A		
	⑲ 防災体制の充実	6	防災会の結成されていない町内自治会は、防災会の結成を目指す。 また、地域運営委員会の「防災部会」で、地域の防災について検討するとともに、地域全体で、年1回の防災訓練を実施する。	6か所の避難所すべてに「避難所運営委員会」が設立されており、各避難所運営委員会が九都県市合同防災訓練に合わせて避難所開設訓練を行うとともに、令和2年3月8日に各避難所合同の「生浜地区合同防災避難訓練」を実施した。 第13地区町内自治会連絡協議会の11町内自治会中、5町内自治会で防災会が設立されており、その内、2つの防災会が、地域住民を対象に、消火訓練等の防災訓練を年1回行い、地域の防災体制の充実に取り組んだ。	A		

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況 (平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1 見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支える仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S: 目標を上回った。
A: 概ね目標を達成した。(8～10割)
B: 一部目標を達成した。(5～7割)
C: 大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性
松波地区部会エリア 【人口・世帯数】 4,764人、2,622世帯 【町内自治会数】 1町内自治会 【高齢化率】 25.1% 【地域の特徴】 ○松波町を対象としたエリア。大規模な公務員住宅や民間のマンションなどもある閑静な住宅地域、学校の周辺には3大学、4高校及び千葉市教育センター、放射線医学研究所、東京大学生産技術研究所などの機関があり、一大文教地区をなしている。	⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実	2	地区部会が、高齢者の集える場を設け、仲間づくりや健康維持を図るため、「ふれあい・いきいきサロン」を実施する。 また、サロンの内容を工夫し、参加者の増加を図る。	いきいきサロンは、週2回のグラウンドゴルフ(雨天及び学校の長期休暇期間は休み)を松波公園で開催するとともに、月2回の脳トレを松波公民館で開催し、高齢者の集える場を設け、仲間づくりや健康維持を図った。 また、手芸を通じて、近隣の介護付き有料老人ホーム入所者との交流を図った。	A	概ね計画どおり取り組みを実施した。 安定した事業運営の為に、関係団体との連携を円滑にする必要がある。また、担い手を確保する必要がある。	・基本的な感染対策を行いながら、関係者や参加者の多い大規模なイベントを除き、すべての取組を実施する。
	⑨ 子育てサロンの充実	4	地区部会が、子育て中の親子とボランティアが自由に語り、情報交換することを通じて、子育て親子の仲間づくりを図るため、月2回、子育てサロンを実施する。	地区部会が、子育て中の親子を対象に、月2回、中央区健康課の保健師、栄養士、歯科衛生士による指導、読み聞かせボランティアによる本読み、工作、季節のイベント、スタッフ(助産師)による育児相談等を内容とした、子育てサロンを実施し、子育て親子の仲間づくりに取り組んだ。	A		
	⑯ 福祉情報誌の充実と「中央区ふくし・防災ガイド&マップ」の活用	6 10	地区部会が、地域住民に対して、地区部会事業への参加者の増加を図るとともに、地区部会活動への理解者を増やし新たな活動の担い手を発掘するため、広報誌を年5回発行する。	地区部会が、地域住民を対象に、地区部会活動の紹介と啓発、会員の募集状況等の報告、毎月の地区部会事業の日程の周知やボランティア募集を図るため、社協だよりを、年5回発行した。 また、松波町会のホームページに、地域の関係団体(地区部会、民児協、商工会、老人クラブ)のページを追加し、地域情報の充実を図った。	A		
	⑰ 地域での福祉教育の推進	8	地区部会が、地域の福祉活動に、児童・生徒がボランティアとして参加できる機会を設ける。 また、パラリンピックの開催に向け、地域で障害者理解の啓発を図る。	敬老会に、千葉商業高校の吹奏楽部が参加するとともに、赤い羽根の歳末募金に千葉商業高校青少年赤十字の生徒が協力し、活動を通じて、福祉の心を育む機会を設けた。 町会の夏祭りには、クラーク記念国際高校の生徒が参加し、子どもと山車を一緒にひいたり、ダンスやバンド演奏を披露した。 障害者理解の啓発を図る取組として、パラリンピック競技種目であるゴールボールのアジア大会を見学した。	A		
松ヶ丘地区部会エリア 【人口・世帯数】 11,920人、5,687世帯 【町内自治会数】 37町内自治会 【高齢化率】 28.6%	③ 見守り体制をつくる	1	地区部会が、ひとり暮らし高齢者等に対して、日常的な目配りや電話による安否確認を行い、地域で安心して暮らせるよう、見守り活動を継続して実施する。 また、研修会や報告会を通じて、問題点を改善しながら、より良い活動となるよう努める。	平成27年4月から、地区部会が、ひとり暮らし高齢者や障がいのある方などの内、見守りを希望する方(手上げ方式)及び見守りが必要と思われる方、92世帯に対し、目配りや電話による安否確認を開始し、継続した見守りに取り組んだ。 また、町内自治会や協力員に対し研修会を実施し、見守り活動に対する理解を深めることができた。	S	概ね計画どおり取り組みを実施したが、事業を継続していくために、担い手を確保する必要がある。時間をかけて、あきらめずに地域活動への参加を呼び掛けることが大切である。	・基本的な感染対策を行いながら、関係者や参加者の多い大規模なイベントを除き、少人数の取組又は人数を減らして実施する。 ・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。
	⑦ 地域での健康づくり支援の充実	2 5	地区部会が、千葉市のシニアリーダー養成講座修了者と協力し、松ヶ丘公民館を会場に週1回、葵幼稚園を会場に不定期ではあるが、介護予防教室を実施する。 また、「いきいき散歩クラブ」を月2回実施するとともに、「いきいきサロン」や「ゆうあいひろば」において、淑徳大学看護栄養学部の協力を受け、介護予防や引きこもり防止の講話(相談含む)を開催する。 さらに、各町内自治会において、有志によるグラウンドゴルフを定期的に行い、スポーツ振興会が中心となり大会を開催し、高齢者の健康増進を図る。	地区部会では、「いきいきサロン」や「ゆうあいひろば」のメニューとして淑徳大学看護栄養学部の協力を受け、介護予防や引きこもり防止の講話(相談含む)を行った。 また、「いきいき散歩クラブ(高齢者福祉委員会)」を月2回開催した。 さらに、千葉市のシニアリーダー養成講座修了者と協力し、松ヶ丘公民館(週1回)、葵幼稚園(不定期)、恵光園(週1回)、仁戸名自治会館(週1回)、都苑(不定期)、第3公園(週1回)でシニアリーダー体操を実施し、高齢者の健康維持・増進を図った。 あんしんケアセンターでは、さくら会館で健康体操を実施した。 各町内自治会では、有志によるグラウンドゴルフは盛んに行われ、大会を年3回開催している他、スポーツ振興会が年2回、大会を開催している。 「淑徳大学看護栄養学部」と「ひだまり運営委員会」が連携し、「淑徳オレンジカフェ」を月1回開催した。	S		

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況 (平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支える仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S: 目標を上回った。
A: 概ね目標を達成した。(8～10割)
B: 一部目標を達成した。(5～7割)
C: 大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度 of 取組の方向性				
松ヶ丘地区部会エリア	⑮ 相談体制・情報提供の充実	10	地区部会が、年3回、広報誌を発行するとともに、松ヶ丘中学校地区地域運営委員会が運用するホームページにより、地域のイベントや出来事を掲載し、地域情報の発信に努める。 また、「ひだまり」でスタッフが気軽に相談を受け付ける体制を整え、誰でも気軽に出入りでき、多世代の方が相談できる環境をつくる。	松ヶ丘中学校地区地域運営委員会が毎月開催している「円卓会議」で各団体のイベントや活動の情報収集及びPRに努め、運用するホームページにより、地域のイベントや出来事を掲載するとともに、「ひだまり」にサークル紹介や各団体のチラシを掲載、配布して情報発信に努めた。 また、「ひだまり」に役員が当番制で常駐し、問い合わせに対応し、その場で回答できないものは関係団体から回答する体制を整え、誰でも気軽に出入りでき、多世代の方が相談できる環境づくりに取り組んだ。	A						
<p>【地域の特徴】</p> <p>○松ヶ丘町の一部、仁戸名町の一部、星久喜町の一部、大森町の一部、宮崎町の一部を対象としたエリア。 戦後、京葉臨海工業地帯造成発展に伴い、全国から人が流入し人口が急増。以前は川鉄及びその関連会社に勤める住民が中心であったが、近年はその傾向は減少。平成4年度、千葉急行(現京成電鉄)の大森台駅が開業によりJR千葉駅や東京方面への交通の便が改善され、地区の活性化に役立っている。</p>											
川戸地区部会エリア	① 地域支えあい連絡会の設置・推進	9 10	各種団体・関係機関のそれぞれの機能を活かしながら役割分担を明確にしつつ、地域の福祉課題を共有し、課題解決に向けた取り組みが行えるネットワークづくりのため、情報交換を行い連携・協働に努める。	地区部会が主催する行事や活動(バス研修旅行、敬老会、福祉バザー、見守り隊の活動、お助け隊の活動)については、コミュニティ懇談会、第21地区連絡協議会、民生委員・児童委員協議会、スポーツ振興会、PTA、子ども会と意見交換を図りながら、関係団体の協力を得て実施している。	A	概ね計画どおり取り組みを実施したが、担い手不足で役員に負担がかかっており、安定した事業運営のためには、担い手の確保が必要である。	・基本的な感染対策を行いながら、すべての取組を実施する。 ・令和2年度については、活動中止が多く、交流の場は全くなかったため、令和3年度には活動を開始させたいと、再始動は難しいと判断しているため、小規模であっても以前の活動を行いたい。				
<p>【人口・世帯数】</p> <p>6,935人、3,274世帯</p> <p>【町内自治会数】</p> <p>13町内自治会</p> <p>【高齢化率】</p> <p>33.0%</p> <p>【地域の特徴】</p> <p>○川戸町、仁戸名町の一部、赤井町の一部、平山町(緑区)の一部を対象としたエリア。千葉市の中央台地に位置し、大網街道を境に東側は旧川戸の部落で、西側は高層住宅の立ち並ぶ地域である。周辺には、千葉南高校、千葉県がんセンター、国立千葉東病院などの公的機関が存在するが、千葉市の公的機関が少なく、川戸公民館が唯一のコミュニティの場である。また、高齢化率については、30%を超え高くなっている地域である。</p>											
③ 見守り体制をつくる								1	地区部会が、地域の各種団体等と連携し、ひとり暮らし高齢者等に対する日常的な見守り体制を強化し、声かけによる安否確認等、地域で安心して暮らせるよう、継続して見守り活動を実施する。	地区部会が、高齢者や障がいのある方など支援が必要な方を対象に、日常的な目配りや声かけによる安否確認等を行い、安心して地域で暮らせるよう、継続して見守り活動に取り組んだ。	A
⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実								2	地区部会が、高齢者の集える場を設け、仲間づくりや健康維持を図るため、月1回、ふれあい・いきいきサロンを実施する。 また、75歳以上のひとり暮らし高齢者を個別訪問し、サロンの案内を行うとともに、対象者が参加したくなるような企画を考える等、参加者の増加に努める。	地区部会が、いきいきサロン「ひまわり会」を年9回開催し、高齢者の仲間づくりや健康維持を図った。また、75歳以上のひとり暮らし高齢者を個別訪問し、サロンの案内を行うとともに、対象者が参加したくなるような内容を検討し、参加者の増加に努めた。	A
⑦ 地域での健康づくり支援の充実								2 5	地域の団体が、高齢者の閉じこもり防止や健康維持を図るための活動を推進する。	スポーツ振興会が毎週日曜日にラジオ体操と散歩を実施した。また、各町内自治会がランドゴルフを実施し、高齢者の健康維持を図った。	A
⑨ 子育てサロンの充実	4	地区部会が、子育て中の親子とボランティアが自由に語り、情報交換することを通じて、子育て親子の仲間づくりを図るため、年10回、子育てサロンを実施する。 また、民生委員・児童委員と連携して対象者を把握し、個別にサロンの案内状を配付し、潜在的な利用者の掘り起こしに努める。	地区部会が、子育てサロン「もーもークラブ」を年10回開催し、子育て支援を図った。また、参加者の増加には至らなかったが、民生委員・児童委員と連携して対象者を個別訪問してサロンの案内状を配付し、潜在的な利用者の掘り起こしに努めた。	A							

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況 (平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支える仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S: 目標を上回った。
A: 概ね目標を達成した。(8～10割)
B: 一部目標を達成した。(5～7割)
C: 大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性	
川戸地区部会エリア	⑪ 世代間交流の場の提供	9	地区部会や町内自治会等が、敬老会や福祉バザー、盆踊り等、地域住民が気軽に参加できる行事を実施し、世代間交流を図る機会を設ける。	地区部会が開催する敬老会に、千葉南高校、川戸中学校、川戸小学校の児童・生徒が参加し、高齢者と交流する機会を設けた。また、「福祉バザー」を開催し、世代を問わず参加できる地域行事を通じて交流を図った。 また、地域の団体が、盆踊り大会や、美化活動、スポーツ祭、餅つき大会等を実施しており、様々な地域行事を通じて住民の交流を図った。	A			
			⑫ 福祉情報誌の充実と「中央区ふくし・防災ガイド&マップ」の活用	6 10	地区部会が、地域福祉に関する情報を住民に提供する広報誌を年1回発行する。			地区部会が、地域福祉に関する情報を住民に提供する広報誌を年1回発行した。
星久喜地区部会エリア	① 地域支えあい連絡会の設置・推進	9 10	地域運営委員会の設置に向けて、各種団体・関係機関のそれぞれの機能を活かしながら、役割分担を明確にしつつ、地域の福祉課題を共有し、課題解決に向けた取組みが行えるネットワークづくりを行う。	平成30年4月に設立した地域運営委員会では、地域の関係団体が実施するイベント等の日程調整を行うなど、連携強化に努めた。 また、防災意識の向上を図るためのHUG体験やハイゼックス体験を実施するとともに、高齢者のひきこもり防止の一環として中学生合唱コンクールにひとり暮らし高齢者を招待した。(「こども110番のいえ」の方と顔見知りになるためのウォークラリーを予定していたが雨天中止となった。) さらに、地域運営委員会のホームページを開設し、関係団体の情報発信に努めた。	A	概ね計画どおり取り組みを実施したが、担い手の後継者がいないことや、町内自治会長が毎年替わるところがあり、引き継ぎが難しいなどの問題もある。 安定した事業運営のための担い手の確保や町内自治会との連携強化が必要である。	・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、徐々に活動を再開する。 ・基本的な感染対策を行いながら、関係者や参加者の多い大規模なイベントを除き、少人数の取組又は人数を減らして活動を実施する。	
			【人口・世帯数】	11,703人、5,673世帯	地区部会及び青少年育成委員会等が、子ども達の安全を守るため、学校と連携し、セーフティウォッチャー活動を実施する。 また、小学校PTAが自転車パトロールを行うとともに、青少年育成委員会が、学区内パトロール、子ども達と一緒に清掃活動、長期休暇前の学区点検を実施した。 さらに、育成委員会と公民館が共催し実施している「お泊りin星久喜」や、育成委員会と地区部会が共催し実施している「書き初め展」等の行事を通じて、子ども達との交流を図った。			A
			【町内自治会数】	24町内自治会				
			【高齢化率】	26.2%				
			【地域の特徴】	○矢作町、星久喜町の一部、松ヶ丘町の一部、青葉町の一部を対象としたエリア。 かつては純農村地帯だったが、東金有料道路の開通・宅地化の波とともに、世帯数も増加した。「千葉市都市緑化植物園」「青葉の森公園」などの公共施設を抱え、緑に囲まれ恵まれた環境にある。				
⑤ すべての子どもを地域で育てる	4 6	地区部会が、高齢者の集える場を設け、仲間づくりや健康維持を図るため、年8回、「ふれあい・いきいきサロン」を継続して実施する。	地区部会が、70歳以上の高齢者を対象に、青葉の森公園や都市緑化植物園の散策、理学療法士による「歩き方」講座や栄養士による「食生活」講座等を内容とした、いきいきサロンを年6回実施(2回は雨天中止)し、高齢者の仲間づくりや健康維持に取り組んだ。	A				
⑥ ふれあい・いきいきサロンの充実	2	地区部会が、子育て中の親子とボランティアが自由に語り、情報交換することを通じて、子育て親子の仲間づくりを図るため、年10回、子育てサロンを継続して実施する。	地区部会が、子育て中の親子を対象に、年10回、栄養士や歯科衛生士からの話、読み聞かせ、食生活改善推進員による簡単なおやつ作り、星久喜保育所訪問、クリスマス会等を内容とした、子育てサロンを実施し、子育て親子の仲間づくりに取り組んだ。	A				
⑨ 子育てサロンの充実	4	地区部会が、障がい者への理解に関するテーマを取り入れた研修会を開催するとともに、地域の障がい者施設でのボランティア体験などを通じて、障がい者との交流を図る。	地区部会が、障がい者に対し地域でどのような支援が出来るか考えるきっかけとするため、聴覚障がい者協会の方を講師に招き手話体験を実施するとともに、障がい者福祉委員会が11月上旬にある公民館主催の文化祭にて、作業所の作品を施設利用者と共に販売した。 また、星久喜小スポーツ振興会主催のふれあい大運動会には、星久喜小・中学校の特別支援学級の生徒が参加し、障がい者との交流を図った。	A				
⑩ 障がい者との相互理解と地域住民等との交流の推進	3 8							

中央区支え合いのまち推進計画の推進状況 (平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こども子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S:目標を上回った。
A:概ね目標を達成した。(8～10割)
B:一部目標を達成した。(5～7割)
C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度 of 取組の方向性
星久喜地区部会エリア	⑪ 世代間交流の場の提供	9	地区部会が、青少年育成委員会等の関係団体と連携し、星久喜公民館における大人と子どもの宿泊イベント等、各世代が気軽に参加できる行事を実施するとともに、敬老会に児童・生徒がボランティアとして参加できる機会を設け、世代間交流を図る。	星久喜小スポーツ振興会主催の「ふれあい大運動会」や「バスハイク」、育成委員会と公民館が共催し実施している「お泊りin星久喜」等、各世代が参加できる地域行事を通じて交流を図った。 また、地区部会が実施している敬老会に児童・生徒がボランティアとして参加し交流を図った。	A		
	⑭ 地域で福祉に関する講座や研修会等の受講機会の提供	7 8	地区部会が実施している「いきいきサロン」において、参加者に対する健康講座を取り入れ、介護予防について学習する機会を設けるとともに、地域行事でのボランティア体験等を通じて、地域住民の福祉力の向上や福祉活動への理解の促進を図る。	地区部会が実施している「いきいきサロン」において、理学療法士による「歩き方」講座や栄養士による「食生活」講座を取り入れ、介護予防について学習する機会を設けた。 また、敬老会における小中学生のボランティア体験を通じて、地域住民の福祉力の向上や福祉活動への理解の促進に取り組んだ。	A		
千葉みなと地区部会エリア	① 地域支えあい連絡会の設置・推進	9 10	地域支え合い連絡会を設置し、地区毎(千葉港・中央港・問屋町)の課題を把握するため、民生委員・児童委員の他、PTA等の学校関係者や企業も巻き込んだメンバーで意見交換会を実施する。	町内自治会や民生委員・児童委員、行政等の関係機関・団体が集まり、「千葉みなと地区部会」、「千葉みなと地区自治会連合会」、「新宿中学校避難所運営委員会」の定期会合を2か月に1回開催し、地域課題の意見交換を行った。 また、地域支え合い連絡会の設立に向け、必要な人材やボランティア、福祉活動推進員を確保するため、令和2年2月発行の地区部会だよりに募集記事を掲載した。	B	一部目標は達成したものの、支え合いや見守りの体制の構築には至らなかった。 自治会館や公民館のような場所がないので集いたくてもできない。最大の課題は場所の確保と、それを支える要員の確保。 安定した事業運営のためには、担い手や活動拠点の確保が必要である。	・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、徐々に活動を再開する。
【人口・世帯数】 10,225人、4,257世帯			ひとり暮らし高齢者や要介護者等について、まずその存在確認体制を構築し、必要に応じて安否確認・見守り活動が必要な方々に対してサービスが提供できるよう体制を整備する。	民生委員の協力にてひとり暮らしの高齢者や要介護者等の実態を把握した。また、マンションの管理人と情報交換し、各マンションの情報把握に努めた。	B		
【町内自治会数】 11町内自治会			避難所運営委員会と協力し、災害時の物資供給が遅延なく行われる体制を整備する。 また、各世帯に的確な情報を提供し、日頃から災害に強いまちづくりを図る。	避難所運営委員会では、災害時の対応を協議するため、隔月で定例会議を開催するとともに、年1回、避難所開設訓練を行った。 また、各マンションでトランシーバーを導入し、災害時の支援体制を整備した。 各マンションでは、年1回、消防による初期消火訓練等の防災訓練を実施した。	A		
【高齢化率】 11.4%			③ 見守り体制をつくる	1			
【地域の特徴】 ○中央港、千葉港、問屋町を対象としたエリア。ほとんどの住民がマンションに居住している。	⑱ 防災体制の充実	6					

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度～令和2年度)

主な成果	高齢化率の高い地域において、数多くのサロンを継続し続けるとともに、新規サロンの増設も行い、高齢者の健康づくりや外出機会の創出に繋げたり、地域の実情に照らし事業優先度の高い「支え合い活動」強化のため、既存の事業を精査、廃止により担い手の一部創出に繋げた。また、近隣の施設と連携して買い物支援の仕組みをつくった。
今後の課題	①担い手の高齢化 ②担い手不足とそれに伴う安定した事業運営(継続) ③地域活動の基盤となる町内自治会の機能低下 ④地域活動への理解や関心の希薄化 ⑤コロナ禍での安全・安心な事業実施 ⑥町内自治会との連携 ⑦事業の安定的運営のための財源確保 ⑧イベント実施時の活動拠点への参集

◆取組みテーマ別達成状況

【達成状況の目安】 S:目標を上回った。 B:一部目標を達成した。(5～7割)
A:概ね目標を達成した。(8～10割) C:大きく目標を下回った。(～4割)

取組みテーマ	重点取組項目数	達成状況	主な取組み実績
1 見守りの仕組みづくり	9	S 0	・地域の諸団体が連携し、見守り・支え合い活動の地域展開に向けた機運醸成のための「向こう三軒両隣活動」などを推進した。 ・民生委員が中心となり町内自治会と連携し、活動を開始した。 ・町内自治会と連携し、要支援者支援体制を構築した。 ・災害時の見守り・声かけ事業として、安否確認訓練を毎年実施している。
		A 7	
		B 2	
		C 0	
2 高齢者を支える仕組みづくり	7	S 0	・広報紙やイベントでの活動の広報とボランティア募集を行った。 ・ご近所たすけあい活動を強化するため、既存事業の見直しを実施した。 ・障害者施設と連携し、買い物支援の仕組みをつくり試行した。 ・町内自治会における支え合いカードを活用した災害時要支援者対策の仕組みづくりを行った。
		A 6	
		B 1	
		C 0	
3 障害者を支える仕組みづくり	3	S 0	・障害者とその家族とのふれあいバス旅行を実施した。 ・障害者施設のイベントへ参画した。 ・ユニバーサルデザインを意識したまちづくりのために、障害者週間にフォーラムを実施したり、障害者とその家族の居場所や地域との交流の機会を提供した。
		A 2	
		B 1	
		C 0	
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり	2	S 0	・ヘルスメイト、民生委員等と協力して子ども食堂を開催したり、コロナ禍においてはフードパントリーを実施した。 ・管理・運営している農園に園児・児童を招き収穫体験を実施した。 ・民生委員、主任児童委員、保健福祉推進員等と協力し子育てサロン(9地区13)を実施した。 ・地域のこども向けのイベントや小学校のフェスタの支援を行った。
		A 1	
		B 1	
		C 0	
5 健康づくり	2	S 1	・多種多様なサロンを継続実施しつつ、新規サロンを増設、健康づくり、外出機会を創出した。 ・既存のサロンで健康体操実施の時間を設けた。 ・いきいきサロン(13地区144)や散歩クラブ(6地区20)を実施した。 ・7月、8月の期間に3世代を対象としたラジオ体操を実施した。
		A 0	
		B 1	
		C 0	
6 防犯・防災に対する取組み	5	S 0	・民生委員、青少年育成委員、保護者による合同パトロールを継続実施した。 ・小学校・公民館に避難所運営委員会を設立、研修会を実施した。 ・一部の自治会において避難所運営マニュアルの見直しを行ったり、感染症対策に対応した避難所運営の見直しを行った。 ・自治会ごとに防災マップを作成、毎年更新している。
		A 2	
		B 3	
		C 0	
7 担い手の拡大とボランティアの促進	8	S 0	・広報紙の発行、ボランティア講座やイベントの実施により地域活動のPR、ボランティア募集を行った。 ・既存の事業の見直しを行い、2事業を廃止し担い手の一部確保に繋げた。 ・あんしんケアセンターと連携し、「認知症の声かけ体験」を実施した。
		A 6	
		B 2	
		C 0	
8 福祉教育・啓発	12	S 0	・近隣の小学校と赤い羽根共同募金の街頭募金を行った。 ・あんしんケアセンターと連携し、「認知症の声かけ体験」を実施した。 ・福祉まつりを開催し、こども向けの福祉体験コーナーを設け啓発を行った。
		A 9	
		B 3	
		C 0	
9 地域のつながりづくり	11	S 0	・世代間交流ができる「流しそめんとすいか割」、「もちつき大会」のイベントを開催した。 ・音楽会を通して地域のつながり、世代間交流の機会を創出した。 ・まちづくりについての語らい・学習の場(「みんなの学校」)を通して地域のつながりの場を創出している。 ・福祉まつりやURと連携した夏休み「ふくしの広場」を実施し、地域住民の交流の場を創出した。
		A 9	
		B 2	
		C 0	
10 相談支援体制と情報提供の充実	2	S 0	・あんしんケアセンターと連携し、サロン時に相談コーナーを設けたり、身近な問題をテーマにした講演会を実施し情報提供に努めた。 ・ホームページを開設し、地域情報について発信した。 ・12地区において、広報紙を発行し地区部会活動のPRを行った。
		A 1	
		B 1	
		C 0	
合計	61	S 1 A 43 B 17 C 0	

令和3年度の取組の方向性	コロナ禍のため安心安全な事業運営を前提に、重点項目に設定した取り組みを継続的に実施する。また、3年間の計画推進の結果、課題となったことに対しては行政や各関係機関とも連携し解決に向けた方策の協議も行っていく。
--------------	---

◆コロナ禍における好事例等

積橋地区部会			
取組内容	フードパントリーの実施	重点取組項目としての設定	あり
コロナ禍で計画されていた事業が中止される中、通常のこども食堂の開催による食事の提供の代替事業として、食品配布をするフードパントリーを2回実施した。初回は、子ども食堂に参加したことのある方に案内を送付し、希望者に配達する形式で実施された。2回目は、小学校や近隣の店舗に協力を仰ぎ、チラシの配布・掲示を行ったり、町内自治会の回覧で広報を行い、先着順で配布会場にて配布する形式で実施された。			

こてはし台中学校区地区部会			
取組内容	安心、安全な見守り活動の実施	重点取組項目としての設定	あり
地区内の高齢化率の上昇に伴い、4期計画において「見守り活動の実施」を重点取組項目に設定し、令和2年5月より75歳以上の独居と2人世帯の方を対象に活動が開始された。開始時期がコロナ禍であったが、地域内の見守り活動の重要性に鑑み、見守り対象者にマスクや手拭き用アルコール除菌ウェットティッシュ、見守り会員に体温計、パルスオキシメーターを配付し、安心・安全な事業実施に努めた。			

花見川地区部会			
取組内容	新型コロナウイルス感染症及び地域情報の継続的発信	重点取組項目としての設定	なし
地区部会事業が中止されているため、令和3年1月より地区部会の広報紙を毎月発行し、「新型コロナ感染症情報」や地域情報を継続して発信している。			

こてはし地区部会			
取組内容	コロナ禍での災害時安否確認訓練	重点取組項目としての設定	なし
当該地区部会ではいつ起こるかかわからない災害に備え、毎年秋に災害時安否確認訓練を実施している。令和2年度で7回目の実施となる訓練は、コロナ禍のため、「密を避ける」、「簡素化する」という方針に基づき、「個人型・分散型」の簡素化した訓練を実施した。例年は1日で実施し、各班長による報告会も行っていたが、令和2年度は14日間の訓練期間を設け、その期間中に協力員が安否確認対象者宅をまわり、場所を確認(訪問・声かけはしない)、その後各丁目連絡所をまわり報告するという形式で実施された。コロナ禍での実施にもかかわらず、協力員の参加率も94%と前年度を大きく上回る結果が得られた。			

さつきが丘・宮野木台地区部会			
取組内容	密を避けた子育てサロンの実施	重点取組項目としての設定	なし
当該地区部会の子育てサロンは、参加者が常時30名を超え、「子育て中のママたちの居場所」として地域に根付いているサロンであるが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から活動の自粛、中止が余儀なくされる中、「子育て中のママたちが気がかり」になったスタッフからの声から開催する運びとなった。7月の七夕のお楽しみ会の開催にあたっては、参加歴のあるママにお誘いのチラシとお手紙、かわいい折り紙を送付した。当日会場で短冊に願いごとを書いて笹に飾ってもらい、1組当たりの滞在時間を5分程度にするなどの工夫を行った。また、例年実施している10月のハロウィンや12月のクリスマスのお楽しみ会開催時のイベントにちなんで工作を地域の病院や店舗、小・中学校、公民館などに飾ってもらい、子育て中のママたちだけでなく、見た人たちが「ほっこりと笑顔になれる」趣向を凝らした取り組みも実施した。			

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
 S: 目標を上回った。
 A: 概ね目標を達成した。(8～10割)
 B: 一部目標を達成した。(5～7割)
 C: 大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性
検見川地区部会エリア 【人口・世帯数】 12357人、6410世帯 【町内自治会数】 5町内自治会 【高齢化率】 20.1% 【地域の特徴】 検見川神社を中心とした古い町	⑥ 地域福祉活動の担い手を育成するために区ボランティアセンターを活用し、ボランティアの育成・ボランティア活動の推進に努めるとともに、活動を周知し、幅広い分野におけるボランティア体験や地域活動への参加を促すなど、若者や企業ボランティア、高齢者パワーなどを活かし、人材の育成・活用に努めます。	7	ふれあい食事サービス事業のボランティアを通して福祉活動推進員の増員を目指す。また、併せて広報誌でのボランティア募集やボランティア養成講座を実施する。 各年度にボランティア講座を開催するとともに、年1回発行する広報紙でボランティア募集を行う。	担い手の確保を目的に、平成30年度、令和元年度とボランティア講座を開催。令和2年度はコロナウイルス感染症拡大防止のため、事業は未実施。 また、各年度に発行した広報紙で、ふれあい食事サービス及び福祉活動推進員、広報紙作成のボランティア募集も行った。	B	・ボランティア講座の開催、広報紙の発行を通じてボランティア募集を行ったが、なかなか人が集まらない状況で担い手確保には至らなかった。	・引き続きボランティア募集のための声かけ、講座開催の方向で進める。
花園地区部会エリア 【人口・世帯数】 21528人、10115世帯 【町内自治会数】 18町内自治会 【高齢化率】 22.8% 【地域の特徴】 JR新検見川駅北側に展開する古からの住宅地と花見川区役所を中心とする新しい住宅地(高層マンション群を含む)からなる。東大総合グラウンドに隣接、東西に貫く桜並木は有名。西側に花見川、千本桜緑地がある。	③ 地域の福祉課題に対応するため、地域包括ケアシステムにおける地域ぐるみの支援体制の充実にも努めるとともに、利用しやすいコーディネート機能づくり・相互助け合いのネットワークづくりの拡充や、要支援者などへの生活支援ボランティア(買い物、調理、ごみ出し、掃除等)の充実、独居高齢者の見守り活動・安否確認の推進に努めます。 また、認知症患者やその家族を支援するため認知症サポーター養成講座・認知症サポーターステップアップ講座などへ参加します。	1,2,7,8,9	① 災害時支援対策としての「支え合いカード」の仕組み作りを行い、その発展として ② 日常的な「見守り、安否確認」の実施(水平展開) ③ 生活支援としての 支え合い、助け合い活動の実施と展開(→点から面に) ④ 福祉のネットワークへの協力 ⑤ 講習会への参加	①災害時の支援対策として、「支え合いカード」の仕組みづくりを進めていたが、コロナ禍となり市の方針変更により、感染症に対応した「避難所ごとの使用範囲と使用方法」の全面的な見直しを先行して実施し、一応の成果は得られたが、継続的に検討が必要である。特に感染者対策の収容等が難しい。従来の要支援者対策もこれに含まれる。 また、敬老会代替事業として「感染症予防資材の配布」を地区部会として受託したが有用であった。 ④自治会ルートによる啓発用リーフレットの配布・掲示、地区部会だよりの配布、サロン・子育てサークル、公園清掃・グランドゴルフの実施	A	・全般的にはコロナ禍の影響を大きく受け、対面活動はできなかった。日常的には直接的な活動は抑え気味ではあったが、工夫して対応した。 「花園おせっかい」は継続実施されている。 ・従前の要支援者対策に加え、自宅避難者対策も取り入れる必要がある。 ・イベントが再開された時の要員確保も対策が必要である。	コロナ禍で活動再開の見通しは立てづらいが準備はしていく。 「日常対応」の強化、「避難所の使用範囲と使用方法」の理解促進、訓練、イベントの再開
朝日ヶ丘地区部会エリア 【人口・世帯数】 10915人、5337世帯 【町内自治会数】 12町内自治会 【高齢化率】 37.0% 【地域の特徴】 戸建、団地、マンションの混じった住宅地。	⑤ 障がいのある人もない人も共に暮らしやすい地域を目指して、相互理解を深めるための啓発や交流の促進(障害者福祉施設等でのボランティア活動など)に努めます。	3,8	障がい者とのふれあいバス旅行や、障がい者も参加しやすいふれあい喫茶を実施し、地域住民との交流の機会を作る。各年度にふれあいバス旅行を1回、ふれあい喫茶を2回実施する。	障害者とのふれあいバス旅行は、平成31年度は参加者38名の内、障害や要介護の方が15名、令和元年度は31名の内20名が参加。令和2年度はコロナウイルス感染症拡大防止のため未実施。 また、ふれあい喫茶については、平成31年度は2回実施、令和元年度は1回(3月は中止)。地域の方のバッチワーク等の作品を展示、作品を通じた交流も生まれ、出展者の創作意欲の向上にも繋がるなど相乗効果も見られた。	A	令和2年度を除き、概ね計画どおりに実行でき、懸案事項であったあんしんケアセンターとの連携も図れるようになってきている。コロナ禍の中、安心・安全に事業を実施していかなければならない。	コロナウイルス感染症の拡大の状況等を勘案し、可能な範囲で事業を実施していきとともに、あんしんケアセンターとも連携を図っていく。
	⑦ 社協地区部会や町内自治会等が、地域における団体活動を充実するため、社会福祉協議会、あんしんケアセンター、行政等が連携し地域を支える様々な福祉情報等の共有と、わかりやすい情報として発信・受信するための仕組みをつくり、住民相互の気軽に相談できる場を確保するとともに、団体同士の連携・協力により組織強化に努めます。	9,10	いきいきサロン内での相談受付やあんしんケアセンター・消費生活センターによる講演、広報誌の発行を通して、地域住民が情報を手に入れやすい環境づくりに取り組む。 各年度に広報紙を3回、いきいきサロンを40回実施する。	広報紙については、平成30年度・令和元年度は各3回、令和2年度は2回発行。 いきいきサロンについては、平成30年度は54回、令和元年度は50回(3月は中止)、令和2年度は26回開催。サロン開催中に身近な問題をテーマに専門職による講演会も実施。 また、あんしんケアセンターとの連携を密にするため、講座の依頼や広報紙への寄稿も行ってもらっている。	A		

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
 S: 目標を上回った。
 A: 概ね目標を達成した。(8～10割)
 B: 一部目標を達成した。(5～7割)
 C: 大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性
犢橋地区部会エリア 【人口・世帯数】 10578人、5309世帯 【町内自治会数】 15町内自治会 【高齢化率】 30.6% 【地域の特徴】 昔からの農村地域(犢橋町)と昭和30年代に開発された新興住宅地があり、戸建て住宅の多い地域。	日頃から隣近所との挨拶などのコミュニケーションを図るとともに、既存の施設を有効利用した居場所づくり、親しみ、ふれあう環境づくりを推進し、地域住民が地域活動に関心を持つきっかけとなるよう、地域のイベント、祭り、町内自治会行事等の周知に努めます。また、子ども・高齢者・障害者等と地域住民が相互交流できる機会を増やし、若い世代を含めた様々な世代間の交流を通して互いを理解し合うとともに、情報交換を促進します。	9	地区部会活動の基本理念をふまえた実践活動の旗印である「あなた運動」を積極的に推進し、活動の拠点である犢橋地域福祉交流館での各種イベント事業や、各町内自治会等が実施する夏祭り等を通じ地域住民相互の交流と絆の醸成に努める。 具体的には、地区部会活動として、①昔遊びを年2回、②流しそうめんを年1回、③餅つき大会を年1回、④ふれあい事業を9団体に実施する。また、自治会活動として、①夏祭りを4自治会で、敬老会を8自治会で実施する。	地域住民相互交流や絆の醸成を目的とした地区部会主催の活動、町内自治会主催の活動共に、令和2年度を除き目標どおりに実施できた。	A	目標自体は概ね達成できたが、地区部会エリアが広く、各種イベントを実施する上での参集に制約がでてきてしまう。 また、各種イベントを実施していく上で、各団体役員の高齢化、担い手が不足していることによる事業拡充・強化にも制約がでてきてしまう。	コロナの終息が見えないため、常に感染状況を勘案し、スタッフの健康面を最優先し、実施可能な事業に取り組んでいく。
こてはし台中学校区地区部会エリア 【人口・世帯数】 9173人、4107世帯 【町内自治会数】 10町内自治会 【高齢化率】 29.5% 【地域の特徴】 新興住宅地と旧農村	地域の福祉課題に対応するため、地域包括ケアシステムにおける地域ぐるみの支援体制の充実と努めるとともに、利用しやすいコーディネート機能づくり・相互助け合いのネットワークづくりの拡充や、要支援者などへの生活支援ボランティア(買い物、調理、ごみ出し、掃除等)の充実、独居高齢者の見守り活動・安否確認の推進に努めます。 また、認知症患者やその家族を支援するため認知症サポーター養成講座・認知症サポーターステップアップ講座などへ参加します。	1,2,7,8,9	独居高齢者等の見守り・安否確認体制づくり 初年度に地区ごとの現状把握及び体制構築に向けた計画の検討を行い、次年度に活動の試行、最終年度に試行活動後の計画の改善を行い、本格的に活動を実施する。	平成30年6月に体制構築に向けた準備委員会を発足、アンケート調査に向けた対象者や内容等の検討、自治会長に対しての状況説明に向けた検討等年6回の委員会を実施。 令和元年度は年6回の委員会を実施、7月に10自治会の75歳以上の独居者及び2人世帯を対象にアンケート調査を実施。 43世帯が見守り・安否確認を利用することとなり、見守り活動計画書を作成、令和2年5月より活動を開始。見守り対象世帯にコロナ感染対策物品を配付し状況確認、安心安全に実施できるよう、見守り会員に体温計とパルスオキシメーターを配付した。	A	民生委員を中心として、見守り活動を開始することができたが、町内自治会との連携強化が更に必要である。 また、コロナ禍でもあるため、必要な情報をタイムリーに見守り対象者に伝えていかなければならない。	民生委員に加え、町内自治会との連携強化を図り、活動を継続実施していく。
幕張・武石地区部会エリア 【人口・世帯数】 4776人、2440世帯 【町内自治会数】 3町内自治会 【高齢化率】 24.7% 【地域の特徴】 旧住民と新住民との混合地域。高齢化が進んでいる。現在区画整理が進められている。	地域の福祉課題に対応するため、地域包括ケアシステムにおける地域ぐるみの支援体制の充実と努めるとともに、利用しやすいコーディネート機能づくり・相互助け合いのネットワークづくりの拡充や、要支援者などへの生活支援ボランティア(買い物、調理、ごみ出し、掃除等)の充実、独居高齢者の見守り活動・安否確認の推進に努めます。 また、認知症患者やその家族を支援するため認知症サポーター養成講座・認知症サポーターステップアップ講座などへ参加します。	1,2,7,8,9	支え合い、助け合いのできる地域社会づくりのため、地区部会と町内会が協力し、要支援者の支援体制を構築する。 計画初年度に各町内会の要支援者を把握し、支援体制のネットワークを作り、次年度に普段できる要支援者への見守り活動(安否確認等)や生活支援(買い物、ごみ出し等)を推進、最終年度に会員相互のステップアップのための各種講座を実施し、各機関との連携を図る。	・平成30年度については、各町内会の災害時における要支援者について把握、支援体制を構築するとともに災害時の要支援者の支援について研修会を実施。 ・令和元年度については、各町内会間で支援体制についての情報交換を行い、支援体制の充実、ネットワークの強化を図った。 また、地域での認知症患者の増加に伴い、「認知症の方への声掛け体験」講座をあんしんケアセンターと連携のもと実施した。 ・令和2年度については、コロナ禍の中、要支援者に対する支援が充分でなく、各機関との連携もあまりとれなかった。	A	1 地区部会と町内会が協力し要支援者の支援体制を構築することができた。 2 会員相互のステップアップのための各種講座を実施し、各機関との連携を図ることができた。 今後も地区部会と町内会が連携し、要支援者への支援対策を充実させていく必要がある。	会員相互のステップアップのため、各種講座を実施し、各機関との連携を図る。

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
 S: 目標を上回った。
 A: 概ね目標を達成した。(8～10割)
 B: 一部目標を達成した。(5～7割)
 C: 大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性
花見川地区部会エリア	住民自ら健康への関心を高めるとともに、イベントや講習会、スポーツ、サークル活動など健康づくりの機会への積極的な参加や心身の健康づくりに取り組むとともに、体操・サロン等を通じた日中の居場所づくりや講演会など介護予防活動の推進に努めます。また、糖尿病対策として、標語やポスターの掲示など啓発に努めます。	5	平成30年1月から3月のサークル数71サークルを3年後に、81サークルに増やす。 初年度に75サークル、次年度に78サークル、最終年度に81サークルに増加させる。	平成30年度末は80サークル、令和元年度末は81サークル、令和2年度末は83サークル(令和2年度はコロナ禍で34サークルのみ実活動)	S	・消滅してしまうサークルもあるが、サークル数が増やせたことで居場所づくりという環境面の充実に繋がった。 また、参加者の意識が旺盛なことが貴重である。地域住民全体の超高齢化に伴い、サークルをいかに存続させるかが大きな課題である。 ・死亡・入所・入院・辞退などで一進一退であるが、対象者は増加傾向であり中身を検証する必要がある。 また、コロナ禍で見守りをする者間で十分な話し合いを行えず、対象者との接点も持ちにくい。ため、新しい取り組みを創造していきたい。	・コロナ禍の中、いつ活動が開始できるか不透明であるが、取り組みが消えないよう努めるとともに、屋外活動に誘導したい。
【人口・世帯数】 11099人、5666世帯 【町内自治会数】 18町内自治会 【高齢化率】 40.0% 【地域の特徴】 戸建住宅(昭和30年代後半より入居)、農林地帯、UR団地(分譲)、マンション群の混在地域。	地域の福祉課題に対応するため、地域包括ケアシステムにおける地域ぐるみの支援体制の充実に努めるとともに、利用しやすいコーディネート機能づくり・相互助け合いのネットワークづくりの拡充や、要支援者などへの生活支援ボランティア(買い物、調理、ごみ出し、掃除等)の充実、独居高齢者の見守り活動・安否確認の推進に努めます。 また、認知症患者やその家族を支援するため認知症サポーター養成講座・認知症サポーターステップアップ講座などへ参加します。	1,2,7,8,9	独居高齢者見守り活動の強化 見守り対象者が年10%程度増加する見込みであるため、活動の強化に努める。(平成30年3月の見守り対象者33名を3年後には40名と予想) 初年度33名、次年度36名、最終年度40名を目指す。	見守り対象者は、平成30年度末37名、令和元年度末30名、令和2年度末31名	B	・自治会は新年度に入り新しい構成で見守り活動も出発した。前年度の反省点を鑑み、活動の強化を図りたい。	・自治会は新年度に入り新しい構成で見守り活動も出発した。前年度の反省点を鑑み、活動の強化を図りたい。
	日頃から地域での防災意識を高めるとともに、災害時における地域防災や、協力体制の仕組みづくりの充実に努めます。また、自然災害等による被害を軽減するため住宅の耐震化や家具などの転倒防止、食品の備蓄等に努めます。	6	各避難所の開設、運営マニュアルの見直し、更新 3年の期間をかけて各避難所の運営マニュアルを見直し、更新をしていく。	一部の町内自治会でマニュアルの見直し、更新の実施。	B	・自治会が高齢化で弱体化しており、避難所ごとに見直しづくりが進んでいない。高齢化(高齢化率50%)し、名前だけの自治会の再生に取り組みたい。	・高齢化率50%でも活動できる方策を考えたい。
花見川第2地区部会エリア	地域の福祉課題に対応するため、地域包括ケアシステムにおける地域ぐるみの支援体制の充実に努めるとともに、利用しやすいコーディネート機能づくり・相互助け合いのネットワークづくりの拡充や、要支援者などへの生活支援ボランティア(買い物、調理、ごみ出し、掃除等)の充実、独居高齢者の見守り活動・安否確認の推進に努めます。 また、認知症患者やその家族を支援するため認知症サポーター養成講座・認知症サポーターステップアップ講座などへ参加します。	1,2,7,8,9	生活支援活動強化のため、担い手不足の解消を図る。 支え合い活動を継続して実施していくとともに、新たな担い手確保のための講座等を年1回実施する。	・平成30年度、令和元年度ともに年間40件程度の支え合い活動を継続して実施。活動のPR及び担い手確保のため、団地内のイベント時に協力を呼びかけるとともに、広報紙『ハンドハンドだより』も発行した。令和2年度はコロナ禍のため活動を自粛。	A	事業を継続実施していくためにも新たな担い手確保が必要であるが、地域全体が高齢化している状況もあり、担い手の確保が難しい。	できる範囲で、支え合い活動を継続するとともに、担い手確保のための広報、講座の実施などを検討する。

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
 S:目標を上回った。
 A:概ね目標を達成した。(8～10割)
 B:一部目標を達成した。(5～7割)
 C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性
こてはし台地区部会エリア 【人口・世帯数】 5967人、2855世帯 【町内自治会数】 1町内自治会 【高齢化率】 47.9% 【地域の特徴】 昭和46年に千葉県住宅供給公社が開発した戸建中心(テラスハウス25%)の住宅街。	①	9	認知症や障害者などを抱える家族の方などが、気軽に集える居場所づくり。 計画初年度に研修会への参加、先行事例の調査、居場所づくりの内容の検討を行い、次年度に居場所づくりのための地域内の調査、検討を行い、最終年度に具体的な検討を行い、居場所を確保、活動の実施に繋げていく。	・平成30年度に居場所づくり検討チームを設け、研修会への参加、先駆取組団体への訪問研修を行い、認知症への理解を深めた。 ・令和元年度にあんしんケアセンターこてはし台と協力し、地域内に居場所にふさわしい場所を確保することができた。 ・令和2年度は居場所の開設を計画していたものの、コロナ禍のため実現できなかった。	A	・居場所づくりの場所の確保が出来たことは大きな成果であった。開設にあたっての名称、実施回数やスタッフの確保、広報や周知、諸費用等財源の確保が課題である。また、コロナ禍のため、安心安全な実施も課題となってくる。	
	③	1,2,7 8,9	「地域支え合いの街づくり」の前進をめざして地域関係者との連携を強化する。 そのため、初年度に「ご近所たすけ合い」「見守り・声かけ」活動の充実を図るとともに、「ふれあい事業」見直しに向けた検討、包括ケア会議等へ積極的に参加する。そして、次年度に「ふれあい事業」の具体的見直しを実施、地域包括ケア会議を通じた地域関係者との連携強化、最終年度に地域包括ケアシステム構築の具体的な検討に参加する。	・平成30年度、「ご近所たすけ合い」「見守り・声かけ」の活動は、コーディネーター会議で検討、より一層のレベルアップが図られた。 ・令和元年度、支え合い活動の担い手確保のために、ふれあい事業の見直しを行い2事業を終了させ、担い手不足を補うこととした。 ・令和2年度、地域包括ケアシステムの構築に向けた地域ケア会議にて支え合い活動を反映させた協議を行う予定であったが、コロナ禍のため実現できなかった。	A	・地域としての支え合い活動の重要性を鑑み、事業の見直しの中で、2事業を終了させたことは評価できる。地域包括ケアシステムの構築に向け、地域ケア会議を通じて支え合い活動の取組について地域に理解を得ていかなければならない。	①居場所の開設、②地域ケア会議への参加、③ホームページについての地域への周知について、地区部会の活動方針の項目に掲げ取組を行っていく。
	⑦	9,10	「街づくりホームページ」の情報発信と「若い世代が住んでみたい、住んで良かった街づくり」についての検討。 初年度にホームページ情報発信体制・内容の充実を図り、次年度に地域内の不動産業者等にホームページへの参加を働きかけつつ、「街づくり」についての検討を行う。そして最終年度に「街づくり」の取り組み体制の検討を行う。	・平成30年度、こてはし台の街ホームページを開設・公開することができた。 ・令和元年度、地域の不動産業者等にホームページへの参加を働きかける予定であったが、できなかった。 ・令和2年度、コロナ禍で活動できなかった。	B	・ホームページを公開できたことは評価できる点ではあるが、地域の関係業者等への働きかけができなかったため、地域の関係業者等と話し合い、ホームページについて共通認識を得ることが課題である。	
	②	5	ラジオ体操や、いきいきサロン内で健康体操を実施するとともに、イベントや講習会など、住民の健康づくりのきっかけづくりに努めます。 既存のサロンにて健康体操を実施しつつ、健康に関わる講座を実施する。またラジオ体操の実施に向け、初年度に開催場所の選定、次年度も引き続き開催場所の選定と整備を行い、1ヶ所で実施、最終年度は開始されたラジオ体操を継続実施していく。	あんしんケアセンターの協力により、いきいきサロン内で健康体操を取り入れサロンを実施することができた。また、ラジオ体操の実施に向け、開催場所の選定やスポーツ振興会との協働で実施をする予定であったが、騒音の問題で実施には至らなかった。令和2年度はコロナ禍のため事業自体は実施できなかった。	B	・健康づくりきっかけのため、サロン内で健康体操の実施はできたが、ラジオ体操は実施できなかった。実施に向け騒音等の問題をクリアできる場所の選定が必要である。	
天戸中学校区地区部会エリア 【人口・世帯数】 18990人、8617世帯 【町内自治会数】 17町内自治会 【高齢化率】 32.9% 【地域の特徴】 農村地域と新興住宅地域。	⑤	3,8	地区内の障害者福祉施設イベントの企画立案に携わり、実施にあたっては、地域内のボランティアグループや赤十字奉仕団などに協力を呼びかけ、支え合い、助け合いのできる地域社会づくりに取り組む。 継続して3か年、障害者福祉施設イベントに参画し、地域団体をまきこんだ取り組みを行う。	平成30年度、令和元年度と地域の障害者福祉施設の「栗の木」のイベントに参画することはできたが、地域をまきこんでの取組は不十分だった。	B	・イベントに参画したものの、地域団体をまきこむための取組は行えなかった。より効果的な広報活動、地域住民への理解や関心が高まるような工夫を検討していく必要がある。	地域が広範なこともあり、18町内自治会全てを巻き込むことは調整等の面から難しいため、先行して数か所の自治会と連携しながら課題となっていることに引き続き取り組んでいく。
	⑧	6	自治会と協力し、防犯活動を実施すると共に、地域全体の情報交換会を開催し、情報の共有や防犯活動の強化、充実に取り組む。 最初の2年間で情報交換会開催に向けた各団体との調整を行い、最終年度に情報交換会を2回開催する。	地域の防犯意識の向上と活動強化のため、自治会と協力し連携を密にしながら活動に取り組むべく各団体との調整も一部行ったものの情報交換会の開催には至らなかった。	B	・自治会により温度差もあり調整も難しい現状がある。自治会間の防犯意識の向上を図り、地域として意識の平準化をしていく必要がある。	

花見川区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
 4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
 7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
 10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
 S: 目標を上回った。
 A: 概ね目標を達成した。(8～10割)
 B: 一部目標を達成した。(5～7割)
 C: 大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性
さつきが丘・宮野木台地区部会エリア 【人口・世帯数】 10532人、5249世帯 【町内自治会数】 15町内自治会 【高齢化率】 35.2% 【地域の特徴】 古くからある閑静な農村地域と、その後比較的新たにできた住宅地域を含む地区。	⑤ 障がいのある人もない人も共に暮らしやすい地域を目指して、相互理解を深めるための啓発や交流の促進(障害者福祉施設等でのボランティア活動など)に努めます。	3,8	・障害のある人もない人も共に暮らすための「フォーラム」(講演会)を年1回継続開催する。 ・成年後見についての取組みを進める。初年度に、NPO法人協力のもとサークルを立ち上げ、次年度にその広報・周知活動、最終年度にサークル利用者数を増やしていく。 ・団体参加の「福祉まつり」を年1回開催し、障害のある人もない人も共に参加し、すべての人が理解しあえるやさしい町づくりを構築する。また、「おひさまクラブ」も継続して実施していく。	・ユニバーサルデザインの地域づくりのため、平成30年度、令和元年度については、「福祉まつり」の開催、フォーラム(講演会)の開催、「おひさまクラブ(専門職を交えての障害のある方と家族の語らいの場)」の実施、「おひさま後見サークル」の立ち上げを行った。また、令和2年度はコロナ禍で事業が実施できなかったため、地域住民を対象としたアンケートを実施、必要に応じて個別支援も行った。	A	ユニバーサルデザインを意識した地域づくりを推進することができた。 また、防犯のため合同パトロールの継続実施、防犯意識向上のための啓発に取り組むことができた。 担い手不足や担い手の高齢化等の問題もある中、事業を継続実施していくことが課題である。	事業を継続実施していく。
幕張本郷中学校区地区部会エリア 【人口・世帯数】 25884人、13159世帯 【町内自治会数】 4町内自治会 【高齢化率】 13.2% 【地域の特徴】 JR幕張本郷及び京成幕張本郷駅を中心に沿線を挟んで両側に広がる町。戸建も多く、マンションも比較的多い。	④ 子どもの健やかな成長のため、福祉意識を醸成(福祉教育の充実)する取組を推進するとともに、子育て世帯の孤立防止や見守り活動の推進、子どもの貧困や虐待・DVの早期発見、関係機関への連絡などに努めます。	1,4,8	参加者同士の交流の促進、子育てに役立つ資料の配付など子育て世帯支援機能を強化し、身近な子育ての先輩としてボランティアが参加者の育児の悩みに耳を傾けるなど、内容の充実した子育てサロンの開催に取組む。 引き続き、赤ちゃんサークルと1歳児ノンノンサークルを年各10回～11回開催する。	【赤ちゃんサークル】については、平成30年度11回開催で187人、令和元年度9回開催で117人参加。 【1歳児サークルノンノン】については、平成30年度10回開催で76人、令和元年度5回開催で39人参加。開催場所の公民館の工事で中止になった月があったが、参加対象者への周知が徹底されず、令和元年度の後半の参加者は全くない状況であった。 令和2年度は両サークルともコロナの影響で全て中止。	B	令和元年度の1歳児サークルを除き目標は概ね達成できた。 コロナの感染拡大が終息しない中、①どのような対策をどこまで行えば安全に実施できるのか、②サークル活動を再開する場合、その周知方法が課題である。	・新規参加者向けには、地域保健推進員、保健センター育児サークルからの案内を強化し、月齢児、1歳児サークルへの周知方法が課題のため、再開にサークル活動を再開する場合、その周知方法が課題である。
畑地区部会エリア 【人口・世帯数】 6174人、2782世帯 【町内自治会数】 6町内自治会 【高齢化率】 32.5% 【地域の特徴】 古くからある閑静な農村地域と、その後比較的新たにできた住宅地域を含む地区。	③ 地域の福祉課題に対応するため、地域包括ケアシステムにおける地域ぐるみの支援体制の充実にも努めるとともに、利用しやすいコーディネート機能づくり・相互助け合いのネットワークづくりの拡充や、要支援者などへの生活支援ボランティア(買い物、調理、ゴミ出し、掃除等)の充実、独居高齢者の見守り活動・安否確認の推進に努めます。また、認知症患者やその家族を支援するため認知症サポーター養成講座・認知症サポーターステップアップ講座などへ参加します。	1,2,7,8,9	地区部会を中心に支え合い体制を構築する。 3年の計画期間を通して、支え合い体制を構築すべく各自治会にて検討、地区部会定例会にて情報交換を実施し、初年度に1自治会、次年度に3自治会、最終年度に6自治会で活動を実施する。	平成30年5月、地区部会エリア内の75歳以上の独居の方を対象に、民生委員と地域のボランティアにより活動を朝のゴミ出しに限定し実施。また、近隣の障害者施設と連携して買い物支援の仕組みづくりを行い試行した。	A	・独居高齢者が多いという地域的な課題がある中で、ゴミ出しの支え合い活動が開始されたため、目標は概ね達成できた。担い手も限定されているが、今後も継続実施していくことが必要である。 ・防犯パトロールを継続して実施はしているが、担い手の高齢化で事業継続することが難しくなってきた自治会もある。	・事業を継続実施していく。 ・パトロールを可能な範囲で継続実施しつつ、「向こう三軒両隣」の意識した近助同士の防犯を呼びかけていく。
	⑧ 地域での防犯意識を高め、防犯パトロールの実施や防犯マップの作成・活用など、自主防犯活動を強化・充実することで、安心・安全な町づくりに努めます。	6	防犯パトロールを全自治会にて実施する。 初年度に4自治会、次年度に5自治会、最終年度に6自治会で実施する。	防犯パトロールを4自治会で継続して実施している。	B		

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度～令和2年度)

主な成果	主に高齢者を対象とした多世代交流や健康増進などについて、地区での活動が増えていった。 また、気軽に集える場づくりとして地域交流カフェの活動も始まった。
今後の課題	ほとんどの地区に共通する課題として、活動に携わる人材の発掘と育成が急務となってきている。 また、新型コロナウイルス感染症の状況下において安全を確保しつつ交流と介護予防を図る方法を考えていく必要がある。

令和3年度の取組の方向性	新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、感染予防を第一にしたうえで活動を再開・拡大してゆく。 特にR2年度に各種イベントや事業が開催できなかったことを踏まえ、感染予防に注意を払いつつ交流を図り、子育て世代や高齢者の健康面に留意して取り組んでゆく。
--------------	---

◆取組みテーマ別達成状況

【達成状況の目安】 S:目標を上回った。 B:一部目標を達成した。(5～7割)
A:概ね目標を達成した。(8～10割) C:大きく目標を下回った。(～4割)

取組みテーマ	重点取組項目数	達成状況	主な取組み実績
1 見守りの仕組みづくり	8	S 1 A 7 B C	区内10の自治会で住民主体の見守り活動が継続実施され、1自治会と1地区部会範囲内で生活上のちょっとしたお手伝い(ごみ出しなど)支援の活動を行っている。 また、民生委員児童委員によるあんしんカード配布や、地域内施設の協力による買い物支援サービス(3か所)も行われている。
2 高齢者を支える仕組みづくり	4	S 2 A 2 B C	区内12の地区部会で計93か所のいきいきサロンが開催され、地域内での交流や介護予防に取り組んでいる。 また、10自治会での見守り活動や2か所の支え合い活動、3か所の買い物支援が行われている。
3 障害者を支える仕組みづくり	3	S 2 A 1 B C	区内の1地区部会で例年継続的に障害児者団体との交流会を行っている。 また、2地区部会の災害時避難所開設訓練において、障害を持つ住民の避難について計画上に盛り込むなどしている。
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり	3	S 2 A 1 B C	区内12の地区部会で計17か所の子育てサロンが開催され、子育て中の親同士の交流などに取り組んでいる。 また、区内の子育て関連情報の編集・広報を行ったり各種講座を行う団体も活動している。
5 健康づくり	7	S 2 A 4 B 1 C	区内12の地区部会で計93か所のいきいきサロンが開催されている他、13会場で散歩クラブを開催。 また、ポッチャやラジオ体操、町内運動会などを活用した健康づくりの場の開催や健康づくり講座なども行われた。
6 防犯・防災に対する取組み	8	S 2 A 6 B C	区内84の自治会及び自主防災組織で防災訓練や避難所開設訓練が実施されたほか、千葉市との間で避難行動要支援者名簿の取り扱いに関する協定を結ぶなど防災への取り組みを行った。 また、自治会ごとの防犯パトロール活動などに取り組んだほか、校区内の危険個所をマップとして作成・配布するなどの活動も行われた。
7 担い手の拡大とボランティアの促進	9	S 1 A 8 B C	区内各所での見守り声かけ活動やいきいきサロン活動などを通じて、地域福祉の担い手を募ったほか、区内で15のボランティア講座を開催(R1年度)し、ボランティア活動の啓発と育成を行った。
8 福祉教育・啓発	2	S 2 A B C	区内で15のボランティア講座を開催(R1年度)し、ボランティア活動の啓発と育成を行ったほか、地域のイベントなどで小中学校と協力し児童生徒のボランティア活動参加を推進した。
9 地域のつながりづくり	24	S 2 A 22 B C	区内93か所のいきいきサロン活動や17か所の子育てサロンで高齢者や子育て世代のつながりを作っているほか、小中学校登下校時の声かけ挨拶運動や、地域の運動会や祭を通じて住民同士の交流を図っている。
10 相談支援体制と情報提供の充実	11	S 1 A 10 B C	地区の広報誌発行(R1年度は12地区で16回発行)などで住民への情報提供を行ったほか、地域のイベントやサロン活動などを通じて日常の相談などをしやすい体制を整えた。 また、小学校やPTAなどと協力し校区内危険個所マップを作成・配布する活動も見られた。
合計	79	S 15 A 63 B 1 C 0	

◆コロナ禍における好事例等

<p>小中台西地区部会エリアの自治会活動において、会合をオンライン(zoomによるビデオ会議)で行い、感染予防をしつつ顔の見えるコミュニケーションをとる方法を導入した。 また、この方法を見守り活動の報告会や地区民生委員児童委員協議会の会議にも応用すべく検討している。</p>

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況 (平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S:目標を上回った。
A:概ね目標を達成した。(8～10割)
B:一部目標を達成した。(5～7割)
C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の実績の方向性
小中台東地区部会エリア 【人口・世帯数】 28,966人、10,506世帯 【町内自治会数】 34町内自治会 【高齢化率】 28.2% 【地域の特徴】 地区の方が「本村」と呼ぶ園生町(一部)をはじめ、小中台町、宮野木町(一部)は、昔は山と田畑が広がっていた。昭和50年代頃に宅地開発が進み、現在は村時代からの古い住民と、戸建て、マンション等に住む新しい住民が交わっている。エリア内に小中学校が存在していない。	① あいさつから始まる地域との関わり	9	町内自治会や学校、青少年育成委員会、セーフティウォッチャーなどが連携・協力し、登下校時に通学路などで子どもたちへ挨拶をするとともに、防犯パトロールの際などに、住民同士のあいさつが浸透するよう努めます。 また、地域内小学校に依頼してあいさつ標語の作品募集を行い、結果を東西社協まつりや広報紙、掲示板などを活用して広めます。	近隣校(小中台小、小中台南小、園生小、柏台小)の協力を得て、あいさつをテーマにした標語作品を募集し、小中台西地区部会と共同開催する「東西社協まつり」で優秀作品の発表並びに表彰を行い、あいさつ運動に取り組みました。 また、各小学校で民生委員と青少年育成委員会が連携・協力して登下校時のあいさつ運動に取り組みました。	A	各重点取組項目ごとに活動の継続と拡充を行い、計画に沿って推進していたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い途中で活動を大幅縮小せざるを得ず、特に高齢者の健康面で不安を訴える声が聞かれた。 また、活動を継続してゆくための人材発掘や育成が思うように進んでいないことが問題点として挙げられるとともに、地域での講座開催についても参加する住民を増やす手立てを講じる必要がある。	新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、感染予防を第一にしたうえで活動を再開・拡大してゆく。特に昨年度に関わりを持つことが困難だった高齢者の健康面に留意して取り組む。また、活動に利用する施設との再開に向けての調整について検討する。
④ 地域住民の参加による見守り・支え合い	1 7	地区部会が町内自治会や民児協などと連携・協力して、独居高齢者や高齢者世帯等に対し、日常的な声かけやあんしんカードの配布等を行う他、いきいきサロン参加の呼び掛けなどの機会を活用した見守り活動に取り組みます。	地区部会が独居高齢者や高齢者世帯等に対して、日常的な声かけや携帯用のあんしんカードを配布するとともに、町内自治会が独自に作成したあんしんカードを配布するなど、継続的に見守り活動に取り組みました。	A			
⑥ 地域での福祉教育の普及・啓発	8	地区部会が町内自治会や学校、各種活動団体と連携・協力し、福祉講座を企画するなど、ボランティア活動の普及啓発に努めます。 また、サマーフェスタなどイベントの機会には近隣の小・中学校にボランティア募集を行い、ボランティア活動の実践を通じた福祉教育に取り組みます。	年度ごとにテーマを設定した地区部会主催による講座を開催することで、住民に対して地域ボランティア活動の普及・啓発に取り組みました。 また、サマーフェスタ開催時に、近隣の中学校(小中台・朝日ヶ丘中)からボランティアとして生徒が参加し、活動を通じて福祉教育の啓発に取り組みました。	A			
⑧ 健康づくりや介護予防の普及・啓発	5	地域住民を対象とした福祉講座の中で認知症に関する講座を開催する他、いきいきサロンにおいて健康づくりや介護予防についての啓発を行います。 また、開催地区部会や町内自治会、民児協、スポーツ振興会がイベント等を実施し、気軽に参加できる健康づくりや運動の機会を増やします。	地区部会があんしんケアセンターや区健康課等と連携・協力し、高齢者に対していきいきサロン(12か所※第3期より2か所増)を実施し、健康づくりや介護予防の普及啓発に取り組みました。	S			
⑨ 地域の情報の収集・発信	10	地区部会や町内自治会等が、地域の活動に関する情報を相互に共有するとともに、広報紙等で情報発信に取り組みます。	地区部会や町内自治会が相互に会議等へ参加し、地域活動の情報の共有に努めるとともに、地区部会が広報紙で地域住民に対して地域活動の情報発信に取り組みました。 また、地区部会が町内自治会と連携協力し、高齢者等が気軽に集える居場所づくりをテーマに情報交換会を開催するなど、情報収集などに取り組みました。	A			
山王地区部会エリア 【人口・世帯数】 17,159人、8,485世帯 【町内自治会数】 11町内自治会 【高齢化率】 30.1% 【地域の特徴】 古くは戦時中、その広大な原野は軍の演習地として活用され、終戦後に開墾が始まり、人々が転入して成った地域である。エリアには内陸工業地帯が開発され、主に戸建てが立ち並ぶ。稲毛区の北部に位置し、四街道市が隣接している。	① あいさつから始まる地域との関わり	9	セーフティウォッチャー、学校と更なる連携を進め、あいさつ運動を更に推進するため、青少年育成委員会や町内自治会、地区部会などとの協力体制づくりを進めます。	地区部会が小学校のセーフティウォッチャーと連携し、登下校時にあいさつ運動を継続実施している他、6年生を送る会開催時に安全講習会を行い、あいさつ運動について情報共有し、町内自治会に協力要請を行いました。	A	各重点取組項目ごとに活動の継続と拡充を行い、計画に沿って推進していたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い途中で活動を大幅縮小せざるを得ず、特に高齢者の健康面で不安を訴える声が聞かれた。 また、活動を継続してゆくための人材発掘や育成が思うように進んでいないことが問題点として挙げられる。	新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、感染予防を第一にしたうえで活動を再開・拡大してゆく。特に昨年度に関わりを持つことが困難だった高齢者の健康面に留意して取り組む。また、高齢者の生活支援(買い物支援)で協働している施設との連携をとり、今後の進め方について検討する。
② 地域のイベントなどを通じての地域交流・多世代交流	9	地区部会や町内自治会、地域の各種活動団体等が連携・協力し、夏まつりやお楽しみ会など幅広い世代が参加交流できる場づくりに取り組むとともに、各イベントにおいて子育てサロンへの参加を促し、子育て世代との地域交流を進めます。	地区部会が町内自治会や地域の関係団体と連携・協力して、いきいきサロン(6会場※第3期より1会場増)、夏祭りや敬老会、地域の合同運動会などのイベントを実施し、多くの地域住民の参加・交流の場づくりに取り組みました。	A			
③ 地域で活動している人組織同士の連携・協力	9 10	地区部会や町内自治会、民児協、学校、公民館などがイベントや地域活動の際に情報共有を行い、相互の連携・協力体制づくりに努めます。 特に、あいさつ運動を中心に青少年育成委員会とも連携して通学の安全を図っていきます。	地区部会や町内自治会、民児協、学校、公民館などが連携・協力し、各種会議や情報交換会を通じて情報を共有するとともに、地域イベントや防災講座、あいさつ運動など相互に連携・協力して活動の場づくりに取り組みました。	A			
④ 地域住民の参加による見守り・支え合い	1 7	地区部会が町内自治会や民児協、社会福祉施設などと連携・協力し、防犯パトロールを活用した見守り活動や、買い物に困難なひとり暮らし高齢者を対象とした買い物支援サービス「ドライブサロン」などの実施に取り組むなど、外出困難な高齢者を対象に、より丁寧な対応を進めます。	3町内自治会(山王町中央自治会、山王町南自治会、長沼原台自治会)が一人暮らし高齢者等に対して安否確認等による見守り活動に取り組みました。 また、地区部会が民児協や福祉施設と連携・協力して、買い物に困難な一人暮らし高齢者等に対し、昨年度より買い物支援事業「ドライブサロン」を開始するなど、地域住民主体の活動に取り組みました。	A			
⑪ いざというときに必要な情報把握や防災講座等の開催	6	地区部会が公民館と連携・協力して防災講座を継続実施すると共に、町内自治会(自主防災組織)が防災訓練や避難所開設訓練などを行う中、より多くの地域住民に参加をしてもらえるよう日程調整をするなどし、防災に関する意識向上に取り組みます。	地区部会が公民館と共催で地域での防災講座を企画するとともに、自主防災組織での防災・避難訓練を実施した。 また、町内自治会が避難行動要支援者名簿の情報提供について千葉市と協定を締結し、災害時に備え、必要な情報把握に取り組みました。	A			

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況 (平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S:目標を上回った。
A:概ね目標を達成した。(8～10割)
B:一部目標を達成した。(5～7割)
C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の実績の方向性
轟・穴川地区部会エリア							
【人口・世帯数】 11,062人、5,518世帯	③ 地域で活動している人・組織 同士の連携・協力	9 10	地区部会や町内自治会、老人クラブなど各種活動 団体が、地域のイベントなどを実施する際、相互に連 携・協力し、地域活動に取り組みます。	地区部会が、民児協などと連携・協力して地域内4カ 所で敬老会を実施した他、スポーツ振興会と市民体育 祭を開催し、地域内福祉施設からの協力も得るなど地 域での活動に取り組みました。	A	各重点取組項目ごとに 活動の継続と拡充を行 い、計画に沿って推進して いたが、新型コロナウイルス 感染症拡大に伴い中途 で活動を大幅縮小せざる を得ず、特に高齢者の健 康面で不安を訴える声 が聞かれた。 また、活動を継続してゆ くための人材発掘や育成 が思うように進んでいない ことが問題点として挙げら れる。 加えて、活動のため必要 な会場(施設)確保も課題 として挙げられる。	新型コロナウイルス感染 症が猛威を振るう中、感染 予防を第一にしたうえで活 動を再開・拡大してゆく。 特に昨年度に関わりを持 つことが困難だった高齢者 の健康面に留意して取り 組む。
【町内自治会数】 23町内自治会							
【高齢化率】 25.5%							
【地域の特徴】 戦時中、稲毛区役所、稲毛保健福祉セ ンター等の敷地は戦車学校が建つ軍用 地であった。その後開発が進み、エリ アには戸建て住宅、市営・県営住宅、マ ンション等が立ち並ぶ。文教のまちの呼 称でも親しまれ、公共機関(教育施設、 行政施設等)を内包する。							
	⑧ 健康づくりや介護予防の 普及・啓発	2	地区部会が町内自治会やあんしんケアセンター等と 連携・協力し、高齢者に対していきいきサロンを実施 するなど、健康づくりや介護予防の普及・啓発に取り 組みます。	地区部会が健康課などと協力し地域の高齢者を対 象としたいきいきサロン(10か所)において健康体操や 健康相談などを実施している。 また、町内自治会が「ジョギング大会」を企画実施し、 健康づくりや介護予防の普及・啓発に取り組みまし た。	A		
	⑪ いざというときに必要な情報 把握や防災講座等の開催	6	町内自治会が、千葉市と連携し、平常時から災害時 要支援者の把握を行うなど、災害時に迅速な支援が できるよう支援体制づくりに努めます。	7町内自治会・自主防災組織(第3期より5自治会増) や民児協が連携し防災・避難訓練などを実施すると ともに、4町内自治会(第3期より2自治会増)が継続して 千葉市と災害時の避難行動要支援者名簿の協定を更 新するなど、災害時に備えた支援に取り組んでいる。	S		
稲毛地区部会エリア							
【人口・世帯数】 12,091人、5,889世帯	② 地域のイベントなどを通じての 地域交流・多世代交流	9	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会など各種 活動団体や学校、幼稚園、保育園などが連携・協力し て敬老会やふれあい広場などを企画実施し、幅広い 世代が交流できる場づくりに取り組みます。	地区部会が町内自治会、各種活動団体及び近隣の小・ 中学校と連携・協力して敬老会(9/16 623名参加)を開 催し、中学校の生徒を対象に子育て中の親子との交流を図 るふれあい広場(9/18)を開催したほか、地域の祭(夜灯し) 準備に高齢者や大学生、児童とその親が参加するなど、幅 広い世代が参加交流できる場づくりに取り組みました。	A	各重点取組項目ごとに 活動の継続と拡充を行 い、計画に沿って推進して いたが、新型コロナウイルス 感染症拡大に伴い中途 で活動を大幅縮小せざる を得ず、特に高齢者の健 康面で不安を訴える声 が聞かれた。 また、活動を継続してゆ くための人材発掘や育成 が思うように進んでいない ことが問題点として挙げら れる。	新型コロナウイルス感染 症が猛威を振るう中、感染 予防を第一にしたうえで活 動を再開・拡大してゆく。 特に昨年度に関わりを持 つことが困難だった高齢者 の健康面に留意して取り 組む。
【町内自治会数】 16町内自治会							
【高齢化率】 22.3%							
【地域の特徴】 南北に延びる稲毛区の最南に位置し、 昭和の埋め立てが始まる前は、浅間神 社の下に東京湾が広がり、あさりと海苔 のまちとして栄えた。エリア内にはJR線 と京成線が走り、また、南部には国道も 敷かれており、どこへの移動も大変便利 である。							
	③ 地域で活動している人・組織 同士の連携・協力	9 10	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会、青少年 育成委員会などが、地域のイベント(敬老会やふれあ い広場など)を実施する際、相互に連携・協力し、地域 活動に取り組みます。	地区部会や町内自治会、民児協、スポーツ振興会、 青少年育成委員会などが相互に連携・協力し、敬老 会などのイベントや会議に取り組みました。	A		
	④ 地域住民の参加による見守 り・支え合い	1 7	地区部会が町内自治会や民児協などと連携・協力し て地域内のニーズを把握することに努め、見守り、支 え合い活動の必要性について協議します。	地区部会が民児協や町内自治会と協力し、いきいき サロンや、ふれあい食事サービスを通じて、参加者へ の声かけによる見守り活動に取り組みました。 また、台風により被害を受けた世帯に対し、倒木や瓦 礫の撤去など、住民同士の助け合い活動に取り組み ました。	A		
	⑦ 公共施設や空き店舗 などを活用した身近な 居場所づくり	2 3 4 9	地区部会が公民館や社会福祉施設などと連携・協 力し、いきいきサロンや子育てサロンを実施し、住民 同士が気軽に集える居場所づくりの充実に取り組み ます。	地区部会が公民館や福祉施設と連携・協力し、いき いきサロン(4ヶ所)、子育てサロン(1か所)を実施し、 住民同士が身近なところで気軽に集える居場所づく りに取り組みました。	A		
	⑧ 健康づくりや介護 予防の普及・啓発	5	地区部会が区健康課やあんしんケアセンターなどと 連携・協力し、いきいきサロンや子育てサロン、散歩ク ラブを実施し、健康体操や健康相談を行うなど、健康 づくりや介護予防の普及・啓発に取り組みます。	地区部会が区健康課などと連携・協力して、高齢者 に対していきいきサロン(4ヶ所)や、若い世代に対し て子育てサロン(1か所)を行うなど、健康体操や健康相 談を通じて、健康づくりや介護予防の普及啓発に取り 組みました。	A		

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況 (平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S:目標を上回った。
A:概ね目標を達成した。(8～10割)
B:一部目標を達成した。(5～7割)
C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性
稲毛地区部会エリア	① あいさつから始まる地域との関わり	9	町内自治会や学校、青少年育成委員会、セーフティウォッチャーなどが連携・協力し、登下校時に通学路などで子どもたちへあいさつをすするとともに、防犯パトロールの際などに、住民同士のあいさつが浸透するよう努めます。	町内自治会や学校、青少年育成委員会、セーフティウォッチャーなどが連携・協力し、稲毛小の登下校時の児童へのあいさつや、町内自治会が防犯パトロールの際に、住民への声掛けをおこなうなど、あいさつ運動に取り組みました。	A	各重点取組項目ごとに活動の継続と拡充を行い、計画に沿って推進していたが、コロナウイルス感染症拡大に伴い途中で活動を大幅縮小せざるを得ず、特に高齢者の健康面で不安を訴える声が聞かれた。 また、活動を継続してゆくための人材発掘や育成が思うように進んでいないことが問題点として挙げられる。	コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、感染予防を第一にしたうえで活動を再開・拡大してゆく。 特に昨年度に関りを持つことが困難だった高齢者の健康面に留意して取り組むとともに、複数の事業で関りを持っているエリア内小学校とも協調した検討をしてゆく。
【人口・世帯数】 11,980人、5,462世帯	② 地域のイベントなどを通じての地域交流・多世代交流	9	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会、青少年育成委員会などが連携・協力し、イベント(夏祭りや敬老会、地区運動会、正月行事など)を企画実施し、住民同士が交流できる場づくりに取り組みます。	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会が連携し、夏祭りや敬老会、町別対抗競技会、餅つき大会などのイベントを企画・実施するなど、多くの地域住民が参加交流できる場づくりに取り組みました。	A		
【町内自治会数】 6町内自治会(+1マンション区*)	③ 地域で活動している人・組織同士の連携・協力	9 10	地区部会や町内自治会、民児協、スポーツ振興会がイベント等を実施する際、相互に連携・協力し、地域の活動に取り組みます。	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会、民児協などが相互に連携・協力し、夏祭りや敬老会、町別対抗競技会、餅つき大会など地域活動に取り組みました。	A		
【高齢化率】 17.5%	④ 地域住民の参加による見守り・支え合い	1 7	地区部会が町内自治会や民児協などと連携・協力し、一人暮らし高齢者等に対して、いきいきサロンやふれあい食事サービス、ランドゴルフなどを通じて声かけによる安否確認を行うなど、見守り活動に取り組みます。	地区部会や町内自治会などが連携・協力し、一人暮らし高齢者等に対して、いきいきサロン(5ヶ所※第3期より2会場増)等の機会を通じて声かけや、地域内の要支援者の情報共有を行うなど、住民同士の見守り活動に取り組みました。	S		
【地域の特徴】 JR稲毛駅前付近は高層大規模な集合住宅が林立し、若い世代が集中して、戸建て住民を牽引する形で地域意識が好い町作りの方向に変容しつつある。 集合住宅と戸建住宅が混在する稲毛の台地で、快速の停車駅JR稲毛駅と、京成稲毛駅はバスの利用なしで行ける。 エリアは6つの自治会から成るが、JR稲毛駅至近に建つ1マンション区(*)が小学校区は稲毛小、地区部会は小中台西エリアに属し、双方の地区部会活動に関わっている。	⑤ 福祉活動の中核となれる人材の発掘・育成	7	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会などがイベントを実施する際、相互に活動協力者の呼びかけを行うなど、人材の確保に努めます。	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会などと連携し、敬老会や夏祭り、地区運動会などのイベントを通じて相互に活動協力者の確保に努めるとともに、町内自治会の広報等を通じて協力者の呼びかけを行うなど、活動協力者の確保に取り組みました。	A		
	⑥ 地域での福祉教育の普及・啓発	8	地区部会が町内自治会や各種活動団体と連携・協力し、地域住民に対して福祉講座を企画するなど、ボランティア活動の普及啓発に取り組みます。	地区部会が町内自治会や行政と連携し、地域住民に対して防災をテーマにした福祉講座を開催し、ボランティア活動の普及啓発に取り組みました。	A		
	⑦ 公共施設や空き店舗などを活用した身近な居場所づくり	2 3 4 9	地区部会が町内自治会や民児協等と連携・協力し、町内自治会館において、ふれあい食事サービスやいきいきサロン、子育てサロンを実施するなど、住民同士が集える居場所づくりに取り組みます。	地区部会が、町内自治会と連携・協力し、町内自治会館などにおいて、いきいきサロン(5ヶ所※第3期より2会場増)や子育てサロン(1ヶ所)、ふれあい食事サービス(1ヶ所)を実施し、住民同士が気軽に集える居場所づくりに取り組みました。	S		
	⑧ 健康づくりや介護予防の普及・啓発	5	地区部会が、あんしんケアセンターや区健康課等と連携協力し、高齢者に対していきいきサロンやふれあい食事サービス、子育て世帯に対して子育てサロンを実施するなど、健康づくりや介護予防の普及啓発に取り組みます。	地区部会がスポーツ振興会や町内自治会やあんしんケアセンターと連携・協力し、いきいきサロン(5ヶ所※第3期より2会場増)や子育てサロン、ふれあい食事サービス、自治会における早朝ラジオ体操や、小学校を利用したスポーツクラブ活動などを実施して高齢者や子育て世代に対して健康づくりや介護予防に取り組みました。	A		
	⑨ 地域の情報の収集と発信	10	地区部会が町内自治会、民児協、関係機関等と連携協力して会議等に相互に参加し、情報を共有するとともに、広報紙等により地域の活動の情報発信に取り組みます。	地区部会が町内自治会、民児協、関係機関等と連携協力して会議等に相互に参加し、情報共有を行うとともに、地域住民に対して、地区部会だよりや町内自治会の広報紙などにより、地域活動の情報発信に取り組みました。	A		
	⑩ 身近な地域の相談相手の確保	10	地区部会や町内自治会や民児協などが、各々の活動を通じて顔見知りの関係を構築し、身近な相談相手となる関係づくりに努めます。	地区部会が町内自治会や民児協、あんしんケアセンター、行政と連携し、活動を通じて地域住民と顔見知りの関係を築き、身近な相談相手となる関係づくりに努めました。	A		
	⑪ いざというときに必要な情報把握や防災講座等の開催	6	町内自治会自主防災組織が千葉市と連携協力し、地域住民に対して、災害時に備えて防災訓練や避難訓練を実施するなど、平常時からの防災への意識の向上に努めます。	8町内自治会(第3期より4自治会増)が千葉市や消防と連携協力し、地域住民を対象とした防災訓練を実施するとともに、避難所運営委員会が稲毛小学校で避難所開設訓練を実施するなど、住民一人ひとりの防災意識の向上に取り組みました。	S		
	⑫ 地域住民を地域で守る取り組み	6	町内自治会等が警察と連携し、地域住民の防犯意識を高めるために防犯パトロールを行うなど、住民同士の防犯活動に取り組みます。	町内自治会が地域内の小・中学校(稲毛小、稲毛小、小中台南小、稲毛中)のPTA、青少年育成委員会と連携し、危険個所のチェックを行い、毎年更新するエリア内のマップを作成するとともに、地域住民へ情報提供を行いました。	A		

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況 (平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S:目標を上回った。
A:概ね目標を達成した。(8～10割)
B:一部目標を達成した。(5～7割)
C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度 of 取組の方向性
千草台中学校地区部会エリア 【人口・世帯数】 10,443人、5,661世帯 【町内自治会数】 9町内自治会 【高齢化率】 33.9% 【地域の特徴】 2,100世帯から成る千草台団地を中心に、戸建て、マンション等がある全9自治会で構成されている。エリア内には千葉県総合スポーツセンター、千葉都市モノレールも走り、また京葉道路と国道で分断されているのも特徴的である。最近では萩台町の旧水田地帯に新築戸建の開発が進んでいる。前記の千草台団地の高齢化率は区内3位の40.4%である。	② 地域のイベントなどを通じての地域交流・多世代交流	9	地区部会が町内自治会、スポーツ振興会などと連携・協力し、イベント(夏祭りや敬老会、地区運動会、文化祭など)を企画実施し、幅広い世代層が交流できる場づくりに取り組みます。	町内自治会が夏祭りや敬老会、どんど焼き、昔遊び会(2月)など実施する他、スポーツ振興会が夏休みのラジオ体操や地区運動会を継続実施するなど、町内自治会などの広報紙や口コミを通じて、幅広い世代の参加・交流の場づくりに取り組みました。	A	各重点取組項目ごとに活動の継続と拡充を行い、計画に沿って推進していたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い途中で活動を大幅縮小せざるを得ず、特に高齢者の健康面や日常生活(買い物支援など)で不安を訴える声が聞かれた。 また、活動を継続してゆくための人材発掘や育成が思うように進んでいないことが問題点として挙げられる。	新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、感染予防を第一にしたうえで活動を再開・拡大してゆく。 特に昨年度に関わりを持つことが困難だった高齢者の健康面に留意して取り組む。
	③ 地域で活動している人・組織同士の連携・協力	9 10	地区部会や町内自治会、民児協、スポーツ振興会などが、イベントなどを実施する際、相互に連携・協力し、地域活動に取り組みます。	地区部会や町内自治会、民児協、スポーツ振興会などが夏祭りや敬老会、地区運動会などを相互に連携・協力して開催し、地域活動に継続的に取り組みました。 また、地域内5団体(地区部会、コミュニティづくり懇談会、スポーツ振興会、青少年育成委員会、自治会連協)が実行委員会形式で文化祭や昔遊びを継続実施し、幅広い世代の参加・交流の場づくりに取り組みました。	A		
	⑧ 健康づくりや介護予防の普及・啓発	5	地区部会が町内自治会やあんしんケアセンター、区健康課等と連携・協力し、高齢者等に対していきいきサロン(3か所 年36回)や子育て世帯に対してちびっこ保育などを実施し、健康づくりや介護予防の普及啓発に取り組みます。	地区部会が区健康課やあんしんケアセンター、シニアリーダー、スポーツ振興会等と連携・協力し、高齢者に対していきいきサロン(4か所※第3期より2会場増)やシニアリーダー体操(1か所)、グラウンドゴルフ大会、認知症声かけ訓練を実施するなど、健康づくりや介護予防の普及・啓発に取り組みました。	S		
	⑪ いざというときに必要な情報把握や防災講座等の開催	6	町内自治会が地域住民に対して避難訓練等の実施や、千葉市と避難行動要支援者名簿の締結を行うなど、平常時から災害時に備えた支援体制づくりに努めます。	4町内自治会(自主防災組織)で独自に防災訓練や避難訓練を行った他、千葉市と避難行動要支援者名簿の締結を継続して行いました(第3期より1自治会増)。 また、避難所運営委員会を新たに立上げ、災害時の支援体制づくりに取り組みました。	A		

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況 (平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S:目標を上回った。
A:概ね目標を達成した。(8～10割)
B:一部目標を達成した。(5～7割)
C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度 of 取組の方向性
草野地区部会エリア	② 地域のイベントなどを通じての地域交流・多世代交流 ④ 地域住民の参加による見守り・支え合い ⑦ 公共施設や空き店舗などを活用した身近な居場所づくり ⑧ 健康づくりや介護予防の普及・啓発 ⑪ いざというときに必要な情報把握や防災講座等の開催	9	町内自治会やスポーツ振興会、青少年育成委員会などが連携協力し、イベント(夏祭りやラジオ体操、敬老会、地区運動会など)を企画実施するなど、幅広い世代が交流できる場づくりに取り組みます。	町内自治会がスポーツ振興会や青少年育成委員会、子ども会と連携・協力し、夏祭りや夕涼み会、ラジオ体操、敬老会、防災訓練などを継続して企画実施し、幅広い世代が参加交流できる場づくりに取り組みました。	A	各重点取組項目ごとに活動の継続と拡充を行い、計画に沿って推進していたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中途で活動を大幅縮小せざるを得ず、特に高齢者の健康面で不安を訴える声が聞かれた。 また、高齢化率が高い集合住宅での日常の支援(ゴミ出しなど)が課題となっている。	新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、感染予防を第一にしたうえで活動を再開・拡大してゆく。 (いきいきサロンを令和3年度中に2会場増設予定)特に昨年度に関わりを持つことが困難だった高齢者の健康面に留意して取り組む。
【人口・世帯数】 20,821人、9917世帯		1 7	地区部会や町内自治会、民児協、URなどが連携・協力し、一人暮らし高齢者等に対し、「安心登録カード」や「緊急医療情報キット」などによる住民同士の見守り活動に取り組みます。	町内自治会や民児協、URなどが連携・協力し、一人暮らし高齢者等に対して「あんしん登録カード」や「緊急医療情報キット」を継続して配布するなど、地域住民による見守り活動に取り組んだほか、町内自治会の会合等で、見守りに対する啓発活動や、自治会連協での災害に関するアンケート調査を基にした意見交換会などを行いました。 また、いきいきサロン参加者への呼びかけ等を介して、高齢者への見守りに取り組みました。	A		
【町内自治会数】 21町内自治会		2 3 4 9	地区部会が町内自治会や民児協等と連携・協力し、町内自治会館や集会所などにおいて、いきいきサロンや子育てサロン、地域カフェを実施するなど、住民同士が集える居場所づくりに取り組みます。	地区部会が町内自治会や民児協などと連携・協力し、高齢者等に対していきいきサロン(12会場※第3期より1会場増)や若い世代に対して子育てサロン(2会場)を継続して実施するとともに、幅広い世代が気軽に集える地域カフェを開設するなど、身近な居場所づくりに取り組みました。	S		
【高齢化率】 31.1%		5	地区部会があんしんケアセンターや区健康課と連携・協力し、いきいきサロンや子育てサロン、散歩クラブなどを実施し、健康づくりや介護予防の普及・啓発に取り組みます。	地区部会が町内自治会や民児協、区健康課やあんしんケアセンターなどと連携・協力し、高齢者等に対していきいきサロン、散歩クラブや、若い世代に対して子育てサロンを継続して実施するとともに、健康講座や車いす講座、認知症サポーター養成講座などを実施して健康づくりや介護予防の啓発に取り組みました。	A		
【地域の特徴】 京葉道路の一部、穴川インターチェンジの一部をエリアに含み、概ねエリアの中央を走る国道16号線を境に東西へまたがっている昔は山だらけだったという地域には古くからの戸建て、アパート群の中に新設のマンションが建設され、新旧住民が混在している。エリア内で一番世帯数の多いあやめ台団地は、昭和41年の入居開始から48年が経過、約半世紀を経た今、稲毛区内で5番目の高齢化率(37.2%)、住民の3人に1人は高齢者となっている。高齢者(高齢化・孤立死等)と子育て(低所得・家庭崩壊等)の2つが顕著な問題である。		6	地区部会や町内自治会、民児協などが干葉市と連携協力し、地域住民に対して災害時に備えて防災訓練や防災講座などを実施するなど、防災意識の向上に努めます。	町内自治会(自主防災)が地域住民に対して防災訓練や避難訓練を実施するなど、住民一人ひとりの災害時に備えた危機意識の向上に取り組みました。 また、避難所運営委員会が区地域振興課と協力して、宿泊を兼ねた防災訓練を行うなど、防災意識の向上に取り組んだほか、地域福祉活動推進委員会による防災アンケートを基にした交流会を行い、地域内防災意識の向上に努めました。	A		
緑が丘地区部会エリア	① あいさつから始まる地域との関わり ③ 地域で活動している人・組織同士の連携・協力 ④ 地域住民の参加による見守り・支え合い	9	地区部会が学校やセーフティウォッチャー、町内自治会などと連携協力し、学校周辺及び通学路においてあいさつ運動を実施するとともに、防犯パトロールによる声かけを行うなど、地域内のあいさつ運動の浸透に努めます。	町内自治会や老人会による地域の防犯パトロールや、セーフティウォッチャーによる宮野木小の登下校時の声掛けなど、地域内のあいさつ運動に取り組みました。	A	各重点取組項目ごとに活動の継続と拡充を行い、計画に沿って推進していたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中途で活動を大幅縮小せざるを得ず、特に高齢者の健康面で不安を訴える声が聞かれた。 また、活動を継続してゆくための人材発掘や育成が思うように進んでいないことが問題点として挙げられる。	新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、感染予防を第一にしたうえで活動を再開・拡大してゆく。 特に昨年度に関わりを持つことが困難だった高齢者の健康面に留意して取り組む。
【人口・世帯数】 15,373人、8,095世帯		9 10	地区部会や町内自治会、民児協、青少年育成委員会、スポーツ振興会等がイベント(緑ンピックなど)や交流会(民児協と子どもルーム交流など)の実施の際に相互に連携・協力し、地域活動に取り組みます。また、地区部会と地区連協とが協働で地域住民対象の講演会を企画実施します。	地区部会をはじめ町内自治会や民児協、青少年育成委員会、スポーツ振興会が、緑ンピック等のイベントや、民児協と子どもルームが行う交流会、防犯活動において、相互に連携・協力して地域活動に取り組みました。 また、福祉活動推進員退任者の後任を委嘱したほか、推進員を増員するなどして、これからの地域福祉を担う人材の確保と育成に努めました。	A		
【町内自治会数】 21町内自治会		1 7	「お互い地域で支え合うことで孤独死を防ごう」をテーマとした講演会を開催し、地域での見守り・支え合い活動の啓発に取り組みます。 また、地区部会が町内自治会や民児協等と連携・協力して、高齢者等に対して日常的な声かけなどによる見守り活動やゴミ出し等、住民同士の支え合い活動に取り組みます。	地区部会が民児協、町内自治会と連携・協力し、地域の高齢者に対して、見守りや支え合いに関する講座(地区連協共催)を開催し、意見交換や情報共有に取り組みました。 また、一部の町内自治会において、単身・高齢者世帯に対しゴミ出し支援を行うなど、住民同士の支え合い活動に取り組みました。	A		
【高齢化率】 39.5%							
【地域の特徴】 柏台、長沼町の一部、宮野木町の一部、園生町の一部、あやめ台の一部をエリアとしている。あやめ台団地内の一街区、二街区はあやめ台小学区、三街区は柏台小学校区と、団地内で学区が分かれている。町がつく場所には古くからの住民と、最近立ち始めた戸建て等に転入してくる新しい方とが融合している。							

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況 (平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S:目標を上回った。
A:概ね目標を達成した。(8～10割)
B:一部目標を達成した。(5～7割)
C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性				
301(作草部・天台)地区部会エリア	② 地域のイベントなどを通じての地域交流・多世代交流	9	地区部会や町内自治会、スポーツ振興会などが連携・協力して、「社協まつり(敬老会)」や「地区運動会」、「都賀の子まつり」、「夏休みラジオ体操大納会」等を実施し、住民同士が交流できる場づくりに取り組めます。	地区部会が町内自治会・スポーツ振興会や学校、施設と連携・協力し、「社協まつり」、「都賀の子まつり」「地区運動会」「地域交流バザー」など各種団体のイベントを介し、幅広い世代が参加・協力し、活躍できる交流の場づくりに継続して取り組みました。また、4団体(町内自治会・スポーツ振興会・PTA・地区部会)共催で「夏休みラジオ体操大納会」を開催したほか、小学校と共同で高齢者へのクリスマスカードの配布を行い、いきいきサロン増設(第3期より1会場増の12会場)を進めるなど、住民同士が交流できる場づくりに取り組みました。	A	各重点取組項目ごとに活動の継続と拡充を行い、計画に沿って推進していたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い途中で活動を大幅縮小せざるを得ず、そのような中での従事者の安全対策への意識に差異が見られることが問題点と感じられる。また、地域内で活動継続している支え合い活動維持のための従事者確保(育成)も課題として挙げられる。	新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、感染予防を第一にしたうえで活動を再開・拡大してゆく。特に昨年度に関わりを持つことが困難だった高齢者の健康面に留意して取り組む。				
【人口・世帯数】 8,329人、3,970世帯				④ 地域住民の参加による見守り・支え合い	1 7			地区部会が町内自治会・民児協と連携・協力して「支え合いの会」を運営し、高齢者等に対してゴミ出しや買物のお手伝いなど、身近な住民同士の支え合い活動に取り組めます。	A		
【町内自治会数】 15町内自治会								⑨ 地域の情報の収集と発信	10	地区部会や町内自治会、民児協、各種活動団体・関係機関が相互に会議等に参加し、情報共有するとともに、広報紙などを通じて地域住民に対する地域の活動等の情報発信に取り組めます。	A
【高齢化率】 24.4%										⑪ いざというときに必要な情報把握や防災講座等の開催	6
【地域の特徴】 中央区、若葉区との境に接しているため、地域内にある都賀小学校へは稲毛区、中央区から、千草台東小学校へは若葉区、中央区、稲毛区の児童が通学している。また、都賀中へは稲毛区、若葉区、中央区の生徒が通学している。自治会が結成されていない主なマンションは5カ所、350世帯ある。	① あいさつから始まる地域との関わり	9	学校(セーフティウォッチャー)と各種関係団体が連携し、一定期間に通学路や学校周辺、地域内であいさつ運動を行い、子どもから大人までが顔なじみになるよう関係づくりに取り組めます。	町内自治会や学校(PTA)が連携し、一定期間に、通学路や学校周辺であいさつ運動を行うとともに、見守り隊によるあいさつ(声掛け)や、月1回、学校からのお知らせを自治会回覧で配布するなど、子どもから大人までが顔なじみになるよう、あいさつ運動への協力に取り組めました。	A						
【人口・世帯数】 7,238人、3,854世帯				② 地域のイベントなどを通じての地域交流・多世代交流	9	地区部会が主体となり幅広い世代が参加できる「社協まつり」を実施する他、町内自治会、民児協が連携・協力し、「納涼祭」「敬老会」等を実施するなど、住民同士が交流できる場づくりに取り組めます。	A				
【町内自治会数】 7町内自治会						⑧ 健康づくりや介護予防の普及・啓発	5	地区部会が区健康課やあんしんケアセンター、地域内の施設等と連携・協力し、高齢者に対していきいきサロンや、ふれあい食事サービスを実施し、健康づくりや介護予防の普及啓発に取り組めます。	A		
【高齢化率】 22.1%								⑫ 地域住民を地域で守る取り組み	6	民生委員活動を通じて、高齢者等に対し声かけによる安否確認や、一部の町内自治会が、週2回の防犯パトロール等、見守り活動に継続して取り組むとともに、「防犯ステッカー」を防犯活動協力者の自転車に掲示するなどして、地域内の防犯活動に取り組めました。	A
【地域の特徴】 JR線を境に、南に走る国道357号線までの緑町、黒砂、黒砂台1丁目～2丁目エリアとし、中心を京成線が東西に走っている。文教施設があり、または隣接していることもあり、日中の学生数、またエリアにも学生が点在し居住しているのも特徴である。	② 地域のイベントなどを通じての地域交流・多世代交流	9	地区部会が主体となり幅広い世代が参加できる「社協まつり」を実施する他、町内自治会、民児協が連携・協力し、「納涼祭」「敬老会」等を実施するなど、住民同士が交流できる場づくりに取り組めます。	町内自治会や青少年育成委員会、民児協が連携・協力し、地域全体で納涼祭(8月)や敬老会(9月)、社協まつり(11月)を実施したほか、保育所と老人会の交流会(4月・7月)や小学生との交流会を行うなど、住民同士が交流できる場づくりに取り組みました。また、地域内施設と連携協力して、いきいきサロンを1会場増設し、3会場で活動を行いました。	A	各重点取組項目ごとに活動の継続と拡充を行い、計画に沿って推進していたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い途中で活動を大幅縮小せざるを得ず、特に高齢者の健康面で不安を訴える声があった。また、声かけ見守り活動の維持や、活動従事者の発掘や育成も課題となっている。	新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、感染予防を第一にしたうえで活動を再開・拡大してゆく。特に昨年度に関わりを持つことが困難だった高齢者の健康面に留意して取り組む。				
【町内自治会数】 7町内自治会				⑧ 健康づくりや介護予防の普及・啓発	5			地区部会がポッチャ同好会と連携し、高齢者向けにいきいきサロンを開催した他、ふれあい食事サービスや地区部会主催の健康講座(まちかどお薬講演会)などにより、健康づくりや介護予防の普及・啓発に取り組めました。	A		
【高齢化率】 22.1%								⑫ 地域住民を地域で守る取り組み	6	民生委員活動を通じて、高齢者等に対し声かけによる安否確認や、一部の町内自治会が、週2回の防犯パトロール等、見守り活動に継続して取り組むとともに、「防犯ステッカー」を防犯活動協力者の自転車に掲示するなどして、地域内の防犯活動に取り組めました。	A
【地域の特徴】 JR線を境に、南に走る国道357号線までの緑町、黒砂、黒砂台1丁目～2丁目エリアとし、中心を京成線が東西に走っている。文教施設があり、または隣接していることもあり、日中の学生数、またエリアにも学生が点在し居住しているのも特徴である。				② 地域のイベントなどを通じての地域交流・多世代交流	9					地区部会が主体となり幅広い世代が参加できる「社協まつり」を実施する他、町内自治会、民児協が連携・協力し、「納涼祭」「敬老会」等を実施するなど、住民同士が交流できる場づくりに取り組めます。	地区部会がポッチャ同好会と連携し、高齢者向けにいきいきサロンを開催した他、ふれあい食事サービスや地区部会主催の健康講座(まちかどお薬講演会)などにより、健康づくりや介護予防の普及・啓発に取り組めました。

稲毛区支え合いのまち推進計画の推進状況 (平成30年度～令和2年度)

【取組テーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S:目標を上回った。
A:概ね目標を達成した。(8～10割)
B:一部目標を達成した。(5～7割)
C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組テーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の実績の方向性
小中台西地区部会エリア							
【人口・世帯数】							
21,402人、9,907世帯							
【町内自治会数】							
18町内自治会							
【高齢化率】							
23.1%							
【地域の特徴】							
小中台1丁目から9丁目までがエリアであり、昔からの旧戸建て住宅の旧住民と、新設の大型マンションに転入して暮らす新住民とが混在しているのが特徴である。	① あいさつから始まる地域との関わり	9	地区部会が町内自治会・学校・青少年育成委員会と連携・協働し、あいさつをテーマにした標語の作品募集を行い、「東西社協まつり(10月)」や広報紙などで作品の広報啓発に取り組みます。 また、地区部会が町内自治会や民児協などと連携・協力して、町内に掲出するステッカー等により、地域住民に「あいさつ・声かけ運動」の浸透に取り組みます。	地区部会が近隣校(小中台小・小中台南小・園生小・柏台小)の協力を得る中、あいさつをテーマにした標語作品を募集し、「東西社協まつり(小中台公民館)」で優秀作品を発表並びに表彰を行うとともに、あいさつ運動のステッカーを改訂・増刷して町内自治会の掲示版などに掲示を行うなど、あいさつ運動の浸透に取り組みました。 また、セーフティウォッチャー(小中台小、小中台南小、園生小)が青少年育成委員や民生委員と連携・協力して登下校時のあいさつ運動や、町内自治会が防犯パトロールを兼ねてあいさつ・声かけ運動に取り組みました。	A	各重点取組項目ごとに活動の継続と拡充を行い、計画に沿って推進していたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い途中で活動を大幅縮小せざるを得ず、特に高齢者の健康面で不安を訴える声が聞かれた。 また、活動を継続してゆくための人材発掘や育成が課題として挙げられる。	新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、感染予防を第一にしたうえで活動を再開・拡大してゆく。 特に昨年度に関わりを持つことが困難だった高齢者の健康面に留意して取り組む。 また、活動従事者同士の会合などをオンライン化する試みも検討してゆく。
	② 地域のイベントなどを通じての地域交流・多世代交流	9	地区部会が町内自治会や民児協、各種活動団体と連携・協力して「東西社協まつり(10月)」などイベントを企画実施する他、自治会単位で開催する祭やイベントなどを通じて住民同士が交流できる場づくりに取り組みます。	地区部会が町内自治会や民児協、商工会、学校などと連携・協力し、幅広い世代が参加交流できるよう企画内容を創意工夫して、「東西社協まつり(小中台公民館)」を継続的に実施し、世代間の交流に取り組みました。	A		
	④ 地域住民の参加による見守り・支え合い	1 7	地区部会が町内自治会や民児協と連携し、一人暮らし高齢者等に対して日常的な声かけなどの安否確認等による見守り活動に取り組みます。	7町内自治会が一人暮らし高齢者に対して訪問による声かけや防犯パトロール等による安否確認の見守りに継続的に取り組んだ他、地区部会が町内自治会や民児協と連携・協力し、いきいきサロン(12会場※第3期より1会場増)の活動を介して高齢者等の見守りに取り組みました。 また、一部の自治会で平常時のほか、被災時など緊急時の見守りとの2パターンを想定した見守り活動に取り組みました。	A		
弥生地区部会エリア							
【人口・世帯数】							
631人、382世帯							
【町内自治会数】							
2町内自治会							
【高齢化率】							
24.5%							
【地域の特徴】							
稲毛区弥生町及び黒砂台3丁目の一部が対象地域。稲毛区の南部に位置し、JR西千葉駅、京成線みどり台駅から徒歩圏内の住宅地となっており、千葉大学に隣接していることも特徴の一つである。弥生町自治会、弥生県営住宅弥生会の2町内自治会で構成され、総世帯数は約590世帯、他の地区部会と比較すると、非常に小さな規模の地区である。 ※弥生地区部会は令和2年度をもって活動終了	② 地域のイベントなどを通じての地域交流・多世代交流	9	地区部会が幅広い世代が参加して楽しめるイベント(「ハロウィン祭り」や「ハーティちゃんの日」など)を企画実施するなど、住民同士が交流できる場づくりに取り組みます。	地区部会が子育て世代向けに「ハロウィンパーティ」「ハーティちゃんの日」や高齢者対象の「くるま座Q&A」などを企画実施するとともに、町内自治会の回覧や掲示板を通じて、幅広い世代の参加を促して交流の場づくりに取り組みました。	A	各重点取組項目ごとに活動の継続と拡充を行い、計画に沿って推進していたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い途中で活動を大幅縮小せざるを得ず、特に高齢者の健康面で不安を訴える声が聞かれた。 また、活動を継続してゆくための人材発掘や育成が思うように進んでいないことが問題点として挙げられる。	新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、感染予防を第一にしたうえで活動を再開・拡大してゆく。 あんしんケアセンターとの連携で高齢者向け健康維持の教室や、地域子育て世代が中心となつての児童関係イベントの運営などを企画してゆく。
	⑧ 健康づくりや介護予防の普及・啓発	5	地区部会があんしんケアセンターや区健康課と連携して、高齢者に対して、いきいきサロンや講座を開催し、健康づくりや介護予防の普及・啓発に取り組みます。	地区部会が、あんしんケアセンターや行政と連携し、高齢者に対して出前講座や「くるま座Q&A」を1回開催し、健康に関する相談や情報提供を行うとともに、いきいきサロンを7回実施し、健康増進に取り組みました。	B		
	⑨ 地域の情報の収集と発信	10	地区部会が町内自治会や民児協、学校などと連携して、地域の情報収集に取り組み、広報紙や自治会回覧、学校の通知などを通じて地域住民に対する地域活動の情報発信に取り組みます。	地区部会が、県社協の地域福祉フォーラム事業の一環として弥生小学校、保護者会などと協力して、作成した「地域安全マップ」を新入学児童の世帯に配布したほか、地域との交流事業としての植栽イベントを計画・発信するなど、地域活動の情報発信に取り組みました。	S		

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度～令和2年度)

主な成果	最終年度はコロナ禍の影響を受け活動が停滞したが、前計画の体系を踏襲しながら積極的に活動を展開し、各種活動・取り組みが地域住民へ定着、浸透し、併せて未実施地区・団体への地道な働きかけにより、活動の拡大や拡充も進んだ。また、自治会、民生委員・福祉関係・教育関係の各関係団体との横断的な連携、交流も進展している。
今後の課題	・活動の中核となっている方の後継者不足、実働部隊の人材の確保 ・他組織との情報共有や連携体制の確立 ・コロナ禍での新たな生活様式に対応した既存活動の見直しや検討

令和3年度の取組の方向性	・前年度までの活動を引き続き実施し、地域住民への広報・啓発活動も並行して進め、さらなる充実、拡大を図っていく。 ・直面しているコロナ禍によって停滞している活動をどのように再開していくのか。また、現在、実施中の活動についても感染予防を意識した安全・安心な方策を模索、検討していく。 ・自治会・民生委員、あんしんケアセンター等の他団体・組織と定期的な情報共有・意見交換の場を作っていく。
--------------	---

◆取組みテーマ別達成状況

【達成状況の目安】 S: 目標を上回った。 B: 一部目標を達成した。(5～7割)
A: 概ね目標を達成した。(8～10割) C: 大きく目標を下回った。(～4割)

取組みテーマ	重点取組項目数	達成状況		主な取組み実績
		S	A	
1 見守りの仕組みづくり	7	S	0	・3地区部会エリアで重点取組項目として実施。訪問、あんしんカード配付、広報紙による地域住民への啓蒙、理解促進等に取り組んだ。 ・重点取組項目外では単位自治会による取組もあり。上記取組に加え、声かけ、目配り、気配り、パトロール、ラジオ体操等事業欠席者への訪問や電話連絡等を実施。
		A	2	
		B	3	
		C	2	
2 高齢者を支える仕組みづくり	6	S	1	・ふれあい・いきいきサロンを重点取組9地区部会エリアを含む13地区部会エリア(全49サロン)でいずれも月1回程度実施。様々な工夫を凝らし地域の高齢者の仲間づくりや交流の場を提供。 ・サロン未実施自治会や未参加者への働きかけ、サロン実施自治会相互での情報交換を行う。
		A	2	
		B	3	
		C	0	
3 障害者を支える仕組みづくり	0	S	0	重点取組対象の地区部会は0件だが、各地区部会に設置の障害者福祉委員会が中心となり、施設及び入園者並びに職員訪問、車椅子貸出、障害者のつどいの会での料理教室、手芸教室、バス旅行、障害福祉サービス事業所との連携による各種イベントの開催など各種事業に取り組んだ。
		A	0	
		B	0	
		C	0	
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり	11	S	1	・5地区部会エリアで重点取組項目として実施。ふれあい・子育てサロン(区全体で10地区部会エリア18事業)の実施。男性育児参加を促す企画、地域の保育園や若葉区健康課とも連携し地域ぐるみの子育て支援に取り組んだ。
		A	3	
		B	7	
		C	0	
5 健康づくり	4	S	1	・5地区部会エリアで重点取組項目として実施。歩こう会、グラウンドゴルフ、社協だよりへの介護予防関連記事連載による情報提供、握力測定、ポッチャ、健康体操、ラジオ体操、公園清掃等を通じ、健康づくりに取り組んだ。 ・健康づくりの一助となるふれあい・いきいきサロンを13地区部会エリアにて実施の他、ふれあい散歩クラブ・歩こう会を6地区部会エリアで実施した。
		A	2	
		B	1	
		C	0	
6 防犯・防災に対する取組み	7	S	0	・防犯では2地区部会エリアで重点取組項目として実施。防犯パトロール、セーフティウォッチャー等の見守り活動、チラシ回覧にて注意喚起を促した。 ・防災について4地区部会エリアで重点取組項目として実施。防災マップ作成準備、町内自治会に対し自主防災組織設置の働きかけ、防災訓練、防災講習会等の開催、町内自治会と地区部会による災害時要支援者情報の共有化検討等に取り組んだ。
		A	1	
		B	3	
		C	3	
7 担い手の拡大とボランティアの促進	4	S	3	・3地区部会エリアで重点取組項目として実施。ボランティア講座(7地区)の実施をはじめ、地区部会広報紙や各種事業案内チラシの中でボランティアを募集した。また地域活動実施者に声かけし、ふれあい・いきいきサロンなど地区部会活動をテーマとした研修を実施、地区部会活動をムービー化しての周知、イベント参加者への勧誘、市ことぶき大学校学生へのボランティア研修等に取り組む、人材確保につながった。
		A	1	
		B	0	
		C	0	
8 福祉教育・啓発	2	S	0	・3地区部会エリアで重点取組項目として実施。ふれあい祭を通じた子供たちとのふれあい、夏季及び冬季休業時に学校と地域との連携による工作教室や昔遊びの実施、高校、地域住民並びに地区部会の連携によるふれあい・子育てサロンの実施、各種講座を実施した。 ・ふれあい・いきいきサロンをはじめとした各種地区部会事業の中での世代間交流、全14地区部会エリアで発行の広報紙による地域福祉活動の周知啓発に取り組んだ。
		A	1	
		B	1	
		C	0	
9 地域のつながりづくり	13	S	0	・3地区部会エリアで重点取組項目として実施。歩こう会、ラジオ体操、セーフティウォッチャーによる登下校時の見守り、挨拶、声かけ、芋煮会、バス旅行、風揚げ、グラウンドゴルフ、バザー等の各事業を通じた人同士のつながりづくりをはじめ、隣接地区部会協働による講座実施、介護や認知症等のテーマ設定のもと多職種による地域ケア会議を実施した。
		A	2	
		B	10	
		C	1	
10 相談支援体制と情報提供の充実	3	S	0	・8地区部会エリアで重点取組項目として実施。福祉のまちづくりに向けた町内自治会同士の情報交換実施検討、地域ケア会議での地域課題の共有と各参加者の役割確認、サロンでのあんしんケアセンターとの連携による相談窓口の設置や介護保険等の情報提供に取り組んだ。 ・全14地区部会エリアで広報紙を発行。地域福祉に関する多様な情報提供を実施した。
		A	1	
		B	1	
		C	1	
合計	57	S	6	
		A	14	
		B	28	
		C	7	

◆コロナ禍における好事例等

白井地区部会での取り組み			
● 第4期計画で選定した重点取組項目における事例			
No.	タイトル	工夫した内容	対応主体
1	いきいきサロンの代替え事業“回覧サロン”の実施	いきいきサロンの集会が出来ないので、参加者いひとつずつ近況などを書いてもらい文書で回覧する。誕生日お祝いメッセージ・プレゼントもこれで実施。	新宮田自治会
2	子育てサロンの代替え事業“わくわくバッグ”の配布	対象の子供に宛てて、親子で出来るわくわくバックキットを配布する。	児童星委員会
3	ポッチャ学習会	用具の共用が出来ないため、参加者がマイボールを作成し、少人数でゲームを実施。	障害者福祉委員委員会
4	認知症サポーター養成講座	高根GT自治会館でコロナ対策を行い少人数で実施した。(コロナ対策:マスク、検温、手指消毒、参加条件掲示・確認、三密防止、換気)	高齢者福祉委員会
5	地域ケア会議の実施	白井公民館館長と調整して会場確保、あんしんケアセンターと連携しコロナ対策を講じて会議を開催した。	福祉ネットワーク委員会
6	“社協とは?”白井地区部会編のパンフレット作成	活動が自粛されている中で、社協白井地区部会の存在を地域にアピールするためにパンフレットを作成し、活動団体を中心に配布。	白井地区福祉活動推進員
● その他、重点取組項目以外の活動における事例			
No.	タイトル	工夫した内容	対応主体
1	シトラスリボン活動	コロナ禍の偏見を無くそうという意識づけ・気づきの運動を推進した(地域にリボンとメッセージを届ける運動)。 ・令和2年度から実施中 ・実施の際の担当者同士の打ち合わせはリモート(LINE)を利用 ・リボンの制作活動も密にならないよう自宅で実施	ボランティア委員会
2	タオルでボランティア	ご家庭にある未使用のタオルを地域の高齢者施設に贈り、組織間の交流を図る(令和3年度の施策)。	ボランティア委員会
3	リモートラジオ体操	多部田ラジオ体操グループを遠隔者が同じ時間に連絡を取りながらNHKのラジオ体操を実施。終了時には参加者がひと言挨拶をする。(リモートではユーチューブ画面を見ながら実施している)	多部田さわやか健康会

別紙1

◆コロナ禍における好事例等

加曽利地区部会での取り組み

● その他、重点取組項目以外の活動における事例

No.	タイトル	工夫した内容
1	感染症予防物品の配布	新型コロナウイルス感染症対策が続く中、地区部会活動の中止を余儀なくされた。そこで、地区部会として何かできることがないか検討した結果、秋に実施している「ふれあいバザー」での利益と他の資金を活用し、加曽利地区部会全世帯に「マスク2枚」を、又、活動団体の連携・交流箇所各「マスク150枚」を配布した。

桜木地区部会での取り組み

● 第4期計画で選定した重点取組項目における事例

No.	タイトル	工夫した内容
1	子育てサロン	・普段は「事前予約不要」で参加自由としているが、R2年度～R3年度は「事前申込制」「先着5組まで」とし、事前に参加者が判るようにした。 ・会場入り口に消毒スプレーを置き、参加者を検温した。 ・マスク着用と、体調不良の場合は参加を自粛するよう伝えた。 ・今までのサロンでは最初におもちゃで自由遊びをしてもらっていたが、R2年度以降、共有のおもちゃは全て片付けた。 ・運営者と講師の4人でLINEグループを作り、連絡は全てLINEを利用した。
2	いきいきサロン	・とにかく、無理をしないようにした。活動することが不安な人が多ければ開催を自粛した。 ・活動内容に散歩を加えた。

小倉地区部会での取り組み

● その他、重点取組項目以外の活動における事例

No.	タイトル	工夫した内容
1	子育てサロン	子育てサロン「びーなっつ」は活動が中止になり、ずっと会えないまま、0才、1才から参加していた児童たちが4月に幼稚園入園となり、同時に「びーなっつ」卒業となってしまった。そのため、3月に入園お祝いカードを作成、メッセージ、活動中の写真、折り紙のメダルを同封。21組の親子に郵送した。

都賀地区部会での取り組み

● 第4期計画で選定した重点取組項目及び、重点取組項目以外の活動における事例

No.	タイトル	工夫した内容
1	「都賀地区ミニ福祉通信“みんな仲間”」を隔月発行 コロナ禍にあって重点項目を 広報活動で補う	1. 部会活動の見える化と重点取組項目の代替活動を検討 ①地域住民の多くが地区部会の存在を知らない。「活動の見える化」が当面の課題 ②第4期推進計画の4点の重点取組項目の活動が停滞し、計画の未達が懸念 上記2点の対策・対応を取ることにした。 2. あんしんケアセンター都賀との連携で活路 上記案件に対応すべく、高齢者福祉活動面で連携の深い千葉市あんしんケアセンター都賀に対策案を提案。地区部会とあんしんセンターが連携し、住民を対象とした福祉情報を幅広く紙面で伝え、継続的に発行・啓蒙していくことで、双方の活動PRにもなるのではと広報誌の隔月発行の計画がまとまる。令和2年1月に発行、以降隔月発行を実施している。企画・作成・発行・回覧依頼は双方で協力。

No.	タイトル	工夫した内容
1	「都賀地区ミニ福祉通信“みんな仲間”」を隔月発行 コロナ禍にあって重点項目を 広報活動で補う	【ミニ福祉通信“みんな仲間”の発行目的と構想(概要)】 (1)第4期推進計画の重点取組項目4項目を並行開催するのは地区部会の組織面で限界がある。講習や講座の開催は負担や苦勞が多い割に参加者が伸びず、「顔見知りの開催」趣が強かった。地域福祉の事業的観点から効果が薄いのではとの反省があった。 (2)一般住民から地区部会の存在や活動内容があまねく理解されていないというのが実態。地区部会への理解が住民に広く認知される必要があり、これを念頭において前向きに広報活動を行っていくことで、住民や福祉関係組織などの協力関係が深まっていく事が期待される。 (3)千葉市の「地域包括ケアシステム」の推進面で、最前線の役割を担い高齢者福祉の窓口である「あんしんセンター」を広報で周知していくことは、同センターの活動の推進に繋がる。 (4)前項の問題点を解決策として、重点取組4項目の関連情報を掲載した「ミニ福祉通信(みんな仲間)」を、地区部会とあんしんケアセンター連名で発行し、地区内町内自治会の回覧網で住民に情報を届ける。 ①「みんな仲間」の広報活動により、地区部会が取組む4項目の代替活動と位置づけ、様々な福祉テーマ・情報を掲載し、地域福祉活動の一助とする。 ②ミニ福祉通信を隔月発行し、様々な福祉情報を伝達していく中で、地区部会の存在と活動内容をPRしていく。この啓蒙・伝達活動を継続することで「地区部会活動の見える化」の一助とする。 ③「あんしんケアセンター都賀」の存在と活動内容を随時配信することで、高齢者福祉活動の円滑な運用の推進が期待される。 3. これまでに発行したミニ福祉通信“みんな仲間”のテーマ(参考) (令和2年1月号)認知症予防は努力次第／インフルエンザの症状と予防について (令和2年3月号)フレイル予防に取り組みよう／フレイル予防と改善 (令和2年5月号)新型コロナウイルス予防／テレビを観ながらでも出来る運動 (令和2年7月号)終の住処について考えよう／住処選びの高齢者の意識調査 (令和2年9月号)大地震に備え命と地域を守ろう／大地震発生時の心得 (令和2年11月号)健康長寿に努めて介護予防／千葉市が行っている介護予防 (令和3年1月号)あんしんセンターの仕事と役割について (令和3年3月号)コロナ禍 大切な近所仲間の絆／突如襲ってくる脳卒中の予防 (令和3年5月号)誤嚥予防で命を守ろう／大切な口腔ケア／常に歯と喉のケアを

千城台東南・金親地区部会での取り組み

● 第4期計画で選定した重点取組項目における事例

No.	タイトル	工夫した内容
1	「ひまわりの会」 寄せ書き作成	(障害者委員会) 「ひまわりの会」会員と委員の声を集め寄せ書きを作成し、会員に届けた。日々の生活の様子やマスクの型紙や花の絵などが寄せられ、大変好評であった。
2	ふれあいサロン ふれあい給食	(ボランティア委員会) ①「ふれあいサロン東町」「ふれあいサロン憩」「ふれあいサロン南町」を利用している方に暑中お見舞いのはがきを出した。 ②上記サロンの利用者として「ふれあい給食」の利用者の皆さんに、コロナ禍による活動中止のお知らせと様子伺いを兼ねて手作りマスク1枚、不織布マスク1枚、板チョコをセットにして届けた。(約70名)大変喜ばれた。
3	身体づくりのレシピを 社協だよりに掲載	(高齢者福祉委員会広報委員会) 「自宅でできるコロナに負けない身体づくり」のレシピ(若葉保健福祉センター健康課の協力)を「千城台東南・金親地区社協だより(第99号)」に掲載した。

● その他、重点取組項目以外の活動における事例

No.	タイトル	工夫した内容
1	「こども食堂」の支援	令和2年度からコロナ禍の中であったが、NPO法人「縁」が運営する「こども食堂」の支援を行う。調理の手伝い、食材の調達、食堂の清掃、広報活動などの応援。

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況
(平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S:目標を上回った。
A:概ね目標を達成した。(8～10割)
B:一部目標を達成した。(5～7割)
C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性
坂月地区部会エリア							
	④ 福祉施設や地域行事でのふれあい交流活動の実施	9	・歩こう会、グラウンドゴルフ大会の実施 各年、歩こう会2回、グラウンドゴルフ大会1回の実施をしているが回数を計4回に増やす方向で取り組む ・ラジオ体操の会場を増やす 地域に働きかけ、一か所会場を増やす	ラジオ体操は2ヶ所で実施。 グラウンドゴルフ、歩こう会は、H30、R元は実施。	B	・全体としては、概ね目標は達成された。 ・地域の皆さんが集まっても大丈夫かどうかの見極めの時期が今後の課題	現状維持とする。
【人口・世帯数】 4,037人、1,850世帯							
【町内自治会数】 5町内自治会							
【高齢化率】 22.7%							
【地域の特徴】 戸建住宅が少しずつ増え、新住民も増えてきているが、多くの生徒は、千城台西小学校へ通学しているため、エリア内にある坂月小学校(市内で最少人数)に通学する生徒は少ない。	⑭ 防犯・防災意識を高め実践する。	6	3年間のうち、2年目で防災マップを発行する。	マップの作成はしていない。	C	住宅の造成、災害(台風、豪雨)で新しい内容が出てきており、マップの作成が出来なかった。	令和3年度作成予定。
	⑯ 地域福祉に関する情報の発信	10	広報誌「あさつゆ」に関して、様々な福祉の観点から、広報誌の内容の拡充・回数の増加を目指す。	平成30年、令和元年は発行した。	B	概ね達成した。	広報紙は発行する方向に考えている。
貝塚地区部会エリア							
	① 地域ぐるみで声掛け・あいさつ運動の実施	9	・従来から行っている都小学校セーフティウォッチャーによる登下校時の見守りの充実。北貝塚小学校の登下校時の見守りの充実を図る。 ・高齢者への声掛けを心がけ、サロン開催時に状況を確認し、必要な対応を検討する。	少しずつではあるが、見守り活動は拡充できた。	B	・令和2年度はコロナ禍で、活動については高齢者への見守りが減ったが小学生の見守り活動は拡大した。 ・活動を支える人員を増やす必要があるが、コロナ禍がおさまる時期を見て呼びかけをする必要がある。	高齢者のサロン等の集会はコロナ禍の中で見通せないが、小学生への見守り活動は拡充すること。
【人口・世帯数】 6,113人、3,163世帯							
【町内自治会数】 9町内自治会							
【高齢化率】 19.6%							
【地域の特徴】 代々続く旧家の多いエリアと、造成地へ戸建てが立ち、そこへ住む転入住民、賃貸住宅の多いエリアなどが混在し、古くから住宅のあるエリアでは2世代、3世代同居の家も多い。	④ 福祉施設や地域行事でのふれあい交流活動の実施	9	・従来から行っている健康セミナー、芋煮会の行事を充実させ、世代を超えて楽しめるように工夫する(イベント内容の充実)。 ・地域(各町会自治会)イベントを考えて魅力ある行事を計画する(医療関係、手芸等の講座の開催)。	令和2年度は中止したが、期間を通しては充実したものになった。芋煮会、健康セミナーの開催に加え、サロン(貝塚くらぶ)も拡充できた。	B	・全体としては従来の取組も拡充できたと思う。 ・資金的な制約や担い手の高齢化が進み、継続することが難しい状況ですが、これまでの取組は守りたい。	大きな集会活動は見通せないの、無理であればどのようなことができるか検討したい。
	⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり	2.4	・地区部会が地域の高齢者の仲間づくりや交流の場として、ふれあいききサロンの立ち上げ、充実を図る。 ・自治会単位で行っているサロンを地区全体へ拡大 ・従来の地域の子どもが集まって、工作や自由に過ごしたりする「お話し会」の充実を図る	サロンでの演目も工夫して行ったことから、ある程度の実績は残せた。	B	・高齢者の参加は年ごとに減少している。高齢者は増えているが衰えから体調を悪くする人が増え、拡大できていない。 ・喜んで参加していただける企画、行事とするか、足を運んでも楽しみとなるためには等、検討していく。	コロナ禍がどのように展開するのか?集会をするためにはどのような催しとするか、まず検討する。
	⑨ わたしたちのまちの福祉を考える会(仮称)の設置	10	・平成30年度は、福祉活動推進委員会を中心とした各町内自治会や民生委員・児童委員などで情報交換会を実施する。 ・平成31年度は、定期的な情報交換を通して、各町内自治会のそれぞれ状況にあった福祉を検討する会を作る。 ・令和2年度は、全町内自治会で話し合う会の設置	特になし	C	・最初から話し合いをする。 ・情報の入手、各町会が必要とする企画を考える。	各町内自治会の考えが異なるため、同じ方向の情報、話題を検討する。
	⑬ 防犯活動の実施	6	・町内、自治会等、定期的に防犯パトロール活動を実施する。 ・パトロール人員増を図るとともに、未結成地区を無くす。 ・高齢者のサロン等で「振り込め詐欺」などの事例を話し注意を促す。	令和2年度は活動に制限があり、青色回転灯を警察より借用して町内の巡回、マイクで防犯、防災の呼びかけを行った。	B	地区部会全体での行動、統一した取り組みはあまりできなかった。青パトの巡回を全体に広げることを考えたい。(講習を受ける人増やす)	個々の人が取り組める防犯、防災への意識を高める。コロナ感染を防ぎながら取り組めるものを検討したい。
	⑭ 防災・減災活動の実施	6	・各町内、自治会で防災組織は整ったので、充実を図る。 ・機能性を高めるとともに、PR活動を行い災害(地震等)の確立の高い地域であることを認識していただき、助け合いのできる雰囲気づくりを行う。 ・防災に関する講座を開催	自主防災の組織はできたが、具体的な訓練などの実施はなし。	C	・大きな進展はなし ・台風被害を経験しているが、地区全体として何かを統一してできるか、それぞれ違いがある	具体的な訓練を実施できる形を作っていきたい。

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況
(平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2高齢者を支える仕組みづくり 3障害者を支える仕組みづくり
4こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5健康づくり 6防犯・防災に対する取組み
7担い手の拡大とボランティアの促進 8福祉教育・啓発 9地域のつながりづくり
10相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S:目標を上回った。
A:概ね目標を達成した。(8～10割)
B:一部目標を達成した。(5～7割)
C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性				
桜木地区部会エリア											
【人口・世帯数】 15,212人、7,037世帯	② 子育てしやすい環境づくり	4	・子育てサロン「ととけっこー」を年間9回実施 ・「ととけっこー」の安定した運営を図るため、多くの人がサロン運営に関わることができる仕組みづくり ・運営に関わるボランティアを増やす。 ・地域に在る子育て関連施設との連携	今期最終目標は「協力者の述べ人数50人」で、それに対して46人だったので、達成率は92%だった。	B	・ととけっこーの存在が少しずつでも周知されてきているように感じる。 ・地域協力者として桜木保育所との連携が定着した。所長が異動の際の引継ぎを行ってくれている。 ・前指導者の後継となる方が見つかり、安定した運営に見通しがついた。 ・運営側の引継ぎ体制が課題。	新型コロナの不安が残る中、無理のないサロン運営。				
【町内自治会数】 20町内自治会			⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり	2.4	高齢化が進む中、各町内会においてそれぞれ工夫を凝らし、「ふれあいいきいきサロン」を月に1～2回実施しているが、これからの取組みとして、多くの高齢者が集えるサロンを目指し、ボランティアの参加も増やしたい。	今期最終目標は「サロン件数10件」で、それに対して7件だったので、達成率は70%だった。	B	・既に活動しているサロンはいずれも工夫を凝らして熱心に取り組んでいる。サロンが無い自治会の方へ声掛けをしたが、新規サロン開設には至らなかった。 ・サロンがない自治会の殆どは自治会館等の公的な活動場所が無い。公民館は予約が難しい状態なので、新たなサロンの開設は厳しい。	新型コロナの不安が残る中、無理のないサロン運営。		
【高齢化率】 24.6%					⑦ 地域でできる介護予防・健康づくり	5	地域住民の健康増進と親睦の機会として、 ①スポーツ振興会主催「歩こう会」に協力する。 ②地区部会主催「グラウンドゴルフ大会」を開催する。 ③子どもから高齢者まで、多世代に渡る参加者(見学・応援等含む)を増やす。	今期最終目標は「2イベント参加者総数560人」だったが、それに対して538人だったので、達成率は96%だった。	A	・普段ならばスポーツ等のイベントが盛んな地域で、参加者数も安定している。新型コロナのために後期活動がすべて中止になり残念だった。 ・新たな住民に向けて、イベント周知と参加の声掛けが課題。	新型コロナの不安が残る中で、無理ない事業企画。中止もやむを得ずとする。
【地域の特徴】 幹線道路が複数本通っており、地域を分断している。 住宅地が多く、古くからの住民に加え、新住民が増えてきている。							⑪ 見守り活動の仕組みづくり	1	地区部会に所属する町内自治会において、見守り活動の体制づくりを検討する。 H30年度＝自治会での見守り活動の取組状況を調査する。 H31年度＝見守り活動実践例等の研修を行う。 令和2年度＝地域に見合った見守り活動の仕組みづくりを検討する。	今期最終目標は「新規見守り活動1件」で、それに対して新規1件(R3.6月開始に向け準備・検討実施)だったので、今期目標を達成した。	B
小倉地区部会エリア											
【人口・世帯数】 13,172人、6,054世帯	② 子育てしやすい環境づくり	4	・地域の実情を把握しながら、現在、若松公民館で開催している「子育てサロンぴーなっつ」の他に、地区部会エリアの中心地である小倉中央自治会で「子育てサロン」を開催する。 ・子育て相談会、絵本の読み聞かせや、手遊び、友達作りのおしゃべりタイムを実施。孫を預かる祖父母も歓迎。 ・周知方法として回覧板、ポスター、公園等でのチラシ配り	H30年 1回 11月9日 参加者50名 R1年 1回 11月8日 参加者45名 R2年 中止	B	・例年11月第2金曜日小倉中央自治会館にて開催は定着している。 ・例年20組前後の親子の参加がある。内容はほとんど変わらず開催している。 ・コロナ禍の中、消毒、検温、ソーシャルディスタンス、おもちゃの共有可否が課題 ・会場に定員があるため、先着順にするのか等話し合っていき、11月開催を目指す。	スタッフの人数が少なく、回数が1回に終わっているため、年2回開催に向けて、社協全体の活動として捉えていければと考える。				
【町内自治会数】 12町内自治会			⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり	2.4	現在毎月1回、小倉自治会館で「いきいきサロン」を実施しているが、遠方の高齢者の参加が難しく、参加人数も固定化しつつあるが、少しずつ新しい顔ぶれも増えている。なるべく声掛けを沢山していく必要がある。	前半2年間は、参加者は20名前後。コロナ禍の1年は12名。 内容は充実していたと思う。常に参加者が多い内容は困難。	S	・毎月1回の開催を楽しみにしている参加者が増えた。スタッフと顔なじみになり、他の場所でも声を掛け合っている。継続は力なり。 ・地域内1カ所の開催がどうか考えたが、他の地域では場所やスタッフの確保が難しいので、エリア中央の1カ所を充実させることを考えたい。	参加者を増やすことと内容を充実させること。		
【高齢化率】 28.2%					⑪ 見守り活動の仕組みづくり	1	安心カードを75歳高齢者全員に配布したが、さらに町内自治会と協働で全住民に配布する。	高齢者の実態は、民生委員さんが把握しているので、配布をお願いし、スムーズに行っている。250名配布。	A	令和2年度は、コロナ禍の中、配布出来なかったが、その他の年度はスムーズに行われた。安心カードは、消防署とも連携を取っている活動なので、今後少しでもスムーズに行く様に考えていきたい。	民生委員の健康調査実施後に75歳以上高齢者に配布を継続したい。
【地域の特徴】 約1,600世帯が属する小倉中央自治会(小倉台1丁目～小倉台7丁目)がエリアの中心にある。千葉都市モノレール小倉台駅を中心に、南北には戸建て主に住宅からなる住宅街と一部集合住宅(市営・県営)、幹線道路沿いには商店街が広がる。											

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況
(平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S: 目標を上回った。
A: 概ね目標を達成した。(8～10割)
B: 一部目標を達成した。(5～7割)
C: 大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性						
白井地区部会エリア													
【人口・世帯数】 7,023人、3,413世帯	⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり	2.4	高齢者の仲間づくりや交流の場となる「ふれあいきいきサロン」を町会単位で月1回～年数回実施している。現在は8か所で実施中。3年後には、サロンの担い手を増やすとともに、実施する町会を10か所に拡大する。実施町会同士の交流会を実施し運営ノウハウを共有、さらなる町会の拡大を図る。	計画目標10か所に対して9か所となった。	A	・概ね実施できた。次年度に向けて参加グループを増やす。 ・サロン参加者が固定化している。既存グループに新規参加者が入りづらくなっている。(指導者も一緒に高齢化)新しいグループを立ち上げるためにグループリーダー発掘が課題。	コロナ禍でできるサロンを検討・実施する。						
【町内自治会数】 18町内自治会													
【高齢化率】 42.7%													
【地域の特徴】 対象エリアが非常に広く、大きく3つの地域(西部・東部・中部)に分けられ、それぞれ異なる歴史・成り立ちを持ち、昔からの歴史のある地域と新興住宅地が混在している。	⑧ 活動の中核となる人材の発掘	7	・組織は人なり、福祉活動の中核となる人材を発掘し、福祉活動推進委員の増員を図る(現在7名を9名にしたい) ・ボランティア講座を年1回開催し、地域の組織(17連協、民児協、日赤奉仕団、ことぶき大学校、シニアリーダ等)と連携し地域ボランティアの登録人数を増やす。あわせてボランティア活動・研修会を通して、その要員を育成する。	目標9人に対して10人を実現	S	・委員会活動の取り組み姿勢が前向きであった。 ・役員の高齢化が進んでおりボランティアのなり手が見つからないことが課題。	・委員会活動を通じて人材を発掘する。 ・住民参加のイベントを増やす。						
⑫ 活動団体同士の連携・交流	9	・白井地区部会が、各自治会より、いきいきサロンの実態状況を把握。情報交換や課題を議論し、地域で問題解決ができる仕組みを作る(福祉ネットワーク会議) ・見守り活動、買物支援等の諸課題を検討し、千葉市あんしんケアセンター大宮台の協力を得て、課題解決に向けて話し合う「地域ケア会議」を開催する。	白井地区部会の懸案となっていた「地域ケア会議」を実施した。	B	初年度は地域主体の学習会を実施し、次年度は地域の課題となっている「ふれあい食事会(試行)」を実施した。本年度は当初の目標であった「地域ケア会議」を実施した。ケア会議の実施により地域の課題が顕在化した。白井地区部会は活動エリアが広いので、テーマごとに多様化が必要。	地域の課題が明確になったので引き続きケア会議を実施する。							
							⑭ 防災・減災活動の実施	6	現在、白井地区部会エリアでは、自主防衛組織が組織化されているのは、18自治会中10自治会となっている。各自治会が自主防災組織を立ち上げることを目標として、3年後には12自治会に増やす。	計画12か所に対して10か所となった。	B	初年度は、避難所運営委員会(3か所)で開催、次年度は地域交流協議会により地域防災大会を実施した。災害を受けたことにより防災意識が高まった。防災対応の行動が組織的にできなかった。	災害の被災体験をもとに地域防災のありかたを検討する。(地域ケア会議のテーマとする)
							更科地区部会エリア						
【人口・世帯数】 2,683人、1,237世帯	① 地域ぐるみで声掛け・あいさつ運動の実施	9	・平成30年度 住民周知 ①ポスター作製 ②要所に掲示 ③社協主催事業でCD放送 ・平成31年度 ①社協主催事業以外でCD放送 ②新入学期登校児童に対する挨拶運動の実施 ・令和2年度 ①地区のあらゆる催し時に可能であればCD放送 ②小学校児童に対する朝の挨拶運動の実施	H30年度、R元年度と予定していた取り組みをある程度実施できたが、R元年度の9月、10月の台風被害、R2年度のコロナ禍で実施が困難となった。	C	・地域住民の健康や安心、安全が守られない中での計画推進は難しかった。 ・自然災害やコロナ禍で露呈された課題を慎重に検討していく。	まずはコロナウイルスの感染防止から生じた課題を確認し、今後の取り組みを考えていく。						
【町内自治会数】 13町内自治会													
【高齢化率】 38.9%													
【地域の特徴】 対象エリアは非常に広いが、住基人口(2,683人)、世帯数(1,237世帯)は区内で一番少ない。 多くの地域が農村地域であり、人の出入りは多くなく、高齢化率は高いが、現役農家世帯が多く、元気な高齢者が多い。	④ 福祉施設や地域行事でのふれあい交流活動の実施	9	現在、下田町自治会館及びその周辺で親子・友達との交流の場として毎年12月に親子凧揚げ大会を実施している。 中学生、高校生、大学生等の若葉世代の参加協力を促す。	H30年度、R元年度では、地域行事として親子凧揚げ大会が100名を超える参加者を迎え、交流活動を実施できた。しかし、R2年度はコロナウイルスの感染拡大のため、ほぼ取組を実施できなかった。	B	「安心、安全ですからどうぞお越しください」と言えない限り、地域住民への交流活動は推進できないのではないか。	コロナウイルスの感染防止で露呈した社会福祉活動の課題を明らかにし、取組を推進していく。						
⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり	2.4	現在、更科公民館で地域の高齢者の仲間づくりや「交流の場」として、ふれあいきいきサロンを月1回実施している。 今後、サロンの担い手を増やし、地域の自治会館を活用し、サロンを実施する。	現在2団体がサロンを継続している。	B	・今後も現在の団体が継続できるかは見通しが立たない。 ・コロナ感染症以外にも課題が残されている。 ・簡単に言えば、多くの支援者がサロン運営を支えていかない限り取り組みは続いていかない。	当面はコロナ感染症拡大を速やかに防止する政治の対策を待ちたい。							
							⑮ 災害時に避難できる体制づくり	6	・平成30年度 ①避難所運営委員会設立準備会の立ち上げ ②委員会規約作成 ③委員会成立 ・平成31年度 ①避難所開設、運営マニュアル作成 ②避難所運営訓練実施、運営マニュアル見直し ・令和2年度 ①全体避難訓練マニュアル作成、訓練実施	H30年度は体制づくりの課題について共有・確認を図り、R元年度の台風15号の際は、各町内自治会を中心に活動がみられたが、R2年度のコロナウイルス感染拡大以降取り組み状況は把握できなかった。	C	・活動主体が自治会であるため、18連協で話し合いが進んでいる可能性はあるが、活動内容や実績を十分に把握できない実情がある。 ・新たに体制をつくるには難しい面が多く、今後、協議、検討が必要である。	同左

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況
(平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S:目標を上回った。
A:概ね目標を達成した。(8～10割)
B:一部目標を達成した。(5～7割)
C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性
御成台・千城台西北地区部会エリア 【人口・世帯数】 10,272人、4,775世帯 【町内自治会数】 18町内自治会 【高齢化率】 34.0% 【地域の特徴】 モノレール沿線を中心に、ショッピングセンターや住宅地が広がるエリアで、公共施設等が多く設置されている。	② 子育てしやすい環境づくり	4	・30年度:28年度に新規立ち上げして3年目。軌道に乗ってきた。一方でリーダーに頼り過ぎずボランティアが積極的に絡んでいけるよう取り組む。 ・31年度:参加者、ボランティアの自主運営を進める。 ・2年度:同上	コロナ前はほぼ2か月に1回の頻度で順調に進んでいた。	A	・母親同士の情報交換の場であり、癒しの時間が作れた場であった。 ・コロナ禍のもとでは同様の触れ合いの活動は難しく、異なる形態を模索する。	当面は同じ形態の活動は難しい。母親同士の情報交換、癒しの場を異なる形態でどのように作っているか考えていきたい。
	⑦ 地域でできる介護予防・健康づくり	5	・30年度:介護予防・健康づくり講座を定期的に開催する。各自治会が事業の一環として取組んでもらえるようサポートしていく。 ・31年度:各自治会が健康促進のため事業化へ向けたサポート ・2年度:各自治会が健康促進のため事業化へ向けたサポート	・健康長寿の啓蒙活動:「社協だより」を活用し、介護予防・健康長寿を主題に記事を連載 ・地区部会事業等を利用し、体力維持の指標となる「握力測定」を実施 ・自治会と連携し「健康づくりイベント」を実施 ・「ポッチャ」は当地区部会で他に先駆けて導入した。今や公民館や小学校の活動にも広まっている。	S	コロナ禍のもとであるからこそ、自宅での体操やウォーキングの重要性を話続けてきた。活動をリードしてくれた役員には頭が下がります。手を変え、品を変え、今後はポールウォーキングを広めることとしている。	人は歩くことが健康長寿のためにもっともよい。高齢者でも体に負担をかけずに歩けるポールウォーキングを広めていきたい。
	⑫ 活動団体同士の連携・交流	9	・30年度:関係団体との情報交換体制を進める。定期的に協議ができる自治会などの関係団体2団体。 ・31年度:同3団体 ・2年度:同4団体	・千城台東南・金親地区部会と共同で講演会や健康づくり講習会を開催 ・千城台地区の夏祭実行委員会と連携し、夏祭会場に健康長寿ブースを開設 ・近隣自治会との交流を深める目的もあり自治会行事には積極的に参加	B	・隣接している地区部会とはいろいろな相談ができる関係にある。一方、関連自治会とはなかなか進展が難しかった。 ・活動団体同士の連携にはお互いが呼び合う呼吸が大事と痛感する。それが難しいと感じる期間であった。 ・新しい感覚の若い役員の出現を常に模索しているが、永遠の課題。	近隣自治会や同業の地区部会との連携は穏やかに模索を継続。
千城台東南・金親地区部会エリア 【人口・世帯数】 10,969人、5,243世帯 【町内自治会数】 17町内自治会 【高齢化率】 36.4% 【地域の特徴】 モノレール沿線を中心に、ショッピングセンターや住宅地が広がるエリアで、公共施設等が多く設置されている。	⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり	2.4	新規会委員の募集と目新しい活動内容と継続性のある活動を目指して取り組んでいる。 1サロン活動の推進 2買物や薬取りの代行付き添い 3ゴミだしや車いす介助 4買物補助 5困りごと相談 6ふれあい給食サービス	平成30年度、令和元年度は通常通り実施。 令和2年度は年度当初からコロナ禍の影響により中止せざるを得なかった。	A	コロナ禍の中、いきいきサロン、ふれあい給食を利用している方々の気持ちをくみ取り、いかにして再開できるようにするか検討。	同左
御成台・千城台西・北地区部会と合同講演会を実施。支えあい組織たんぽぽ会は、付添い、買物、ゴミ出し、その他を含め、年間700件以程のお手伝いを行う。ふれあい給食の月4回の宅配。高齢者の屋外活動、交流の支援としてグラウンドゴルフ、料理教室(2回)、バス旅行を実施、等。 ※平成30年度～令和元年度は計画通りに実施できたが、令和2年度は年度初めからコロナ禍の影響により、ほとんどの活動を中止した。	⑫ 活動団体同士の連携・交流	9	高齢化社会を迎え、当地区も例外なく高齢化と独居者が多くなり、可能な限り屋外活動と交流ができるよう支援したい。	御成台、千城台西・北地区部会と合同講演会を実施。支えあい組織たんぽぽ会は、付添い、買物、ゴミ出し、その他を含め、年間700件以程のお手伝いを行う。ふれあい給食の月4回の宅配。高齢者の屋外活動、交流の支援としてグラウンドゴルフ、料理教室(2回)、バス旅行を実施、等。 ※平成30年度～令和元年度は計画通りに実施できたが、令和2年度は年度初めからコロナ禍の影響により、ほとんどの活動を中止した。	A	コロナ禍の収束が見込めない中、会員間の情報、ふれあい、支援をいかに活かしていくかが課題。	同左
	⑱ 福祉こころを育む活動の実施	8	老若男女の交流とふれあいを目標としている。	南町自治会ふれあい祭は体育館を借り、地域の子供たちとのふれあい。東町自治会ふれあい祭及びコミュニティまつりにコーヒー店社協コーナーを設置。サロンでは植草学園短大生、南小児童との交流も実施。夏休みなかよし教室、冬休みなかよし教室では3校小学生を地域の方に指導を受ける。3小学校1年生を対象に「むかし遊び」で地域の方たちと楽しい交流実施。 ※平成30年度～令和元年度は予定通りに実施できたが、令和2年度は年度初めからコロナ禍のため、全面的に中止した。	A	令和2年度はコロナ禍のため一部の活動を除き中止したが、期間全体を通して見れば概ね計画通りに実施できた。コロナの収束状況を注視しながら再開できるところからはじめていきたい。	同左

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況
(平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S:目標を上回った。
A:概ね目標を達成した。(8～10割)
B:一部目標を達成した。(5～7割)
C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性
26地区部会エリア							
【人口・世帯数】 7,788人、3,522世帯	③ 公園やサークル活動を利用した交流機会の創出	9	・ラジオ体操を継続し全会場で実施する 大宮台:4 北大宮台:2 いずみ台ローズタウン:2 他町内自治会単位:5 合計:13 ・グラウンドゴルフ大会への参加促進、ふれあい食事会への参加を促進し住民の交流の場をつくる。	平成30年度から令和元年度までは概ね目標を達成したが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症予防のため、緊急事態宣言が出されたことから実績を下回った。	B	高齢化に伴う参加者の減少、令和2年度新型コロナウイルス感染症予防のため、さらに参加者の減少が見直しが必要。	新型コロナウイルス感染症が収束した時点で検討したい。
【町内自治会数】 8町内自治会							
【高齢化率】 44.6%							
【地域の特徴】 徒歩圏内に鉄道の駅はなく、公共交通機関はバスのみ。 当該エリアの中心である大宮台団地は昭和36年～42年にかけて、千葉県住宅供給公社により開発された大規模団地(当時戸建住宅2,040戸)である。隣接はしないもののいずみ台ローズタウンを内包する。	⑦ 地域でできる介護予防・健康づくり	5	各自治会が健康でいきいき暮らせる事業の継続を目指す。 早起きラジオ体操・元気で歩こう会・安心カード・安否確認電話連絡・高齢者見守りネットワーク・一人で避難できない人の介助・公園清掃除草・ゴミだし支援・買物支援	平成30年度から令和元年度までは実施できなかった項目もあり、令和2年度は新型コロナウイルス感染症予防のため、緊急事態宣言が出されたことから取り組んだ項目も実績を下回った。	B	高齢化に伴う参加者の減少もあり、事業の見直しが必要。	新型コロナウイルス感染症が収束した時点で検討したい。
	⑬ 防犯活動の実施	6	防犯・防災パトロールの充実を図る。 町内自治会で、定期的に防犯パトロールを実施する回数を増やす。	防犯活動は概ね実施できた。令和2年度は新型コロナウイルス感染症予防のため、緊急事態宣言が出されたことから規模を縮小して取り組んだ。	B	概ね実施できた。	新型コロナウイルス感染症が収束した時点で検討したい。
若松地区部会エリア							
【人口・世帯数】 19,749人、8,859世帯	② 子育てしやすい環境づくり	1	参加者増加へ向けた周知の方法、内容の充実を図る。	令和2年度はコロナ感染症の影響により活動実績はないが、平成30年度、令和元年度は子育てサロンを開催することができ、参加者にも地域の居場所を提供できた。	C	・目標には届かなかったが、平均8人の安定的な参加は、大きな成果とした。 ・コロナ感染症の終息。加えて終息後の開催時には参加者増を目指したチラシ等のPR方法に努めたい。	「参加者増加へ向けた周知の方法、内容の充実を図る」ことを継続する。
【町内自治会数】 13町内自治会							
【高齢化率】 26.9%	⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり	1	・いきいきふれあいサロンの開催場所、回数の増加を図る。 ・地域でできる介護予防のコラボを考える。	令和2年度こそコロナ感染症により中止せざるを得なかったが、元年度には目標越えを達成。(コロナ感染症の影響がなければ2年度も目標越えができた。)	A	・実施できた単年度(令和元年度)で目標が達成できた。 ・今後はコロナ感染症が終息しなければ何もできない。	この感染症が落ち着くまでは計画を行うのも心配。
【地域の特徴】 地区部会対象エリアがとて広く、住基人口(19,749人)、高齢者数(5,314人)、世帯数(8,859世帯)は区内エリアで二番目に多い。 若松台2・3丁目の高齢化率(44.5%)が非常に高い。							
	⑱ 福祉のこころを育む活動の実施	7	若松高校における子育てサロンの後、生徒に向け社会福祉協議会の構成メンバーによる地域の福祉活動について紹介する。	令和2年度(コロナ感染症拡大中)をのぞいては2過年度とも目標通り実施ができた。コロナ感染症の流行がなければ継続できていたことなので残念である。	A	・令和2年度をのぞく2過年度とも目標が達成できた。 ・生徒、保護者、我々ボランティア、三者にとっても貴重な経験ができる事業であったので、できれば再開を目指したい。	コロナが終息し、また学校も考え方、方向づけにより左右すると思うが、事業に携わる全ての方にとって貴重な経験となるこの事業の再開を目指したい。

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況
(平成30年度～令和2年度)

【取組テーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S:目標を上回った。
A:概ね目標を達成した。(8～10割)
B:一部目標を達成した。(5～7割)
C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組テーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性
加曽利地区部会エリア							
【人口・世帯数】 6,641人、3,160世帯	⑫ 活動団体同志の連携・交流	4	<ul style="list-style-type: none"> ・地区部会とあんしんケアセンター桜木が連携し、地域の関係団体等が課題解決に向けて話し合う場である「加曽利町地域ケア会議」を定期的に開催する。 ・地域で、助け合い活動や見守り活動を実施する団体同志の情報交換や意見交換を定期的に行う。 ・地区部会、町内自治会、民生委員・児童委員協議会等が情報交換や意見交換を定期的に行う。 	地域で起こりうる身近な問題解決、共有化した。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・活動団体同志の連携・交流を通じて身近な福祉問題を議論する場ができた。 ・町内自治会、民生・児童委員、あんしんケアセンター等が情報交換や意見交換を定期的に行う仕組みづくりが必要。 	自治会、民生・児童委員、あんしんケアセンター等が情報交換や意見交換を定期的に行う仕組みづくりを検討していく。
【町内自治会数】 7町内自治会							
【高齢化率】 30.3%							
【地域の特徴】 エリア内には小学校が設置されていない、1町のみ(加曽利町)のエリアである。古くから農業を営む世帯の地域、戸建住宅が多い地域、最近新たに作られた新興住宅地がある。							
	④ 福祉施設や地域行事でのふれあい交流活動の実施	9	<ul style="list-style-type: none"> ・地域でだれでも参加できるイベントを企画し、開催する。 ・地域でイベントの内容を精査し、魅力あるプログラムを実施し、参加を促す。 ・地区部会や町内自治会等が一人暮らし高齢者等を対象に、ふれあい食事サービス、ふれあいサロンを開催し、高齢者同士の交流の機会をつくる。 	イベントをお手伝いしたいとの企業の申し出があり検討した結果、時間的に間に合わなかったものの、社会貢献を積極的に行いたいので相互交流を実施したいとの心強い言葉をいただいた。今後、地域行事でのふれあい交流活動を実施したい。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・社会貢献を積極的に行いたいので相互交流を実施したいとの心強い言葉をいただいた。今後、地域行事でのふれあい交流活動を実施したい。 ・社会貢献を積極的に行いたい企業と相互交流を実施し、高齢者の福祉ニーズに応えていきたい。 	総論的な話も時には必要であるが、これに加えて、身近な福祉活動を行ってゆくには、企業のカネも必要だと考えている。
	⑧ 活動の中核となる人材の発掘	7	<ul style="list-style-type: none"> ・地区部会や町内自治会の広報等で積極的に福祉活動推進委員やボランティアの募集を行う。 ・地区部会がバザー等の地域活動の機会をとらえてボランティアの登録をする仕組み(台帳)をつくる。 ・地域で定年を迎えた方や元気な高齢者に呼びかけ、これまで培ってきた知識や技術などを生かし、地区部会活動に参加していただく。 	ボランティア活動研修会の実施。自治会・社協のイベントや広報を通じてボランティアの勧誘活動を実施。地区部会役員に2人なっていただいた。	S	地区部会や町内自治会の広報等で積極的に福祉活動推進員やボランティアの募集を行なった。	地域で定年を迎えた方や元気な高齢者に呼びかけ、これまで培ってきた知識や技術などを生かし、地区部会活動に参加していただく。

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況
(平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S:目標を上回った。
A:概ね目標を達成した。(8～10割)
B:一部目標を達成した。(5～7割)
C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性
都賀地区部会エリア							
【人口・世帯数】 13731人、7,059世帯	② 子育てしやすい環境づくり	4	子育てサロンひなたの月例開催は伝統事業として定着して久しい。毎月第2水曜日の定例会(若葉保健センター)にはエリア外からの参加者も多く毎回40～60組の母子が集う。児童母子福祉委員会が中心となり「都賀の台保育所」や「マミー&ミー保育園」との連携協力で運営されている。	概ね計画通りの活動ができた。コロナで中断し、今後の活動環境への影響が懸念される。	B	・コロナ禍による活動の抑制を除けば概ね計画を遂行できた。 ・コロナ収束後の円滑な移行と平常活動の復活に注力したい。	幼児が相手の活動であり、コロナ収束後も慎重に対応したい。
【町内自治会数】 10町内自治会							
【高齢化率】 28.2%							
【地域の特徴】 都賀駅、モノレール沿線を中心に、戸建住宅の多い地域と、賃貸住宅集合住宅が多い地域がある。 都賀の台1丁目から4丁目までの高齢化率の平均は約48.4%と、限界集落(50%:2人に1人が高齢者のまち)に近い状況まで高齢化が進んでいる。							
	⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり	1	現在、5拠点で「いきいき交流サロン」活動を展開している。この内、地区部会活動としての補助対象は3拠点である。身近な人達の交流の場とし、町会自治会単位での開催を奨励し、発足準備金制度(1万円)を設けて、活動拠点の増加を目指す。町会自治会との協力が必要であり、地区部会(高齢者福祉・ネットワーク等)と協力して補助対象拠点を5まで増やしたい。	現在サロン活動を行っているのは7組織となった。(内、4組織が社協の補助対象。) 都賀町会、また都賀の台は地区単位の活動が定着した。	B	・町会、自治会に1活動組織の構想があったが、会場、世話人等の開催要因もあり、福祉活動の推進面でも厳しい実情を把握した。 ・独居者(お一人さま)や要介護支援者のサロンへの勧誘、招聘などは民生委員の協力が不可欠だが、この協力関係の推進・維持が課題。活動のマナー化が課題。	コロナの収束を待って、活動趣旨などの再啓蒙などを行ってから再開。「協力したい。参加して皆との仲間意識を共有したい。」など、皆で楽しく支えるサロンを目指す。
	⑪ 見守り活動の仕組みづくり	1	地区部会や町会自治会で独自に取組むことは、組織化や運営と継続面でハードルが高い。住民の誰もが心の片隅で「思いやりを繋ぐ地域生活の必要性、大切さ」を抱いており、これを生かしたご近所相互による見守りについて啓蒙紙(ご近所福祉)で全域に呼びかけていく。「遠くの親類より近くの他人」、ご近所相互の日常的な交流は災害時の相互支援に繋がる。現代社会は繋がりが豊かな街づくりを求めている。	ご近所相互の見守り(ご近所福祉)こそ最も有効な地域福祉活動であるとの理念を、地域全域に啓蒙してきた意義は大きいし、重複した啓蒙で成果を期したい。	B	・ミニ福祉通信(みんな仲間)での回覧啓蒙による効果は計測できないが、こうした啓蒙活動は「継続は力」と信じて、引き続き実施していきたい。 ・「見守り活動の仕組み化」は都賀の台地域は組織的に対応しているが、その他の地域の具現化は見込めていない。民生委員との連携活動が不可欠である。	引き続きミニ福祉チラシ「みんな仲間」の中で、ご近所福祉活動の一環としての協力方、啓蒙していきたい。
	⑫ 活動団体同士の連携・交流	9	・地区部会、町内自治会、民生委員、福祉関係団体・組織などとの交流により相互の活動情報を交換しあって、協力関係の向上を図る。 ・町会自治会と民生委員との連携推進 ・あんしんケアセンターとの交流	町内自治会等との連携・交流は特段の進展はなかったが、あんしんケアセンターとの連携強化により、高齢者福祉の活動面で大きい成果があった。	B	・協力関係の維持に努めているが、あんしんケアセンター都賀の関係者のご協力によるところが大であり、さらに円滑な連携の推進に努めたい。 ・町内自治会や福祉関係組織・団体との日常的交流と連携により、厚みのある活動が期待されるが、それぞれ組織の独自性や事情もあり、協力関係の一元化は難しい。	引き続きミニ福祉チラシ「みんな仲間」の中で、活動団体同士の連携・交流の重要性について啓蒙してまいりたい。
	⑬ 地域福祉に関する情報の発信	10	地区部会の活動は広域的であり、活動内容が限られていることもあり、住民にとって親近感が乏しく「活動が見えない」との声がよく聞かれる。「地域福祉の推進」を旗印としている社協であるが、地域福祉の先導者として地区部会の「見える化」が求められている。その対応の一環として、部会活動や福祉情報などを盛り込んだ広報紙を既刊紙とは別に定期的に発行することで部会への理解を求めたい。	高齢者の福祉窓口である「あんしんケアセンター都賀」とリンクして、生活に役立つ福祉情報の提供により、地域住民への啓蒙とあわせ、双方の活動のPRに役立っている。	A	・コロナ禍にあってほとんどの活動が抑制された中で、福祉に関する啓蒙チラシを隔月で全域に回覧することで、地区部会活動の一翼を担うことができた意義は大きい。 ・このミニ福祉通信が地区部会活動の一環として定着し、より親しまれ評価されるものにするには、提供情報の質、チラシの編集技術など様々な課題がある。	引き続き隔月発行に努めたい。
	⑭ 地域での福祉教室等の開催と活動支援	8	地域福祉を推進していくうえで、地域の福祉活動者や住民が、高齢者福祉を中心とする各種福祉制度や施策のあらまし、また新たな政策の概要など幅広く学びあっていくことは、交流や情報交換の機会ともなる。こうした研修や学習を通じて活動の活性化を図っていく、即ち「常に学び合い活動に生かしていく」というスタンスを共有して、組織運営をより生きたものになる。	福祉教室の開催の代替策としてミニ福祉通信(みんな仲間)を発行したことは、コロナ禍でも初期の目的遂行の一助となり、意義があった。	B	・コロナ禍にあってほとんどの活動が抑制された中で、福祉に関する啓蒙チラシを隔月で全域に回覧することで、地区部会活動の一翼を担うことができた意義は大きい。 ・このミニ福祉通信が地区部会活動の一環として定着し、より親しまれ評価されるものにするには、提供情報の質、チラシの編集技術など様々な課題がある。	引き続き有意義な福祉情報を発信し、教室活動以上の成果を期したい。

若葉区支え合いのまち推進計画の推進状況
(平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2高齢者を支える仕組みづくり 3障害者を支える仕組みづくり
4こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5健康づくり 6防犯・防災に対する取組み
7担い手の拡大とボランティアの促進 8福祉教育・啓発 9地域のつながりづくり
10相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S:目標を上回った。
A:概ね目標を達成した。(8～10割)
B:一部目標を達成した。(5～7割)
C:大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性
結・みつわ台地区部会エリア							
【人口・世帯数】 24,296人、10,795世帯	④ 福祉施設や地域行事でのふれあい交流活動の実施	9	・これまで、公民館で「福祉のつどい」を1回/年、開催しているが、出席者が「参加し交流することによって、最低、何か一つを習得し(身につけて)帰れるよう、内容の充実を図る。 ・「回数」については、現状維持とする。	・H30年の開催(約40名出席) ・H31年の開催(64名の出席) ・R2年は実績無し	A	コロナ禍期間を除けば上々の実績をあげることができた。現在、活動自粛が続いており、活動PRの在り方を模索中。	先が見通せないコロナ禍の現状では、休眠状態である。
【町内自治会数】 35町内自治会							
【高齢化率】 24.8%							
【地域の特徴】 高齢化率が10%台の町丁(殿台町、東寺山町、みつわ台1丁目、源町、原町の一部)もいくつかあり、比較的高齢化率が低い。35の町内自治会数は区内最多(加えて5の管理組合)である。	⑧ 活動の中核となれる人材の発掘	7	・地区部会でのボランティア参加者を講座等のお知らせチラシ等を活用し募集していく。 ・地区部会主催の各種講座等での「アンケート」で、ボランティア活動への関心を示した人達に対して、個別に参加を呼び掛ける。	30年度、元年度とも新人発掘ができた(5名)。	S	・有能な仲間の参加が得られ、地区部会内に活気が出てきた。 ・機会があれば…ではあるが、活動休眠状態で打つ手なし。	自粛期間が継続しており、積極的な活動不可状態が続く。
	⑫ 活動団体同士の連携・交流	9	・地区部会とあんしんケアセンターみつわ台の連携を軸に、地区民協(412・404)、第34地区連協等と協力し、より効率的な地域ケア会議を計画し、地区部会最大の活動目標である「支え合い、見守りのまち」先進地区を目指す。 ・第3期中までに発足した「支え合いの会」7か所をモデルに活動地域の増加を目指す。	・H30年の開催(支え合い活動をスタートさせた7か所を対象に開催) ・H31年の開催(福祉活動関係者である「民生委員」「居宅支援事業者」「支え合いの会」約50名出席) ・R2年は実績無し	B	・コロナ禍での中止を除けば、まずまずの地域ケア会議を開催できた。 ・あんしんケアセンターみつわ台との良好な関係を維持しつつ、新たな企画を模索していきたい。	コロナ禍で先行きが見通せていない。
千城小地区部会エリア							
【人口・世帯数】 2,788人、1,356世帯	⑤ 気軽に過ごせる居場所づくり	1	30年度 エリア内の10自治会で、最低1回試行する。 31年度 利用者より要望のあったカラオケ等を検討して、人数・回数を増やす。 32年度 年6回以上の実施をめざす。 3カ年で、開催場所を増やす。	ふれあい・いきいきサロン開催(令和2年度は未開催)。	C	・コロナの影響で、目標を大きく下回った。 ・ふれあい・いきいきサロンの定着を目指す。	ふれあい・いきいきサロン開催時は、3密を避ける。
【町内自治会数】 10町内自治会							
【高齢化率】 43.8%	⑦ 地域でできる介護予防・健康づくり	5	地域住民の健康増進と親睦の機会として、 ・子供たちと一緒にラジオ体操及び健康講話 ・千城小学校第二グラウンド除草作業 ・ふれあい歩こう会 ・千城小地区敬老会 ・年末切餅配布(対象者75歳以上独り身)	取組5種の定着が出来た。	A	・コロナの影響もあったが、目標は概ね達成できた。 ・開催時は、3密を避ける。	開催時は、3密を避ける。
【地域の特徴】 エリア内には1町(大宮町)しか含まれていない、小学校は設置されているが、児童数は区内で最も少ない。 古くから農業を営む世帯の地域があり元気な高齢者が多く、また新たに作られた新興住宅地がある。							
	⑭ 防災・減災活動の実施	6	30年度 パトロール時に、道路や街路灯等の改善点を調べる。 31年度 3年に1回開催の防災訓練、防災講座、救急救命講習。 32年度 パトロール未実施自治会への打診。 他サロンでの顔見知りが増えることで、防犯・防災につなげる。 パトロール時も、健康づくりと縦の繋がりが、横に発展させる。	防犯パトロール実施。	A	・順調に実施できた。 ・未実施自治会への働きかけ。 ・自治会の枠を超えた地域横断型のパトロール実施。	コロナへの呼びかけと共に、今後も実施したい。

緑区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度～令和2年度)

主な成果	目標に対する達成状況について、(A)(S)の割合が6割を超えており、概ね順調に推進することができた。 特に「福祉教育・啓発」や「こどもと子育てを支援する仕組みづくり」については、地域の状況に応じて、学校とも連携し、多くの取組みを実施することができた。また、「見守りの仕組みづくり」や「高齢者・障害者を支える仕組みづくり」については、令和元年度までは、着実に取組みを推進することができた。
今後の課題	新型コロナウイルス感染症が収束するまでは、感染症予防に配慮し、活動内容を検討する必要がある。 また、各地区の状況に応じて課題が異なるが、実施している活動内容を住民に浸透させるための周知や担い手を確保するための住民意識の向上、各地域で活動する団体間の連携等が課題としてあげられる。

令和3年度の取組の方向性	新型コロナウイルス感染症予防に配慮し、実施できる活動を無理のない範囲で実施する。
--------------	--

◆取組みテーマ別達成状況

【達成状況の目安】 S: 目標を上回った。 B: 一部目標を達成した。(5～7割)
A: 概ね目標を達成した。(8～10割) C: 大きく目標を下回った。(～4割)

取組みテーマ	重点取組項目数	達成状況	主な取組み実績
1 見守りの仕組みづくり	4	S 1 A 1 B 2 C	緑区では、地域住民主体による見守り活動が13地域(椎名1、菅田7、土気4、おゆみ野1)で行われており、年に1度区内の活動団体を集め、意見交換会・交流会を実施している。計画期間中では土気地区の2地域で新たな活動が開始された。椎名地区では、椎名地区部会が先頭に立ち、定例会の開催や活動状況の把握を行ったが、ボランティアが減少傾向にある。土気地区では、大木戸台団地と越智はなみずき台団地の2地域で新たな活動が開始された。菅田地区では、地区部会の見守り活動推進委員会が未実施地区の動向等の把握に努めた。おゆみ野地区では、地域住民による活動は1地域のみであるが、民生委員が中心となり見守り活動を実施した。
2 高齢者を支える仕組みづくり	3	S A 3 B C	区内地区部会4つのうち、いきいきサロンは、重点取組地区3地区で、延べ697回実施(H30年329回、R元年259回、R2年109回)【4地区で、延べ957回、H30年447回、R元年366回、R2年144回実施】した。また、ふれあい食事サービスは、2地区で、延べ48回(H30年29回、R元年19回、R2年休止)【3地区で、延べ65回、H30年39回、R元年26回、R2年休止】、ふれあい散歩クラブは、2地区で、延べ156回(H30年61回、R元年55回、R2年40回)実施した。計画期間中は災害や新型コロナウイルスの影響があり、実施回数は減っている。
3 障害者を支える仕組みづくり	3	S A 3 B C	菅田地区では、障害者施設の手伝いや見学、慰問品の贈呈等、障害者施設との交流を深めた。椎名地区では、椎名小学校の福祉教育授業(手話体験授業、シッティングバレー体験授業)への協力支援を行い、児童の障害に対する理解・関心を高めた(令和2年度は休止)。おゆみ野地区では、障害者やその家族が参加できる「おたのしみ会」(令和2年度は休止)や「おしゃべり会」を開催し、地域住民と障害者(児)やその家族とが交流し、障害に対する理解を深めた。また、令和元年度に子育てサロンの中で、県立聾学校高等部の生徒さんと赤ちゃんとのおふれあい体験学習を実施した。
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり	4	S 2 A 2 B C	区内地区部会4つのうち、子育てサロンは、重点取組地区1地区で、延べ19回実施(H30年10回、R元年9回、R2年休止)【3地区で、延べ92回、H30年46回、R元年45回、R2年1回実施】した。椎名地区では、小学校・PTA・民児協・地域住民・地区部会等が連携し、漢字の学習支援・食育支援授業・地域伝統行事・昔あそび等の伝承文化の継承を行った。また、ボランティアの方による児童の通学時の声掛け運動も行われた(令和2年度は休止)。おゆみ野地区では、令和元年度に子育てサロンの参加者と泉谷中学校の生徒とが交流する機会を設けた。
5 健康づくり	1	S A B 1 C	おゆみ野地区では、地区部会で実施している「いきいきサロン」の中に健康体操を取り入れる等、健康寿命の延伸や介護予防の推進に努めた(令和2年度は休止)。
6 防犯・防災に対する取組み	1	S A B C 1	菅田地区では、地域住民が学校行事等に参加し、子どもたちと顔の見える関係づくりを築くことを目標に掲げていたが、個人個人の活動はあったものの、組織としての体制づくりには至らなかった。
7 担い手の拡大とボランティアの促進	3	S A 1 B 2 C	椎名地区では、身近なボランティア意識を高めることを目的に、ゴミステーションにペットボトルキャップ回収袋を設置し集めている。刈田子町と大金沢町に加え、令和2年度から富岡町が新たに活動を開始した。土気地区では、地区部会が「大木戸台シニア支援の会」の推進役、支援役として協力を続けている。同会では、令和元年度から地域の空き家を借り上げ、そこを拠点に様々なイベントを行う等、新たな試みも開始された。おゆみ野地区の支え合い活動を実施している2団体については、活発に活動を行っている。
8 福祉教育・啓発	4	S 1 A 3 B C	菅田地区では、障害者施設の手伝いや見学、慰問品の贈呈等、障害者施設との交流を深めた(令和2年度は休止)。椎名地区では、椎名小学校の福祉教育授業(手話体験授業、シッティングバレー体験授業)への協力支援を行い、児童の障害に対する理解・関心を高めた(令和2年度は休止)。おゆみ野地区では、令和元年度に子育てサロンの中で、県立聾学校高等部の生徒さんと赤ちゃんとのおふれあい体験学習を実施した。
9 地域のつながりづくり	2	S 1 A B C 1	椎名地区では、自治会及びあんしんケアセンターと連携し、健康測定会・介護保険についての巡回説明会を実施した(令和2年度は休止)。土気地区では、福祉施設と地域との連携による外出支援を実施している2地区に推進役、支援役として協力をし活動状況の把握に努めた。
10 相談支援体制と情報提供の充実	11	S 1 A 9 B C 1	4地区部会とも広報紙を発行(延べ27回、H30年10回、R元年9回、R2年8回)し、地区部会や地域の活動について情報提供を実施した。また、高齢者の集う場、子育て世代の集う場、障害者やその家族が集う場の提供を通じて、身近な相談役として相談に応じたり、必要に応じて専門家を招聘しての講義の開催、専門機関への紹介等を行った。
合計	36	S 5 A 19 B 5 C 3	

◆コロナ禍における好事例等

<p>椎名地区部会では、古市場団地の見守り活動を支援している。感染予防対策として訪問による見守りを自粛したが、訪問に代わる活動として、地域情報等を掲載した「お元気ですか通信」を作成し、見守り対象者に配布した。</p> <p>土気地区部会のいきいきサロン(1箇所)では、感染予防対策として、会場に集まる代わりにクイズを記載した手紙を利用者に配布し、電話でクイズの回答を聞きながら近況を確認した。</p>
--

緑区支え合いのまち推進計画の推進状況
(平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S: 目標を上回った。
A: 概ね目標を達成した。(8～10割)
B: 一部目標を達成した。(5～7割)
C: 大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性	
<p>誉田地区部会エリア</p> <p>【人口・世帯数】 33,236人・16,191世帯</p> <p>【町内自治会数】 34町内自治会</p> <p>【高齢化率】 26.1%</p> <p>【地域の特徴】 緑区の東西に広く位置する地区。北部は農村地域のため人口も少ないが誉田駅近くは宅地開発が進み若い世代も多い。</p>	④ 障害者(児)が集う場の開設・拡充・情報提供	3・8・10	<p>現在地区部会で行っている障害者施設への慰問訪問、施設行事への参加等の中で障害者(児)のニーズを把握するとともに、集う場の必要性、集う場の確保の可否等を検討する。 必要性がある場合、可能なら第4期中に1か所程度の場所を確保して、集う場の開設につなげたい。</p>	<p>平成30年に取組項目をあげ、平成30年度、令和元年度に5施設の見学、慰問を実施。施設の内容、状況はある程度、知ることはできた。 令和2年度に施設側との具体的な内容を話し合う意見交換の場を持つことを考えていたが、新型コロナウイルス感染拡大により、話し合いの場を持つことはできなかった。 その結果、「集う場」の必要性の有無の確認に至らなかった。</p>	A	<p>従来からの活動の施設見学、慰問、行事の参加やお手伝いから一歩踏み込んだ活動として取組項目をあげた。 3年目に施設側の具体的な要望、ニーズ等を確認する意見交換の機会を持つとうとしたが、コロナの感染拡大により開催できず「集う場」の必要性の有無の確認まで至らなかった。 現在、対象としている5施設の状況はある程度把握していること、施設とのコミュニケーションもとれている状況であり、まず「集う場」の必要性に向けて施設側との意見交換をすることから始めたい。 コロナ禍であり、現計画に柔軟性を持たせ、施設側の要望に沿えるような事を目指したい。</p>	<p>コロナの感染予防対策を取り実施できる活動を無理のない範囲で実施する。</p>	
<p>②① 身近な防犯、安全対策</p>			6	<p>地域住民が小・中学校の行事等に参加したり、顔を合わせた際に挨拶をする「あいさつ運動」を推進したりすることで、顔の見える関係を築き、身近な防犯対策を行う。 また、小・中学生と地域住民が一緒になり、防犯活動や交通ルールの守り方について、警察の方を講師に招いて学習する。</p>	<p>地区部会の役員が個々に学校行事に参加したり、協力したりすることはあったが、地区部会としての総合的な活動は特にできなかった。</p>	C		<p>身近な防犯・安全対策を取組項目としてきたが、実際の活動は、狭い地域を限定することでしか成り立たないことが課題として残った。従って取組は計画倒れとなった。 来期以降は、この取組は行わないこととする。</p>
<p>②⑥ 見守り活動の推進</p>			1	<p>第3期末(平成30年3月末)現在、地区部会エリアで見守り活動を実施しているのは7町内自治会であるが、これを毎年最低1か所増やしていく。</p>	<p>町内自治会に働きかけを行ってきたが、令和2年度末現在、当地区部会地域内で見守り活動を実施しているのは7町内自治会であり、新しく活動を始める町内自治会はなかった。</p>	B		<p>見守り活動を実施していない団体への周知が不十分であったので、今後、実施団体の運営事例集を作成し、見守り活動の周知推進を図る。 見守り活動を実施している団体の定例会等に参加して情報交換、助成金申請等の支援を行う。</p>

緑区支え合いのまち推進計画の推進状況
(平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S: 目標を上回った。
A: 概ね目標を達成した。(8～10割)
B: 一部目標を達成した。(5～7割)
C: 大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性					
椎名地区部会エリア												
【人口・世帯数】 5,009人・2,517世帯	① 情報の収集と共有化	10	広報誌「椎名だより」を年3回発行し、地区の福祉情報、地域伝承文化行事、児童との交流、敬老会、バザー等の地域の情報を提供する。	・計画期間中、広報紙「椎名だより」(年3回)を継続して発行し、地域情報の提供を図った。 ・地域の文化、歴史の掘り起こしを行い、親しまれる広報紙となっている。	A	【総括】 ・広報紙「椎名だより」を継続して発行することにより、地域情報誌の役割を果たし、親しまれている。 【課題】 ・コロナ禍での高齢者への情報提供が十分でなかった。						
【町内自治会数】 17町内自治会												
【高齢化率】 24.0%												
【地域の特徴】 田畑が多くある農村地域と古い住宅団地、新興住宅地が混在する町。全体の高齢化率は23.4%。局地的には30%を超えて高齢化が急速に進んでいる地域もある。												
② 子ども達の集いの場の提供・情報提供								4・10	児童の漢字パワーアップ向上のため、学校と地域及びPTAの連携によるボランティア活動を推進する。 また、地域伝承行事「羯鼓舞」の支援、「しいのみ祭」支援、食育授業支援(種まき、田植え、稲刈り、太巻き、稲の研究発表会)など、地域と児童との交流の場の創出や児童教育の支援を行う。	・「漢字パワーアップ」、「食育授業支援は、平成30年度～令和元年度は実施したが、令和2年度はコロナ禍の感染拡大防止のため中止となった。 ・地域伝承行事「羯鼓舞」は、計画期間中継続して実施した(令和2年度は感染予防対策を図りながら開催した)。 ・「しいのみ祭」(地域の方々から指導者となり、昔あそび、しめ縄作りなどの伝承文化を継承)は、計画期間中継続して実施した(令和2年度は感染予防対策のため学年ごとの開催となった)。 ・羯鼓舞等、学校行事には、社協理事は積極的に参加し、成果を上げている。	A	【総括】 ・学校と地域が連携した事業を実施し、児童の健全育成を図る役割を果たしている。 【課題】 ・「しいのみ祭」学年別の開催に対応するため、地区部会の支援のあり方が課題。
③ 高齢者が集う場の開設・拡充・情報提供								2・10	健康寿命延伸や介護予防、高齢者の社会的孤立を防ぐため、古市場団地を中心に「いきいきサロンに集まろう、話し合ってみよう、笑ってみよう、体を動かしてみよう」を合言葉に高齢者の集いの場を開催する。 また、椎名公民館ではふれあい食事を実施し、食を通じた高齢者同士の交流の場の開催を行う。	・ふれあいいきいきサロンは、平成30～令和元年度は予定どおり実施(年9回)したが、令和2年度は、コロナの影響で全て中止となった。 ・ふれあい食事は、平成30年度は予定どおり実施(年9回)したが、会場である椎名公民館が令和元年度の台風被害により使用不可となったことから、11月以降は活動が休止となった。	A	【総括】 ・「いきいきサロン」「ふれあい食事を」を通じて高齢者の交流の役割を果たしている。 【課題】 ・コロナ禍の中、開催にあたっては、新しい指導者が必要。
④ 障害者(児)が集う場の開設・拡充・情報提供								3・8・10	学校における福祉教育充実の支援を通じ、障害者の理解及び普及を促進し、地域の障害者や高齢者に目を向け率先して助け合っていく態度を育成する。	・平成30～令和元年度は、障害者理解の促進を図る講座を予定どおり実施し、オリパラへの認識向上を図った。 ・令和2年度は、コロナの影響で中止となった。	A	【総括】 ・学校と地域が連携した事業を実施し、児童の健全育成を図る役割を果たしている。 【課題】 ・継続して実施し、地区部会の果たす役割を高めること。
⑥ 地域と学校の交流								4・8	子どもは地域の宝であり、日々安全に過ごせるよう支援をしていかなければならない。地域住民みんなで子どもを見守っていくという考えで、通学時の見守り、学習支援、学校行事の参加、お年寄りとの対話に取り組む。	・地区部会が令和元年度から実施している福祉教育の出前講座は、令和2年度も継続して実施し、児童の健全育成を図った。	S	【総括】 ・事業開始から2年目となるが、学校・児童の意識の高まりを感じている。 【課題】 ・地区部会活動の柱として定着させ、実践化を図る。
⑦ 地域の行事への積極的参加の呼びかけ	9	地域の高齢者の健康診断、相談の場を開設し、病気の予防、健康管理、運動を通して健康寿命を維持する活動を推進する。あんしんケアセンター鎌取、健康課と連携し、地域に出向いての巡回健康相談会(健康相談、健康診断、介護予防体操、悩み事相談等)を開催する。	・平成30～令和元年度は、町内自治会、あんしんケアセンター鎌取、健康課と連携して地域に出向いての巡回健康相談会を実施した。令和2年度は、コロナの影響で中止となった。 ・令和元年度にわくわくヘルスアップ椎名(緑区健康課)の啓発コーナーへの協力を行った。これは、啓発事業として効果があった。	S	【総括】 ・町単位の出張相談会のため、高齢者が参加しやすく、好評を得ている。 【課題】 ・コロナ禍の中での健康維持の普及のあり方。							
⑳ 見守り活動の推進	1	古市場団地で行われている見守り活動への支援や民児協と連携した歳末慰問活動を実施し、高齢者の孤独死防止や社会的孤立の防止に寄与する。	・計画期間中、古市場団地で見守り活動を継続して行った。令和2年度は、感染予防対策として訪問の見守りは自粛し、外からの見守りを継続した。また、訪問に変わる活動として、地域情報等を掲載した「お元気ですか通信」を作成し、見守り対象者に配布した。好評を得ている。 ・定例会を年6回(2ヶ月に1回)開催し、見守り活動の状況把握に努めた。令和2年度は月1回実施し、一層の情報交換に努めた。 ・自治会との連携は十分とれなかった。活動は低調であった。	B	【総括】 ・ひとり暮らし高齢者が安心して暮らせる地域社会の構築に寄与している。 【課題】 ・ボランティアの不足、見守りに対する住民意識が十分ではない。							
㉑ ボランティアの確保	7	地域では介護支援、木々の伐採、部屋の片づけ、買物等、身近なボランティアが必要である。椎名地区では、ペットボトルキャップ回収等のボランティア活動を行い、地域に社会的参加の意義を高めていく。	・刈田子町では、ゴミステーションにペットボトル回収袋を設置し、年3回の回収を行った。また、大金沢町でも継続的に活動を実施している。令和2年度から、新たに富岡町が活動を開始した。 ・組織的な活動はないが、近隣の互助による助け合い活動は行われている。	A	【総括】 ・1町内会が新たにペットボトルキャップの回収活動を開始。他の地域の拡大を図りたい。 【課題】 ・ボランティア活動への参加意識は十分ではない。							

コロナの感染予防対策を取り実施できる活動を無理のない範囲で実施する。

緑区支え合いのまち推進計画の推進状況
(平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S: 目標を上回った。
A: 概ね目標を達成した。(8～10割)
B: 一部目標を達成した。(5～7割)
C: 大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組テーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性		
土気地区部会エリア 【人口・世帯数】 44,564人・21,517世帯 【町内自治会数】 46町内自治会 【高齢化率】 29.5% 【地域の特徴】 4中学校区からなる地区であるため高齢化の進み方も地域にばらつきがある。できる限り新旧住民が協調できる事業の進め方をしている。	③ 高齢者が集う場の開設・拡充・情報提供	2・10	<ul style="list-style-type: none"> ・新たなサロンの開設(休止しているサロンの再開も含む)の推進と既存サロンの取組の拡充を図る。 ・各活動の参加率の向上を目指すとともに、参加者及び支援者の増員を目指す。 ・サロン同士での情報交換を密にし、より効果的な体制づくりに努める。 ・地域に集う場のない地域からの参加を容易に受け入れる体制づくりに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度～令和元年度は、いきいきサロン、ふれあい食事サービス、散歩クラブ等、既存の活動については概ね計画通り実施できた。令和2年度の活動は、コロナ禍の中、社協のガイドラインに基づき、可能な範囲の活動を実施した。 ・重点目標の設定により現状分析や課題の把握はいろいろな折に行われてきたので推進員の理解も深まりつつあり、具体的な取組みもみられるようになった。 ・いきいきサロン、散歩クラブについては未設置地区での活動の立ち上げに向けた働きかけを行った。 ・いきいきサロンでの好評な活動の集約し、各サロンで活用するためのファイル作りを行った。 ・散歩クラブはコースの工夫により、内容の充実を図った。 ・散歩と並行して行える地域に役立つ取組みを検討した。 ・ふれあい食事サービスは食器の購入による多彩な献立作りにより、内容の充実を図った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・サロンを開設した地区がある一方、休止に追い込まれた地区がある。参加者が高齢化、固定化した地区の抱える課題に対する対応が不可欠である。 ・マンネリ化している活動を魅力ある活動に改善して参加率を高める。 ・高齢化が進んでいる会員と支援者の活力づくりと世代交代を可能にするためにも会員と支援者の新規募集法を工夫する。 ・開設地区に片寄りがある。未設置地区の参加希望者を隣接する会場で受け入れる体制づくり及び新設する要件の理解と働きかけを工夫する。 	コロナの感染予防対策を取り実施できる活動を無理のない範囲で実施する。		
			⑭ 助け合い活動の推進	7	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の具体的な困り事を定期的な調査結果などを足掛かりに把握するとともに、活動の必要性と対応を地域ケア会議等で働き掛ける。 ・助成があるゴミ出し支援などの活動を足掛かりに軽作業などの取組みに拡充していく。 ・抱える問題を申告しやすい土壌づくりに努める。 ・他地区での活動開始に向けた支援を推進していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の3団体(「大木戸台シニア支援の会(大木戸台自治会エリア)」、「大椎台助け合いの会(大椎台自治会エリア)」、「おおかぶ会(越智はなみずき台エリア)」)は、それぞれの特性に応じて確実に実績をあげている。 ・「大木戸台シニア支援の会」では、令和元年度から地域の空き家を借り上げ、そこを拠点に様々なイベントを行う等、新たな活動も開始された。 ・「大木戸台シニア支援の会」「大椎台助け合いの会」の定例会議に参加し、会の運営に協力している。 ・広報紙や各種会合で既存団体の活動状況を紹介し、新たな地区での取組みを働きかけたが、今のところ顕著な動きには繋がっていない。 		B	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の3団体は確実に実績をあげているが、対象とする区域は狭い。一方、高齢化率が進んでいる地域が多く、高齢者が困り事をいろいろと抱えているのは明らかである。共助としての助け合い活動を3地区以外にも広めていくことが不可欠である。 ・推進役、支援役としての推進員の参加も3地区在住者が中心で推進員全体の役割分担が不明確である。未設置地区の担当者を決め、開設につながる情報の収集に努めるようにする。
			⑮ 外出困難者への支援	9・10	<ul style="list-style-type: none"> ・外出困難者を定期的な調査結果などを足掛かりに把握していく。 ・買い物支援や通院支援の必要性と対応について地域ケア会議等で働き掛ける。 ・抱える問題を申告しやすい土壌づくりに努める。 ・他地区での活動開始に向けた支援を推進していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大椎台とはなみずき台に加えて、大木戸台が外出困難者への支援を開始するようになったことが何よりも実績である。 ・「大木戸台シニア支援の会」、「大椎台自治会」に推進役、支援役として協力をし活動状況の把握に努めた。同じく越智はなみずき台で外出支援を行っている「おおかぶ会」の活動状況の把握にも努めた。 ・地域内で活動している福祉有償運送団体が活動終了となったことに伴い、代行手段の検討を行ってきたが有効な方法を見出せなかった。 ・買物支援サービスに協力いただいている福祉施設の感染予防対策のため、活動が中断している。 ・コロナ禍の中、各種会議等が中止となり、他地区への活動開始に向けた働きかけを行う機会が設けられないでいる。 		C	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物支援や通院支援を単独で組織化していくことには多くの制約があり困難がある。 ・3団体が支え合い活動で取上げているように単独ではなく支え合い活動の一つとして位置付けていく。 ・民間の移動販売等は外出困難者にとっては助けとなるので、先行手段として位置付けていくことにする。 ・高齢化が進んだ地域がありながら買い物や通院の送迎に取り組む地域が少なすぎるので拡大に努める。
			⑯ 見守り活動の推進	1	<ul style="list-style-type: none"> ・一人暮らしで孤立気味の高齢者を定期的な調査結果などを足掛かりに把握する。 ・活動の必要性と対応について地域ケア会議等で働き掛ける。 ・抱える問題を申告しやすい土壌づくりに努める。 ・他地区での活動開始に向けた支援を推進していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3団体(「あすみ見守り隊(あすみが丘第1自治会エリア)」、「大椎台地域福祉委員会(大椎台自治会エリア)」、「大木戸台シニア支援の会(大木戸台自治会エリア)」)の取組みは着実に進行しているが対象者が施設に入所したりして減少傾向にある。 ・「あすみ見守り隊(あすみが丘第1自治会エリア)」、「大椎台地域福祉委員会(大椎台自治会エリア)」の定例会等に参加し、推進役、支援役として参加協力を行った。 		S	<ul style="list-style-type: none"> ・見守りとゴミ出しの同時推進も効果的であるので、各地区で取り組んでいる防犯パトロールなどと組み合わせた見守り活動のあり方も検討することとする。 ・孤立化の防止だけでなく、日常生活上の困り事を少しでも解決して安心づくりと交流づくりにも努める。 ・支援役としての推進員は対象区域在住者が中心である。他の推進員を未設置地区の担当者として開設につながる情報の収集に努めるようにする。

緑区支え合いのまち推進計画の推進状況 (平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1 見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S: 目標を上回った。
A: 概ね目標を達成した。(8～10割)
B: 一部目標を達成した。(5～7割)
C: 大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性
おゆみ野地区部会エリア 【人口・世帯数】 47,224人・22,944世帯 【町内自治会数】 64町内自治会 【高齢化率】 14.5% 【地域の特徴】 街びらきして30年。まだ住宅開発が続いている地区だが、30年前に開発された地域は高齢化が目立ってきている。見守り活動等は一部自治会が取り組んでいる。	② 子ども達の集いの場の提供・情報提供	4・10	住民全体で「子どもは地域で育てる」という意識をもち、子どもたちの集いの場の提供・情報提供、地域と学校との交流等、青少年育成委員会やボランティア団体等と連携しながら推進していく。 令和元年度は、中学生の居場所づくりへの支援についても推進していく。	・平成30年度～令和元年度については、計画されていた活動は、一部天候や災害、新型コロナウイルス等の影響により中止となったものもあったが、概ね計画通り実施できた。 また、各小学校と福祉委員が協力し、子どもたちに昔遊びを伝承する機会を設けた。 ・令和元年度は有吉中にて中学生の居場所づくり「放課後カフェ」を実施し、年3回開催した。 ・令和2年度は、コロナウイルス感染拡大で子育てサロンは開催できず、また、駅伝やウォークラリーも中止となった。	S	コロナの感染拡大下でも実施可能な事業及び方法を検討する。	コロナの感染予防対策を取り実施できる活動を無理のない範囲で実施する。
	③ 高齢者が集う場の開設・拡充・情報提供	2・10	「ふれあいいきいきサロン」や「ふれあい散歩クラブ」等、高齢者の集う場の設置を推進する。 令和元年度は、事業の内容の充実を図り魅力あるサロンや散歩クラブの展開を目指す。	・平成30年度～令和元年度については、「いきいきサロン」や「散歩クラブ」、「健康講座」等、計画されていた活動は、一部天候や災害、新型コロナウイルス等の影響により中止となったものもあったが、概ね計画通り実施できた。 ・令和2年度は、大人数で行うふれあいいきいきサロンは開催できず、また、講座等についても密は避けられないため中止とした。「散歩」については1度のみ実施した。	A	コロナの感染拡大下でも実施可能な事業及び方法を検討する。	
	④ 障害者(児)が集う場の開設・拡充・情報提供	3・8・10	既に実施している「楽しみ会」、「おしゃべり会」等のイベントを通じて障害者との交流を図るとともに、障害者(児)が楽しめる催しの開催を推進する。 また、交流を通じ地域の障害者に対する理解を深めるとともに、地域全体での「心のバリアフリー化」を進める。	・平成30年度～令和元年度については、障害者(児)とその家族が参加できる「お楽しみ会」を年2回、障害者をもつ家族の方が自由にお話ができる「おしゃべり会」を年4回開催し、地域住民と障害者(児)やその家族とが交流し、障害に対する理解を深めた。 ・令和2年度は、コロナ禍のため「お楽しみ会」は中止したが、いつも参加している71名、4団体にクリスマスカードを送った。また、「おしゃべり会」は2度開催した。	A	コロナの感染拡大下でも実施可能な事業及び方法を検討する。	
	⑤ 子育ての中の親や子どもが集う場の開設・拡充	4・10	発育、発達、しつけ等、子育てへの不安や悩みなどを抱える親に対して、保健福祉センター等と協力し、相談会、講習会等を開催する。 子育て中の親や子どもが集い、仲間づくりができる場(ふれあい子育てサロン)を拡充する。	・平成30年度～令和元年度については、「ふれあい子育てサロン」を3会場(おゆみ野公民館・鎌取CC・緑保健福祉センター)で開催した。緑区健康課と連携し内容の充実を図ったり、ボランティアスタッフの勉強会を実施する等の自己研鑽も行った。 ・令和2年度は、コロナ禍で子育てサロンを実施できなかった。	A	コロナの感染拡大下でも実施可能な事業及び方法を検討する。	
	⑭ 助け合い活動の推進	7	既に実施している2団体の支援を行うとともに、各種会合の場で活動の必要性を訴えかけていく。	・活動中の2団体については活発に活動しており、地域に定着しつつあるが新たな地域での活動はなかった。 ・令和2年度は、訪問を伴う活動は実施しなかった。	B	コロナの感染拡大下でも実施可能な事業及び方法を検討する。	
	⑮ 見守り活動の推進	1	一人暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯、また体に障がいのある方などの見守りを希望する人に対して、民生委員、地域住民による訪問・声かけ等を行う。 また、社会的孤立を防ぐため、挨拶運動など、住民同士が日常生活の中で無理なく行える見守り活動を実施する。	・おゆみ野地区の民生委員が、75歳以上約1,800世帯を個別訪問し、安否確認を行った。また、民生児童委員でさりげない見守り活動も行った。令和2年度はコロナ禍のため訪問活動は自粛となった。 ・各小中学校(9校)での障害者(児)の見守り、登校時のあいさつ運動を行った(民生委員、青少年育成委員会が連携)。	A	引き続き連携を強化する。	
	⑰ 健康づくり支援	5	ラジオ体操やシニアリーダー体操等、健康を維持していくための活動を推進していく。緑区健康課やあんしんケアセンターの協力等も得て、推進していきたい。	・地区部会で実施している「いきいきサロン」の中に健康体操を取り入れる等、健康寿命の延伸や介護予防の推進に努めた。令和2年度は、コロナ禍のため「いきいきサロン」を実施できなかった。	B	コロナ禍にあって、支援の方法について再検討する必要がある。	

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況(平成30年度～令和2年度)

主な成果	・地域住民が地域の課題を把握し、自らが策定した地域福祉計画の「共助」を中心とした活動を検討・実施して地域課題の解決に努めた。課題解決にあたっては、あんしんケアセンター・社協区事務所・行政も相談支援・活動支援を行い協力することができた。
今後の課題	・新旧住民間の融合、子育て世帯と高齢者世帯との交流 ・エレベーターが設置されていない中層集合住宅の住民の外出困難、ひきこもり ・支え合い活動等の担い手不足 ・活動拠点の確保 ・コロナ禍における新型コロナウイルス感染症拡大防止に対応した活動等の検討

令和3年度の取組の方向性	・計画の継続性と新型コロナウイルス感染拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第4期の計画を継続して取り組んでいきたい。
--------------	---

◆取組みテーマ別達成状況

【達成状況の目安】 S:目標を上回った。 B:一部目標を達成した。(5～7割)
A:概ね目標を達成した。(8～10割) C:大きく目標を下回った。(～4割)

取組みテーマ	重点取組項目数	達成状況	主な取組み実績
1 見守りの仕組みづくり	9	S 1 A 7 B 1 C 0	幸町2丁目地区部会エリアでは、幸町2丁目地区部会が実施する支え合い活動「幸町2丁目地区 支え合いの会」が準備期間を経て令和2年6月に発足した。幕張西地区部会エリアの「見守り活動」では、新たに1自治会で見守り活動を開始した(13/15自治会)。稲毛海岸地区部会エリア・打瀬地区部会エリアでは、民生委員の協力を得ながら「あんしんカード」の活用を進めている。
2 高齢者を支える仕組みづくり	12	S 1 A 6 B 5 C 0	幸町一丁目地区部会エリアでは、地域支え合い型通所支援「幸町一丁目 健康プラザ」を令和2年10月から活動開始し、地区部会主催のサロンと併せて高齢者の交流の場の拡大を推進している。
3 障害者を支える仕組みづくり	6	S 0 A 5 B 1 C 0	幸町2丁目地区部会エリアでは、地域カフェ(カフェさいわい)・体操教室・3サロン合同ポッチャ交流会を実施し、障害に関する理解を深めながら他のサロン参加者との交流を図り、サロン参加への呼びかけも行った。
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり	6	S 0 A 4 B 2 C 0	高洲・高浜地区部会エリアでは、地区部会と高洲コミュニティセンターとの共催で「地域支え合い講座」「認知症講座」を開催した。また、地域での子どもと大人・高齢者との世代間交流の場として「こどもフェスタ」「ネイチャーゲーム」を今後も引き続き実施していく。
5 健康づくり	2	S 1 A 0 B 1 C 0	磯辺地区部会エリアでは、健康づくり教室を自治会集会所20ヶ所で実施し、地域の子どもから高齢者まで老若男女が参加した。また、スポーツ振興会が主催する磯辺地区全体を対象とした運動会(バドミントン・卓球・野球等)を実施した。
6 防犯・防災に対する取組み	0	S 0 A 0 B 0 C 0	
7 担い手の拡大とボランティアの促進	4	S 0 A 2 B 2 C 0	磯辺地区部会エリアでは、33地区連協27自治会中10自治会が「支え合い活動」をスタートさせている。現在も役員会で検討中の自治会や実施すべきか検討している自治会に対して説明を行い、地域住民による支え合い活動の実施に向けて今後も粘り強く理解を求めていく。
8 福祉教育・啓発	3	S 1 A 2 B 0 C 0	幸町一丁目地区部会エリアでは、新たな担い手の発掘と住民にできるだけ外出の機会を提供することを目的に「ボランティア講座」を4回開催している。なお、当該講座では高齢者対象のみならず、児童母子対象の講座も盛り込んでいる。磯辺地区部会エリアでは、地域内小学校児童・中学校生徒と、地域の高齢者・障害者との交流を図り、互いを理解できるような福祉の心の醸成を培う活動を進めている。
9 地域のつながりづくり	9	S 0 A 6 B 3 C 0	稲毛海岸地区部会エリアにおいて、草刈りや自治会館付近での声かけを実施したり、電話でサロンへの参加を呼びかけた。また、稲毛海岸地区部会が主催する「ふれあい食事サービス」の後に稲毛公民館とタイアップした市外の「民謡・三味線演奏サークル」を招いて鑑賞しながら交流を深め、社協地区部会活動の周知・普及にも努めた。打瀬地区部会エリアでは、東京オリンピック・パラリンピックの開催地としてのおもてなしの一環(折鶴を選手村に贈呈)として公民館と共催してサロンで製作した。
10 相談支援体制と情報提供の充実	1	S 0 A 1 B 0 C 0	真砂地区部会エリアでは、地域運営委員会ホームページの活用・広報紙・チラシ等の媒体を活用して多くの関係団体の情報が掲載され、さらに真砂地区部会が発行する地区部会だより「真砂ふれあいだより」を補完する役割も果たし、地域住民に広く情報提供をすることができた。
合計	52	S 4 A 33 B 15 C 0	

◆コロナ禍における好事例等

<p>幸町一丁目地区部会 ふれあい食事サービス「テイクアウト方式」の開始</p> <p>★ 幸町一丁目地区部会では、コロナ禍になる前より実施していた「ふれあい食事サービス」を、コロナ禍(緊急事態宣言解除中)でも実施できるよう「会食形式」から「テイクアウト方式」に開催方法を変更して実施。会食形式でなくても、利用者(地域の65歳以上の高齢者)が食事(お弁当)を受け取る会場まで来ることにより、閉じこもりの防止と安否確認(見守り)ができた。 <紹介記事調> 幸町一丁目地区部会では、コロナ禍になる前より「ふれあい食事サービス」として障害者就労移行支援施設で調理されたお弁当(昼食)を地区の集会所(幸町1丁目 千葉ガーデンタウン管理センター内 他)にて地域の65歳以上の高齢者を対象に(希望者)食事会を実施(会食形式)していました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止のため楽しみにしていた食事会は中止を余儀なくされました。地区部会の主催者の方たちは、高齢者の方たちが楽しみにしている食事会を何とか実施しようと検討を重ねた結果調理されたお弁当(昼食)を希望者(地域の65歳以上の高齢者)が会場まで取りに来る「テイクアウト方式」という方法で再開させました。利用者が食事(お弁当)を受け取る会場まで取りに来ることにより、閉じこもりの防止と安否確認(見守り)もできるようになりました。</p>
<p>幕張西地区部会 ふれあい・子育てサロン「ひよこの会」子育て関連情報の貼り出し(掲示)の実施</p> <p>★ 幕張西地区部会では、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から月に1回開催してきた子育てサロンの開催を自粛した。しかし、コロナ禍であっても子育て中の母親等、保護者の方が子育てに関する情報を必要としていることから、これまで会場としていた幕張西公民館の協力を得て正面入口の玄関の窓のところに離乳食のレシピや行政からの子育てに関する情報等を紙で貼り出す活動を実施した。 <紹介記事調> 幕張西地区部会では、地区内の就学前の乳幼児とその保護者を対象とした、友達づくりと育児に関する情報交換を目的とした子育てサロンを実施しています。これまで月に1回開催してきた子育てサロンでしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催中止を余儀なくされ、昨年度は開催できませんでした。しかし、コロナ禍であっても子育て中の母親等、保護者の方にとっては育児に対する不安や分からないこともあり、様々な情報が必要とされていることから、子育てに関する情報だけでも提供しようと、これまで会場としていた幕張西公民館の協力を得て正面入口の玄関の窓のところに離乳食のレシピや行政からの子育てに関する情報等を紙で貼り出す活動を実施しました。</p>

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況 (平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S: 目標を上回った。
A: 概ね目標を達成した。(8～10割)
B: 一部目標を達成した。(5～7割)
C: 大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性
稲毛海岸地区部会エリア	① 顔の見えるご近所づきあいの構築	2,3,4,9	顔見知りの関係を構築	昨年に引き続き、稲浜公民館とのタイアップ事業による住民交流を促進する企画を立てていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止による自粛で実施できなかった。緊急事態宣言解除後にふれあい食事サービスを「会食」から「配食」に切り替えることの検討を行ったが、コロナの状況が落ち着かず、リスクが高いことから事業再開は延期し、終息後の再開に備えることとした。 各町内自治会単位で、新しい生活様式に合わせてコロナ禍でも実施できるようガイドラインを遵守し感染対策を取った「気にかける」見守り的な活動について実施している自治会もある。	A	〔総括〕 ・概ね当初の取組目標を達成しているものの、自治会単位での見守り活動については浸透できていない。 〔課題〕 ・1丁目の稲毛団地、3丁目のUR団地、4丁目の戸建てエリアは古くからの住民が多く高齢化が進んでいるが、一方で5丁目は大規模な住宅開発により子育て世代が増している状況である。このため、新旧住民の融合、子育て世帯と高齢世帯の交流に課題がある。 ・稲毛海岸エリア全域(自治会ごと)で見守りネットワークの構築を目指しているが、一部の自治会に留まっている。	計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第4期の計画を継続して取り組んでいく。
				稲毛海岸3丁目団地において「稲三サポートの会」が発足し見守り活動を実施した。ほか3自治会での実施を目指したが、新型コロナウイルス感染症拡大により、活動実施までには至らなかった。 他方、以前全戸に配布した「安心カード」が今日でも更新しながら活用され、自治会単位で実施されている見守り活動においても自然的に支え合い活動に発展してきており「ちょこっとボランティア」等として活動が始まっている。	B		
				地域カフェ(カフェさいわい)、体操教室、3サロン合同ボッチャ交流会を実施し、他のサロン参加者との交流を深めたり、サロン参加への呼びかけを行った。 最終年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催することができず、開催場所の変更等の検討を重ねるまでに留まった。	A		
				幸町2丁目地区部会主体の幸町2丁目地区 支え合いの会・UR幸町団地の生活支援アドバイザー・あんしんケアセンター幸町等と、見守り活動(安否確認)についての周知活動等について連携を図り、住民への周知活動も行った。	A		
幸町2丁目地区部会エリア	① 顔の見えるご近所づきあいの構築	2,3,4,9	顔見知りの関係を構築	支え合い活動実施に向けた地域住民ニーズアンケート調査の実施・集計・分析と作業部会・実行委員会での協議により、「幸町2丁目地区 支え合いの会」が6月に発足し、新型コロナウイルス感染症拡大防止に留意しながらゴミ出し支援等の活動を行い始めた。	S		
				平成30年度に近隣中学校や近隣住民を対象に地域が連携して主体となって認知症徘徊模擬訓練を実施した。隔年での実施を予定していたが、最終年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため認知症徘徊模擬訓練は中止とした。	B		
				「しょうじゅ美浜」のサ高住においてカフェを開設した。認知症の方だけに限定することなく地域住民の多くの方が立ち寄れる交流の場として実施。 最終年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため幸町2丁目地区部会主催の「ふれあいいきいきサロン」やしょうじゅ美浜が運営している「認知症カフェ」が活動自粛となり開催できず、活動再開のための検討までに留まった。	A		
				平成30年度は幸町2丁目連携ネットワーク会議において、幸町団地歯科クリニックが参加した。最終年度はコロナ禍により連携会議は中止となったものの感染症拡大防止に留意しながら、あんしんケアセンター幸町・近隣医療機関等と連携しながら地域住民のためのケア体制整備に向けて、関係機関との情報共有に努めた。	B		
				要支援・要介護高齢者のケア体制の整備 【新規】	2,5	認知症徘徊模擬訓練 ・継続実施	
				要支援・要介護高齢者のケア体制の整備 【新規】	2	認知症カフェ ・設置	
要支援・要介護高齢者のケア体制の整備 【新規】	2	地域の医療機関との連携 ・連携体制の確立					
地区の北側は国道14号が東西に走り、東側は黒砂水路を挟んで幸町に、西側は真砂に接し、南側は高洲となる。埋め立て前は海岸線であった。集合住宅が多く立ち並ぶ地域であったが、近年は高層マンションや一戸建て住宅街も建設されている。	地区の東側に伸びる千葉中央港地区の土地造成・港湾地区計画により埋め立て・造成された地域。北側は旧海岸線沿いで稲毛区に接し、地区内はUR都市機構が整備した千葉幸町団地が大部分を占め、国道沿いには中高層マンションのほか、スーパー、飲食店舗、自動車関連店舗などが立地する。西端は黒砂水路を挟んで高洲・稲毛海岸地区となり、南側は京葉線を挟んで自動車関連事業所や食品コンビニートなどが集積する。						

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況 (平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S: 目標を上回った。
A: 概ね目標を達成した。(8～10割)
B: 一部目標を達成した。(5～7割)
C: 大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性
幸町一丁目地区部会エリア 【人口・世帯数】 8,621人 3,941世帯 【町内自治会数】 19町内自治会 【高齢化率】 25.9% 【地域の特徴】 東西に伸びる千葉中央港地区の土地造成・港湾地区計画により埋め立て・造成された地域。北側は旧海岸線沿いで、中央区登戸に接する。地区内は高層低層の集合住宅が大部分を占め、一部戸建て住宅があるほか、国道沿いには大型事業所も立地する。西端は道路を挟んでJR千葉みなと駅や千葉市役所などが立地する中央区千葉港地区となり、南側は京葉線を挟んで自動車関連事業所や食品コンビニなどが集積する。	① 顔の見えるご近所づきあいの構築	2,3,4,9	今以上に、各サロン間で交流し、得意な分野を提案し、お互いの参加者を増やす。	地域運営委員会(36地区連協・603地区民児協)が主体となり「幸町一丁目健康プラザ」として10月より月3回、「地域支え合い型通所支援事業」を開始。緊急事態宣言発出期間中を除き、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を取りながら実施している。 ※第1～第3月曜日	A	【総括】 ・概ね当初の取組目標は達成している。新型コロナウイルス感染症拡大防止により、一部活動の自粛や、感染症拡大防止に配慮した新しい方式で取組みを行った。 【課題】 ・地域の活動拠点として、地域住民の交流の場として活用していた「幸町1丁目ふれあい交流館」が令和2年度に廃止となったため、新たな活動拠点の確保が必要となっている。 ・地域包括ケアシステム構築に係る地域の役割や地域住民の参加(担い手)について協議・検討を進める必要がある。	計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第4期の計画を継続して取り組んでいく。
	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	1	ふれあい食事会実施会場 ・主会場 1か所 ・サテライト会場 3か所	主会場の他に、主会場まで来るのが難しい人のためにサテライト会場を2会場増設し、食事会開始前にはシニアリーダー体操も実施した。 最終年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に関するガイドライン等(注意事項)に留意しながら、ふれあい食事会の安否確認・交流の場としての重要性を鑑み、緊急事態宣言解除後に地区部会主催のふれあい食事サービスを「会食」から「配食(テイクアウト方式)」に切り替え実施した。	A		
	② 支え合い意識の醸成	8	福祉施設・団体と連携したボランティア講座の実施	平成30年度当初より「新たな担い手の発掘」と「住民にできるだけ外出の機会を提供」することを目的にボランティア講座を4回開催している。なお、高齢者対象のみならず、児童母子対象の講座も盛り込んでいる。 最終年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため講座の開催は中止とした。	A		
	② ボランティア人材の育成	7	地域資源等を活用したボランティア・福祉教育に関する講座を継続して実施し、地区部会活動に協力できるボランティアの養成を目指す。	地区部会と高洲コミュニティセンターの共催による「地域支え合い講座」「認知症講座」「防災講座」を実施し、認知症サポーターの養成や助け合い活動、担い手の必要性について周知を図った。	B		
高洲・高浜地区部会エリア 【人口・世帯数】 39,035人 19,013世帯 【町内自治会数】 29町内自治会 【高齢化率】 30.0% 【地域の特徴】 区のほぼ中央に位置し、JR京葉線稲毛海岸駅があり、駅前には大型商業施設があるほか、行政施設としてコミュニティセンター・図書館、金融機関などの機能が集積し、その周りをUR都市機構の集合住宅団地や民間マンションなどの住宅地区が取り囲んでいる。北は稲毛海岸(町名)、南側は高浜に接しており、東側は黒砂水路を挟んで幸町、西側は草野水路を挟んで真砂・磯辺に接している。 高浜地区は、海岸線に接しており、海辺には日本一の長さを誇る人工海浜や稲毛海浜公園が整備されている。隣接する高洲地区と連なった集合住宅団地の地区を形成するほか、西側に隣接する磯辺地区ほどではないが5丁目・6丁目にはまとまった戸建て住宅地区も存在する。	① 顔の見えるご近所づきあいの構築	2,3,4,9	全ての地域でのサロン開催	定期的なサロン開催には至らなかったが、地区部会と高洲コミュニティセンターの共催による「地域支え合い講座」「認知症講座」を実施した。また、「こどもフェスタ」や「ネイチャーゲーム」を引き続き開催していく。 最終年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためサロンの新規開設を計画どおりに開設させることはできなかった。しかし、コロナ禍でも開催できるよう、ガイドラインを遵守し感染対策を取った新しいサロンの形態について検討し実施した。	B	【総括】 ・概ね当初の取組目標を達成しているものの、新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により、一部取組みが実施できなかった。 【課題】 ・エリアの大部分を集合住宅が占めており、高浜エリアでは市営住宅地区を中心に外国人住民が多く、高洲エリアではUR団地を中心に高齢世帯の割合が高い。このため、高浜エリアにおいては、自治会の加入や運営にも支障が出ている。高洲エリアにおいてはエレベーターのない団地における外出困難者、認知症からの家賃未払いや引きこもり事案が進んでいる。 ・令和2年度、第29地区連協内において地域運営委員会が発足し、今後、各団体間の連携・協力体制の構築が課題となっている。 また、地域資源の活用について、引続き各自治会等と連携・調整する必要がある。 ・顔の見える近所づきあいの関係構築のため、様々な機会を活用し、イベント等への参加者を広く募る必要がある。 ・今後も継続して、「認知症サポーター養成講座」、「地域資源を活用した高齢者向け講座」を開催し、認知症への理解・支援を得ていく必要がある。	計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第4期の計画を継続して取り組んでいく。
	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	1	認知症サポーター養成講座・開催	平成31年度に地区部会と高洲コミュニティセンターの共催による「認知症講座」を実施した。 最終年度はコロナ禍で講座を実施するための検討は行ったが、人が集まることの感染リスクを考慮して実施は見送りとした。あんしんケアセンター等から認知症等についての情報提供があれば回覧・ポスティング等により周知を行い、つながりを保つよう心掛けている。	A		
	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネット」の構築	1	“孤立死ゼロ”に向けた仕組みの確立	令和元年11月に介護相談室隣接のコンビニ(ケアローン)がオープンした。同施設内にある地域交流スペースの有効活用等について、今後、当該コンビニを地区の交流の場として活用できるよう、協議を実施。生活支援コーディネーター・あんしんケアセンター・民児協・UR等とも連携して関わっていききたい。	A		
	② ボランティア人材の育成	7	地域資源等を活用したボランティア・福祉教育に関する講座を継続して実施し、地区部会活動に協力できるボランティアの養成を目指す。	地区部会と高洲コミュニティセンターの共催による「地域支え合い講座」「認知症講座」「防災講座」を実施し、認知症サポーターの養成や助け合い活動、担い手の必要性について周知を図った。	B		

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況 (平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S: 目標を上回った。
A: 概ね目標を達成した。(8～10割)
B: 一部目標を達成した。(5～7割)
C: 大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性			
真砂地区部会エリア	⑩ 地域での助け合い活動の推進	7.9	地域住民らによる支え合い活動「ささえあいまさご」の運営体制の強化を図るとともに、安定したサービスが提供できるようにする。	利用料金の見直しや旧子どもルーム跡地を拠点として活用することで財政面の負担を軽減した。真砂地区部会が主体となって実施している「ささえあいまさご」ではコロナ禍の状況の中においても、約400件の依頼実績があった。コロナ禍のため、協力員への研修会等の実施はできなかったが、新型コロナウイルスの感染対策を取りながら定期的にスタッフミーティング(情報交換会)を実施した。	B	〔総括〕 ・概ね当初の取組目標は達成している。新型コロナウイルス感染症拡大防止により、一部活動の自粛や、感染症拡大防止に留意して取組みを行った。 〔課題〕 ・エリア内に真砂地区部会が主催する地域支え合い活動「ささえあいまさご」があり、依頼件数は年々増加傾向にあるが外出支援(同行・移送)の活動が進んでいない状況であり、協力員不足に苦慮している。登録はしているが、平日等で活動可能な協力員が少なく、活動する協力員の固定化が見受けられる。また、対応しきれないケースも増加してきているため、民間事業所等の専門機関や他の社会資源を把握し、連携・活用していく必要がある。増加する依頼に対応するため、今後、様々な方法により協力員の確保と研修等による資質向上(スキルアップ)を図る必要がある。 ・引きこもりがちな高齢者(独居・夫婦)に対し、様々な機会や場所、方法により情報提供をしながら、いきいきサロン等への参加を促す必要がある。	計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第4期の計画を継続して取り組んでいく。			
【人口・世帯数】 24,683人、11,840世帯				⑬ 誰もが身近に得ることができ、分かりやすい情報の発信	10			地域運営委員会のホームページにおいて各団体の活動やイベントなどの情報を充実させるとともに、新しい情報を随時更新していく。	A	
【町内自治会数】 32町内自治会					⑭ 地域と連携した支援の推進【新規】			2.9	関係機関との連携による問題を未然に防止するような取組みの実施や課題解決に向けた取組みの実施及び、真砂地区部会エリア全域を対象とした地域ケア会議の実施。	A
【高齢化率】 31.4%										
【地域の特徴】 北は国道14号に接し、花見川区及び稲毛区、一部は稲毛海岸に隣接し、花見川を挟んで西は若葉、草野水路を挟んで東は高洲地区に接する。南はJR京葉線の線路を挟んで磯辺に接する。 区の東西の中央に位置した拠点地区であり、JR京葉線検見川浜駅付近から北側一帯に行政機関・商業施設などが集積されている。美浜区役所のほか美浜保健福祉センター・文化ホール複合施設、美浜消防署、真砂中央公園があるほか、千葉西警察署や西県税事務所などの県の機関も地区内に立地、駅周辺エリアには大型の商業施設や高層マンションが集まっている。										
磯辺地区部会エリア	⑩ 地域での助け合い活動の推進	7.9	27自治会中17自治会での支え合い活動の実施 見守り活動との併合についての協議	27自治会中10自治会が支え合い活動を実施。現在も役員会にて検討中の未実施の自治会や、今後実施すべきか検討している自治会に対して、実施に向けて粘り強く説明を行った。 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため定例会・会議等の開催は自粛したものの、必要に応じて個別に立上げに向けての説明支援や既実施自治会への相談支援を行った。	A	〔総括〕 ・概ね当初の取組目標は達成している。新型コロナウイルス感染症拡大防止により、一部活動の自粛や、感染症拡大防止に配慮した新しい方式で取組みを行った。 〔課題〕 ・自治会単位による「見守り活動」や「支え合い活動」をエリア内地域全体で積極的に取組んでいるが、見守り希望者、軽微で一時的な家事援助・外出支援等希望者等の潜在的なニーズについて、地域のあらゆる資源や機会を活用し掘り起こす必要がある。 ・町内自治会・集合住宅の集会所等でのサロン・茶話会等の開設に向けて、磯辺地域ルームの様々な活動団体等を活用して担い手の確保・他団体との連携等により交流の場の未設置地区解消のための検討をする必要がある。 ・エレベーターのない中層集合住宅の住民の外出困難、エリア内海岸側の社会資源(スーパー・コンビニなど)が少ない買物困難者等についての、生活支援サービス(地域住民による買い物支援・民間事業者による移動販売等)の充実化に向けた検討を行う必要がある。	計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第4期の計画を継続して取り組んでいく。			
【人口・世帯数】 18,085人、7,669世帯				⑫ 健康づくりイベント等への参加促進	5			1 健康づくり教室 自治会集会所 27箇所 2 健康づくりイベント 磯辺スポーツセンターでのイベント開催	S	
【町内自治会数】 29町内自治会					⑰ 支え合い意識の醸成			8	福祉施設・団体と連携したボランティア講座の実施	A
【高齢化率】 36.7%										
【地域の特徴】 JR京葉線検見川浜駅及び京葉線の線路の手前まで、西は花見川を挟んで打瀬に接し、東は草野水路を挟んで高浜に接する。 駅の南側周辺には中高層マンションや団地が建ちならび、UR都市機構の磯辺第一団地等の大規模な団地がある。その外側には、定住性の高い戸建の住宅地が海に向かって広がっており、中高層の団地・マンションなどが立ち並ぶ。海岸の手前には県立磯辺高校、県立千葉西高校があり、県救急医療センター、海浜病院などの公的機関が存在する。										
	⑱ 支え合い意識の醸成	8	磯辺小学校・磯辺第三小学校と高齢者との交流会や磯辺中学校の生徒の高齢者疑似体験を継続して実施するとともに、疑似体験以外の新たな福祉教育のメニューも実施する。	S						

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況 (平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S: 目標を上回った。
A: 概ね目標を達成した。(8～10割)
B: 一部目標を達成した。(5～7割)
C: 大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性
幕張西地区部会エリア	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネットの構築」	1	未実施となっている自治会へ新たに見守り活動を働きかけ(15/15自治会)	幕張西地区部会エリア内において15自治会のうち、13自治会が見守り活動を実施した。 最終年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止により各会議については開催自粛・延期となり、年1回の見守りコーディネーター定例会の開催に留まった。 見守り活動から発展した支え合い活動を実施させている自治会も出始めてきており、支え合い活動の立ち上げについても、今後社協・あんしんケアセンター・生活支援コーディネーター等と連携を図りながら進めていく予定である。	A	〔総括〕 ・概ね当初の取組目標は達成している。新型コロナウイルス感染症拡大防止により、一部活動の自粛や、感染症拡大防止に配慮した新しい方式で取組みを行った。 〔課題〕 ・新旧の住居が混在していることから高齢化率の差が起き、福祉活動への意識に対して差が生じ始めてきている。	計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第4期の計画を継続して取り組んでいく。
【人口・世帯数】							
【町内自治会数】	⑦ 町内自治会・集合住宅の集会所など地域資源を活用した交流の場づくり	2,3,4,9	集会所を活用したサロンの開設	サロンの新規開設を目指したが、現状維持が適当なことや新型コロナウイルス感染症拡大防止により、会場となる共用施設が利用禁止になっていたり、関係機関との会議調整がつかなかったこともあり、計画どおりに新規サロンの開設を行えなかった。 しかし、コロナ禍でも開催できるよう、ガイドラインを遵守し感染対策を取った体操の実施や新しいサロンの形態について検討し実施した。	B	・県営団地の高齢化が顕著となっている。 ・見守り活動の未実施自治会への働きかけを引続き行っていく必要がある。 ・見守り活動がスタートした自治会やコーディネーター・協力員等の支援として、情報交換の機会を充実させる必要がある。	
【町内自治会】							15町内自治会
【高齢化率】	⑧ ボランティア人材の育成	7	ボランティア活動について理解と関心を深める講座の継続的実施(年3回実施)	地区部会主催で年間3回のボランティア講座を開催し、地区部会活動や地域のボランティア活動についての理解を深めた。講座参加者の中から調理ボランティアへとつなげることもできた。また、新たな担い手を発掘するため、若い世代を巻き込めるような新しいボランティア講座を検討した。 最終年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため講座の開催による福祉人材の確保(ボランティア人材の育成・担い手養成)は中止とし、声掛けにより担い手確保に努めた。現状の地区部会役員・活動者(スタッフ)に対し、行政・社会福祉協議会主催の研修会の参加案内を行いモチベーションの維持・情報共有による連携の維持を図った。	A		
【地域の特徴】						区の北西端に位置した国道14号と東関東自動車道との間に広がる住宅地域。 浜田川を挟んで東側は花見川区幕張町、国道14号を挟んで北側は花見川区幕張本郷、西側は習志野市、南側は浜田に接している。 国道沿いにはゴルフ練習施設のほか、商業店舗が立ち並んでいるほかは、戸建て住宅地域が広がっている。 国道14号より海側はかつての海岸線であるが、幕張西地区よりも埋め立ての時期が早かった地域については花見川区幕張町に編入されている。	

美浜区支え合いのまち推進計画の推進状況 (平成30年度～令和2年度)

【取組みテーマ】1見守りの仕組みづくり 2 高齢者を支える仕組みづくり 3 障害者を支える仕組みづくり
4 こどもと子育てを支援する仕組みづくり 5 健康づくり 6 防犯・防災に対する取組み
7 担い手の拡大とボランティアの促進 8 福祉教育・啓発 9 地域のつながりづくり
10 相談支援体制と情報提供の充実

【達成状況の目安】
S: 目標を上回った。
A: 概ね目標を達成した。(8～10割)
B: 一部目標を達成した。(5～7割)
C: 大きく目標を下回った。(～4割)

地区部会エリア	重点取組項目	取組みテーマ	第4期(平成30年度～令和2年度)の目標	第4期(平成30年度～令和2年度)の実績	達成状況	第4期の総括・今後の課題	令和3年度の取組の方向性
打瀬地区部会エリア 【人口・世帯数】 25,643人、9,073世帯 【町内自治会数】 24町内自治会 【高齢化率】 8.6% 【地域の特徴】 東側は花見川、西側・南側は幕張海浜公園、北側はJR京葉線の線路に囲まれた幕張新都心地区の高層マンション地区。 他の幕張新都心地区と同様に県企業庁により計画的に整備され、沿道中庭式の中層住宅を中心に、石畳風の道路舗装やデザインされた信号機などヨーロッパ風の街並み景観で統一されている。 中心部には図書館と公民館の複合施設である「ペイタウンコア」があり、各種活動の中心となっているほか、プロムナードやバレンタイン通り沿いの住戸を中心に1階には幕張ペイタウン商店街振興組合の店舗が軒を連ねている。 平成24年にはシーサイドデッキが完成し、海沿いの幕張海浜公園・幕張の浜エリアへの動線が確保され、海がより近い存在となった。	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネットの構築」	1	継続して安心カードの普及に努める	これまで民生委員の協力により、安心カードが浸透してきた。最終年度は、安心カード普及の中心的役割を担っていた民生委員活動が、新型コロナウイルス感染症拡大防止により、活動の自粛・高齢者実態調査の中止を余儀なくされ、安心カードの普及までには至らず、住民への周知までに留まった。	A	〔総括〕 ・概ね当初の取組目標は達成している。新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により、一部活動の自粛や、感染症拡大防止に配慮しながらの取組みを行った。 〔課題〕 ・自治会によって地域活動への参画について意識差があるため、地域福祉活動の連携・広がりが見えない状況にある。引続き、地域活動の必要性・参画について理解促進を図る必要がある。 ・若年層は他のエリアに比べ多い方だが、高齢者のいる世帯は日中高齢者が一人になる世帯が多い。 ・マンションの大半がオートロック・二重ロック機能となっているため、民生委員・地域住民等による訪問(見守り・安否確認)が困難であり、高齢者の孤立が危惧される。 ・地域福祉活動を継続させるためには、担い手の確保が重要であり、現在のボランティアの中心的世代である団塊の世代の次の世代のボランティア確保に向けた具体的な方法を検討する必要がある。 ・本計画の重点取組項目について、地区部会が主体となる項目と、地域運営委員会が主体となる項目をすみ分けつつ、連携・協力していく必要がある。	計画の継続性と新型コロナウイルス感染症拡大防止による活動自粛により実施できなかった事業・活動を補完していくため、第4期の計画を継続して取り組んでいく。
	③ “みんなで”支え合う「あんしん支え合いネットの構築」	1	継続して啓発活動を行う	地区部会長と民児協会長が見守り活動等について自治会役員・管理組合役員と懇談を行い、街区への啓発活動を継続して実施した。また、社協 地区部会活動の紹介を行い、地域福祉活動への理解と社協会員募集の案内を行った。 最終年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止により、自治会役員・管理組合役員等との各種会議の自粛が余儀なくされ、住民への啓発活動としての周知拡大までには至らなかった。	A		
	⑦ 町内自治会・集合住宅の集会所など地域資源を活用した交流の場づくり	2,3,4,9	街区の集会所を拠点としたサロンの充実	美浜区が東京オリンピック・パラリンピックの会場になることから開催地としてのおもてなしの一環として、折り鶴を選手村に持参するプロジェクトを公民館と共催で企画し、サロン等で製作した。 新型コロナウイルス感染症拡大防止による会議等の自粛のため、新規街区サロンの立ち上げについて、検討を行うまでに留まった。	A		
	⑩ 要支援・要介護高齢者のケア体制の整備【新規】	2	地域運営委員会を中心に、関係団体が連携し、地域課題に取り組んでいく。	地域運営委員会定例会において、本計画について確認するとともに、関係団体で地域課題の共有を図った。 最終年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止により会議等を自粛したため実施することができなかった。	B		
	⑩ 要支援・要介護高齢者のケア体制の整備【新規】	2	認知症の方・家族の方が気軽に参加できる居場所づくりを目指す	「打瀬地区部会」が認知症の家族会「そよかぜの会」を立ち上げた。 最終年度「そよかぜの会」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に関するガイドライン等(注意事項)に留意しながら、10月より活動を再開し、年度内に3回実施した。	S		